

2022年度

講義計画と内容

教育学研究科

【注意事項】

UTAS (<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>) の内容と相違がある場合には、UTASの内容を正としてください。

2022年3月17日
2022年3月30日 更新

目 次

I. 2022年度 大学院教育学研究科授業日程	1
II. 教育学研究科の成績評価基準について	2
III. 試験時の不正行為について	3
IV. レポート作成時の留意点について	4
V. 授業科目表	5
VI. 講義内容（シラバス）	
総合教育科学専攻	
基礎教育学専修	
基礎教育学コース	18
教育社会科学専修	
比較教育社会学コース	48
生涯学習基盤経営コース	85
大学経営・政策コース	108
心身発達科学専修	
教育心理学コース	123
臨床心理学コース	153
身体教育学コース	185
学校教育高度化専攻	
教職開発コース	211
教育内容開発コース	235
学校開発政策コース	261
vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	283
viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧	293
ix. 地図	294

2022年度 教育学研究科 授業日程

【入学ガイダンス】	4月1日(金)(※大学経営・政策コースは2日(土))		
【S1S2】		【A1A2】	
授業期間	4月4日(月) ～ 7月29日(金)	授業期間	10月3日(月) ～ 1月30日(月)
S1S2修了試験	7月15日(金)、19日(火)、20日(水)、21日(木)、25日(月)(※大学経営・政策コースは16日(土))	A1A2修了試験	1月17日(火)、18日(水)、19日(木)、27日(金)、30日(月)(※大学経営・政策コースは28日(土))
補講・集中講義	7月22日(金)、26日(火)～29日(金) (※大学経営・政策コースは23日(土))	補講・集中講義	1月24日(火)～26日(木)
授業振替日	4月25日(月)は金曜日の授業を行う。 4月28日(木)は火曜日の授業を行う。	授業休止日	11月17日(木)全日:駒場祭前日準備 11月18日(金)全日:駒場祭 11月21日(月)午前:駒場祭後片付け 1月13日(金)全日:大学入学共通テスト準備
授業休止日	4月12日(火)全日:東京大学記念日(入学式) 5月13日(金)午後:五月祭準備	休日授業実施日	10月10日(月):スポーツの日 11月3日(木):文化の日
※5月27日(金)午前、30日(月)、31日(火)、6月1日(水)はS1科目の補講日のため、S1S2の授業を休止する。		※11月21日(月)午後、22日(火)、28日(月)はA1科目の補講日のため、A1A2の授業を休止する。	
【S1】		【A1】	
授業期間	4月4日(月) ～ 6月2日(木)	授業期間	10月3日(月) ～ 11月28日(月)
S1修了試験	5月20日(金)午前、23日(月)、24日(火)、25日(水)、27日(金)午後、6月2日(木) (※大学経営・政策コースは5月28日(土))	A1修了試験	11月14日(月)、15日(火)、16日(水)、24日(木)、25日(金)(※大学経営・政策コースは26日(土))
補講・集中講義	5月27日(金)午前、30日(月)、31日(火)、6月1日(水)	補講・集中講義	11月21日(月)午後、22日(火)、28日(月)
授業振替日	4月25日(月)は金曜日の授業を行う。 4月28日(木)は火曜日の授業を行う。	授業休止日	11月17日(木)全日:駒場祭前日準備 11月18日(金)全日:駒場祭 11月21日(月)午前:駒場祭後片付け
授業休止日	4月12日(火):東京大学記念日(入学式) 5月13日(金)午後:五月祭準備	休日授業実施日	10月10日(月):スポーツの日 11月3日(木):文化の日
【S2】		【A2】	
授業期間	6月3日(金) ～ 7月29日(金)	授業期間	11月29日(火) ～ 1月30日(月)
S2修了試験	7月15日(金)、19日(火)、20日(水)、21日(木)、25日(月)(※大学経営・政策コースは16日(土))	A2修了試験	1月17日(火)、18日(水)、19日(木)、27日(金)、30日(月)(※大学経営・政策コースは28日(土))
補講・集中講義	7月22日(金)、26日(火)～29日(金) (※大学経営・政策コースは23日(土))	補講・集中講義	1月24日(火)～26日(木)
【夏季休業】	8月1日(月) ～ 9月30日(金)	授業休止日	1月13日(金)全日:大学入学共通テスト準備
【夏期集中講義】	8月1日(月) ～ 9月2日(金)	【冬季休業】	12月29日(木) ～ 1月3日(火)
		【春季休業】	1月31日(火) ～ 3月31日(金)

【2022年度 修士論文日程】

修士論文題目届提出期間	11月24日(木) ～ 12月1日(木)
修士論文提出期間	1月5日(木) ～ 1月11日(水)
修士論文要旨提出期間	1月5日(木) ～ 1月12日(木)

【授業時間割】

午前	第1時限	08時30分 ～ 10時15分
	第2時限	10時25分 ～ 12時10分
午後	第3時限	13時00分 ～ 14時45分
	第4時限	14時55分 ～ 16時40分
	第5時限	16時50分 ～ 18時35分
	第6時限	18時45分 ～ 20時30分

2022年度 教育学研究科 授業日程

【Sセメスター授業等日程】

- 授業期間 4月4日(月)～7月29日(金)
- 授業振替日 4月25日(月)は月曜日の授業を行わず、金曜日の授業を行う。
4月28日(木)は木曜日の授業を行わず、火曜日の授業を行う。
- 授業休止日 4月12日(火)全日:東京大学記念日(入学式)
5月13日(金)午後:五月祭準備

【S1S2科目】

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	AM	4/4	4/11	4/18	5/2	5/9	5/16	5/23	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/25
	PM														
火曜日	AM	4/5	4/19	4/26	4/28	5/10	5/17	5/24	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19
	PM														
水曜日	AM	4/6	4/13	4/20	4/27	5/11	5/18	5/25	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20
	PM														
木曜日	AM	4/7	4/14	4/21	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21
	PM														
金曜日	AM	4/8	4/15	4/22	4/25	5/6	5/13	5/20	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15
	PM						5/20	5/27							
土曜日	AM	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16
	PM														

- 補講・集中講義日 7月22日(金)、26日(火)～29日(金)(※大学経営・政策コースは23日(土))
- ※5月27日(金)午前、30日(月)、31日(火)、6月1日(水)はS1科目の補講日のため、S1S2の授業を休止する。

【S1科目】

2コマ連続		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回 修了試験							
月曜日	AM	4/4	4/11	4/18	5/2	5/9	5/16	5/23							
	PM														
火曜日	AM	4/5	4/19	4/26	4/28	5/10	5/17	5/24							
	PM														
水曜日	AM	4/6	4/13	4/20	4/27	5/11	5/18	5/25							
	PM														
木曜日	AM	4/7	4/14	4/21	5/12	5/19	5/26	6/2							
	PM														
金曜日	AM	4/8	4/15	4/22	4/25	5/6	5/13	5/20							
	PM						5/20	5/27							
土曜日	AM	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/21	5/28							
	PM														
週2コマ		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月・木曜日	AM	4/4	4/7	4/11	4/14	4/18	4/21	5/2	5/9	5/12	5/16	5/19	5/23	5/26	6/2
	PM														
火・金曜日	AM	4/5	4/8	4/15	4/19	4/22	4/25	4/26	4/28	5/6	5/10	5/13	5/17	5/20	5/24
	PM											5/17	5/20	5/24	5/27

- 補講・集中講義日 5月27日(金)午前、30日(月)、31日(火)、6月1日(水)

【S2科目】

2コマ連続		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回 修了試験							
月曜日	AM	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/25							
	PM														
火曜日	AM	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19							
	PM														
水曜日	AM	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20							
	PM														
木曜日	AM	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21							
	PM														
金曜日	AM	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15							
	PM														
土曜日	AM	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16							
	PM														
週2コマ		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月・木曜日	AM	6/6	6/9	6/13	6/16	6/20	6/23	6/27	6/30	7/4	7/7	7/11	7/14	7/21	7/25
	PM														
火・金曜日	AM	6/3	6/7	6/10	6/14	6/17	6/21	6/24	6/28	7/1	7/5	7/8	7/12	7/15	7/19
	PM														

- 補講・集中講義日 7月22日(金)、26日(火)～29日(金)(※大学経営・政策コースは23日(土))

【Aセメスター授業等日程】

- 授業期間10月3日(月)～1月30日(月)
- 冬季休業12月29日(木) ～ 1月3日(火)
- 授業休止日11月17日(木)全日:駒場祭前日準備
11月18日(金)全日:駒場祭
11月21日(月)午前:駒場祭後片付け
1月13日(金)全日:大学入学共通テスト準備
- 休日授業実施日10月10日(月):スポーツの日
11月3日(木):文化の日

【A1A2科目:授業日程】

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	AM	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	12/5	12/12	12/19	12/26	1/16	1/23	1/30
	PM														
火曜日	AM	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/10	1/17
	PM														
水曜日	AM	10/5	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9	11/16	11/30	12/7	12/14	12/21	1/4	1/11	1/18
	PM														
木曜日	AM	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22	1/5	1/12	1/19
	PM														
金曜日	AM	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/11	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23	1/6	1/20	1/27
	PM														
土曜日	AM	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/26	12/3	12/10	12/17	12/24	1/7	1/21	1/28
	PM														

- 補講・集中講義日1月24日(火)～26日(木)
- ※11月21日(月)午後、22日(火)、28日(月)はA1科目の補講日のため、A1A2の授業を休止する。

【A1科目:授業日程】

2コマ連続		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回							
									修了試験						
月曜日	AM	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14							
	PM														
火曜日	AM	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15							
	PM														
水曜日	AM	10/5	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9	11/16							
	PM														
木曜日	AM	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/24							
	PM														
金曜日	AM	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/11	11/25							
	PM														
土曜日	AM	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/26							
	PM														
週2コマ		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月・木曜日	AM	10/3	10/6	10/10	10/13	10/17	10/20	10/24	10/27	10/31	11/3	11/7	11/10	11/14	11/24
	PM														
火・金曜日	AM	10/4	10/7	10/11	10/14	10/18	10/21	10/25	10/28	11/1	11/4	11/8	11/11	11/15	11/25
	PM														

- 補講・集中講義日11月21日(月)午後、22日(火)、28日(月)

【A2科目:授業日程】

2コマ連続		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回							
									修了試験						
月曜日	AM	12/5	12/12	12/19	12/26	1/16	1/23	1/30							
	PM														
火曜日	AM	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/10	1/17							
	PM														
水曜日	AM	11/30	12/7	12/14	12/21	1/4	1/11	1/18							
	PM														
木曜日	AM	12/1	12/8	12/15	12/22	1/5	1/12	1/19							
	PM														
金曜日	AM	12/2	12/9	12/16	12/23	1/6	1/20	1/27							
	PM														
土曜日	AM	12/3	12/10	12/17	12/24	1/7	1/21	1/28							
	PM														
週2コマ		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月・木曜日	AM	12/1	12/5	12/8	12/12	12/15	12/19	12/22	12/26	1/5	1/12	1/16	1/19	1/23	1/30
	PM														
火・金曜日	AM	11/29	12/2	12/6	12/9	12/13	12/16	12/20	12/23	12/27	1/6	1/10	1/17	1/20	1/27
	PM														

- 補講・集中講義日1月24日(火)～26日(木)

教育学研究科の成績評価基準について

本研究科の成績評価は、以下の基準に基づいて行なわれます。

評価	基 準
優	授業の科目目標となっている課題を十分に満たす、優秀な学習・研究成果を示した。
良	授業の科目目標となっている課題を満たす学習・研究成果を示した。
可	授業の科目目標となっている課題に関して、ある程度の学習・研究成果を示した。
不可	授業の科目目標となっている課題に関して、評価できる学習・研究成果を示すことができなかった。

試験時の不正行為について

1. 筆記試験による場合

試験は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。

不正行為を行ったと認められた者は、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

2. 平常点による場合

授業中に不正行為を行ったと認められた者も、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

3. レポートによる場合

科目によっては学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。その際、教員から特別な指示がない限り、レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他の文章やデータ、URL を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効と判定されるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。またレポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も、同様に取り扱われる。

レポート作成時の留意点について

レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他者の文章やデータ、Web 上の情報等を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効となるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点が無効とされ、学生処分の対象となる。また、レポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も同様に取り扱われる。

(2) 教育学研究科授業科目表

〔 自 2022年4月
至 2023年3月 〕

総合教育科学専攻 基礎教育学専修

基礎教育学コース

【備考欄の＊印は、基礎教育学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-211-01	教育哲学基本研究	教育哲学演習Ⅰ	教授	山名 淳	2	S1S2		*2
23-211-02	教育人間学基本研究	教育思想演習	教授	小玉 重夫	2	S1S2		*2
23-211-03	教育人間学基本研究	教育人間学基本演習	准教授	片山 勝茂	2	S1S2		*2
23-211-04	教育史基本研究	日本教育史演習Ⅰ	教授	小国 喜弘	2	S1S2		*2
23-211-05	教育史基本研究	高等教育・研究の歴史Ⅰ	教授	隠岐 さや香	2	S1S2		*2
23-211-06	教育臨床学基本研究	教育臨床学基本演習	教授	田中 智志	2	S1S2		*2
23-211-07	教育臨床学基本研究	臨床現象学Ⅰ	准教授	大塚 類	2	S1S2		
23-211-08	基礎教育学特殊研究	基礎教育学総合演習	教授 教授 教授 教授 准教授 准教授	田中 智志 小玉 重夫 山名 淳 小国 喜弘 隠岐 さや香 片山 勝茂 大塚 類	2	通年	* 隔週	*2
23-211-09	教育哲学特殊研究	教育哲学演習Ⅱ	教授 非常勤講師	山名 淳 Markus Rieger- Ladich	2	A1A2		*2
23-211-10	教育人間学特殊研究	教育政治学演習	教授	小玉 重夫	2	A1A2		*2
23-211-11	教育人間学特殊研究	教育人間学特殊研究	准教授	片山 勝茂	2	A1A2		*2
23-211-12	教育史特殊研究	日本教育史演習Ⅱ	教授	小国 喜弘	2	A1A2		*2
23-211-13	教育史特殊研究	高等教育・研究の歴史Ⅱ	教授	隠岐 さや香	2	A1A2		*2
23-211-14	教育史特殊研究	教育思想史特殊講義Ⅴ	非常勤講師	山内 紀幸	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-211-15	教育臨床学特殊研究	教育臨床学演習	教授	田中 智志	2	A1A2		*2
23-211-16	教育臨床学特殊研究	臨床現象学Ⅱ	准教授	大塚 類	2	A1A2		
23-211-17	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-18	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-19	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	教授	小玉 重夫	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-20	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	教授	小玉 重夫	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-21	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-22	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-23	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	

23-211-24	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-25	教育史論文指導	西洋教育史論文指導	教授	隠岐 さや香	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-26	教育史論文指導	西洋教育史論文指導	教授	隠岐 さや香	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-27	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	教授	田中 智志	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-28	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	教授	田中 智志	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-29	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-30	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 教育社会科学専修

比較教育社会学コース

【備考欄の*印は、比較教育社会学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-212-01	教育社会学基本研究	現代日本社会における教育・仕事・家族	教授	本田 由紀	2	S2		*2
23-212-02	教育社会学基本研究	市民社会・国家・教育	教授	仁平 典宏	2	A2		*2
23-212-03	高等教育論基本研究	高等教育の社会学Ⅰ	非常勤講師	朴澤 泰男	2	S1S2		*2
23-212-04	比較教育システム論基本研究	教育社会学の諸概念	教授	中村 高康	2	S1		*2
23-212-05	比較教育システム論基本研究	教育社会学方法論研究	教授	三輪 哲	2	A1A2		*2
23-212-06	教育社会学特殊研究	教育社会学の研究課題	教授	本田 由紀	2	A1A2		*2
23-212-07	教育社会学特殊研究	教育言説の社会学	教授	仁平 典宏	2	S1		
23-212-08	教育社会学特殊研究	障害の社会理論を読む	教授	星加 良司	2	S1S2		
23-212-09	教育社会学特殊研究	教育社会の計量分析	教授	佐藤 香	2	S1S2		*2
23-212-10	教育社会学特殊研究	格差・不平等研究のための社会的埋め込み論	准教授	石田 賢示	2	A1A2		
23-212-11	教育社会学特殊研究	Ethnicity, Nationalism and Education	非常勤講師	高橋 史子	2	A1A2		
23-212-12	教育社会学特殊研究	エスノメソドロジー・会話分析の方法	非常勤講師	小宮 友根	2	A2	集中講義(A2)	
23-212-13	高等教育論特殊研究	高等教育の社会学Ⅱ	非常勤講師	村澤 昌崇	2	A1	集中講義(A1)	*2
23-212-14	比較教育システム論特殊研究	教育と選抜の諸問題	教授	中村 高康	2	A1A2		*2
23-212-15	比較教育学特殊研究	質的方法論研究	准教授	額賀 美紗子	2	A1		*2
23-212-16	比較教育学特殊研究	グローバル時代の国際移動と教育	准教授	額賀 美紗子	2	A2		

23-212-17	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-18	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-19	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	仁平 典宏	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-20	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	仁平 典宏	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-21	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	星加 良司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-22	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	星加 良司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-23	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-24	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-25	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	三輪 哲	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-26	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	三輪 哲	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-27	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	准教授	石田 賢示	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-28	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	准教授	石田 賢示	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-29	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	客員教授	橋本 鉦市	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-30	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	客員教授	橋本 鉦市	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-31	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-32	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-33	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	額賀 美紗子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-34	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	額賀 美紗子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-35	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	客員教授	恒吉 僚子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-36	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	客員教授	恒吉 僚子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育学専攻 教育社会科学専修

生涯学習基盤経営コース

【備考欄の*印は、生涯学習基盤経営コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-213-01	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅱ	教授	牧野 篤	2	S1		*2
23-213-02	図書館情報学基本研究	図書館情報学研究方法論	教授	影浦 峯	2	S1S2		*2
23-213-03	図書館情報学基本研究	図書館情報学総合研究	教授	影浦 峯	2	通年	隔週	
23-213-04	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅱ	教授	李 正連	2	A1		*2
23-213-05	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅰ	准教授	新藤 浩伸	2	A2		*2
23-213-06	社会教育学特殊研究	プログラム評価論	非常勤講師	安田 節之	2	8-9月	集中講義(8-9月)	*2

23-213-07	社会教育学特殊研究	比較生涯学習論	非常勤講師	堀本 麻由子	2	A1A2		
23-213-08	図書館情報学特殊研究	情報媒体構造論	教授	影浦 峯	2	A1A2		*2
23-213-09	図書館情報学特殊研究	図書館情報学理論研究	准教授	河村 俊太郎	2	S1S2		*2
23-213-10	図書館情報学特殊研究	図書館情報学特別講義	客員准教授	池内 淳	2	A1A2		
23-213-11	図書館情報学特殊研究	デジタルドキュメント論	非常勤講師	阿辺川 武	2	S1S2		
23-213-12	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-13	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-14	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	李 正連	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-15	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	李 正連	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-16	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-17	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-18	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峯	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-19	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峯	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-20	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-21	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-22	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員准教授	池内 淳	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-23	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員准教授	池内 淳	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 教育社会科学専修

大学経営・政策コース

【備考欄の*印は、大学経営・政策コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-214-01	大学経営政策基本研究	高等教育論	教授	阿曾沼 明裕	2	S2		*2
23-214-02	大学経営政策基本研究	高等教育政策論	教授	阿曾沼 明裕	2	A1A2		*2
23-214-03	大学経営政策基本研究	大学経営政策演習(1)	教授 教授 教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子	2	通年	隔週	*2
23-214-04	大学経営政策基本研究	大学経営政策研究	教授 教授 教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子	2	通年	* 隔週	*2
23-214-05	大学経営政策基本研究	比較大学論	教授	福留 東土	2	A1A2		*2
23-214-06	大学経営政策基本研究	大学経営論	教授	両角 亜希子	2	S1		*2

23-214-07	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(3)	教授 客員教授	福留 東土 深堀 聰子	2	S1S2		*2
23-214-08	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(4)	教授 客員教授	両角 亜希子 林 隆之	2	A1A2		*2
23-214-09	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(1)	非常勤講師	大多和 直樹	2	8-9月	* 集中講義(8-9月)	*2
23-214-10	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(2)	非常勤講師	濱中 義隆	2	A1A2		*2
23-214-11	大学経営政策特殊研究	比較大学経営論(2)	教授	福留 東土	2	S2	集中講義(S2)	*2
23-214-12	大学経営政策特殊研究	大学経営事例研究(1)	教授	両角 亜希子	2	通年	不定期開講(詳細は揭示等参照)	*2
23-214-13	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 教授 教授 客員教授 客員教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子 栗田 佳代子 深堀 聰子 林 隆之	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-214-14	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 教授 教授 客員教授 客員教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子 栗田 佳代子 深堀 聰子 林 隆之	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

教育心理学コース

【備考欄の*印は、教育心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-215-01	教授・学習心理学基本研究	教授・学習過程の心理学Ⅰ	准教授	清河 幸子	2	S1S2		
23-215-02	発達心理学基本研究	感情と進化・文化	教授	遠藤 利彦	2	S1S2		*2
23-215-03	発達心理学基本研究	ことばと認知の発達Ⅰ	教授	針生 悦子	2	S1S2		*2
23-215-04	教育認知科学基本研究	創造的認知の心理学Ⅰ	教授	岡田 猛	2	S1S2	合併科目(学際情報学府)	*2
23-215-05	教育情報科学基本研究	心理統計学演習	准教授	岡田 謙介	2	S1S2		
23-215-06	教育情報科学基本研究	心理統計学特論	准教授	岡田 謙介	2	A1A2		
23-215-07	教授・学習心理学特殊研究	教授・学習過程の心理学Ⅱ	准教授	清河 幸子	2	A1A2		
23-215-08	発達心理学特殊研究	関係性と子どもの社会情緒的発達	教授	遠藤 利彦	2	A1A2		*2
23-215-09	発達心理学特殊研究	ことばと認知の発達Ⅱ	教授	針生 悦子	2	A1A2		*2
23-215-10	教育認知科学特殊研究	創造的認知の心理学Ⅱ	教授	岡田 猛	2	A1A2	合併科目(学際情報学府)	*2
23-215-11	教育情報科学特殊研究	量的研究法	准教授	宇佐美 慧	2	S1S2		
23-215-12	教育情報科学特殊研究	心理統計学の近年の展開	准教授	宇佐美 慧	2	A1A2		
23-215-13	教育情報科学特殊研究	心理測定のための数学的道具	非常勤講師	前川 眞一	2	S1S2		
23-215-14	教育情報科学特殊研究	統計調査法概論	非常勤講師	土屋 隆裕	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-215-15	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	清河 幸子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	

23-215-16	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	清河 幸子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-17	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-18	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-19	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-20	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-21	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-22	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-23	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-24	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-25	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-26	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-27	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-28	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-29	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-30	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

臨床心理学コース

【備考欄の*印は、臨床心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-216-01	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅰ)	教授 講師	能智 正博 野中 舞子	1	S1S2	* 修士2年必須	*5
23-216-02	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅱ(心理実践実習Ⅱ)	教授 講師	能智 正博 野中 舞子	1	A1A2	* 修士2年必須	*5
23-216-03	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理学特論Ⅰ	講師	野中 舞子	2	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-04	臨床心理システム論基本研究	臨床心理学特論Ⅱ	教授	高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-05	臨床心理システム論基本研究	臨床心理面接特論Ⅱ	教授	能智 正博	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-06	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	准教授	滝沢 龍	2	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-07	発達臨床心理学基本研究	臨床心理査定演習Ⅱ	准教授 教授	滝沢 龍 高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-08	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理基礎実習Ⅰ	教授 講師	高橋 美保 野中 舞子	1	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-09	発達臨床心理学基本研究	臨床心理基礎実習Ⅱ	教授 教授	高橋 美保 能智 正博	1	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-10	発達臨床心理学基本研究	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	教授	高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-11	臨床心理カリキュラム論特殊研究	臨床心理学研究法	教授 准教授	能智 正博 滝沢 龍	2	S1S2		*2

23-216-12	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント基礎(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	教授	高橋 美保	2	S1S2	*(ただし、GCLコース生は可) 隔年で開講。2023年度は開講しない。	*5
23-216-13	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント応用(心の健康教育に関する理論と実践)	講師	野中 舞子	2	A1A2	*(ただし、GCLコース生は可) 隔年で開講。2023年度は開講しない。	
23-216-14	臨床心理カリキュラム論特殊研究	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	客員教授	原田 隆之	2	S2	*集中講義(S2) 隔年で開講。2023年度は開講しない。	
23-216-15	発達臨床心理学特殊研究	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	准教授	滝沢 龍	2	A1A2		*2
23-216-16	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅠ	非常勤講師	田中 究	2	S1S2	*	*2
23-216-17	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅡ	非常勤講師	田中 究	2	A1A2	*	*2
23-216-18	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅢ	非常勤講師	林 潤一郎	2	S1S2	*	
23-216-19	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅣ	非常勤講師	林 潤一郎	2	A1A2	*	
23-216-20	発達臨床心理学特殊研究	障害学演習	教授	福島 智	2	A1A2		*2
23-216-21	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-22	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-23	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	客員教授	原田 隆之	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-24	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	客員教授	原田 隆之	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-25	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-26	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-27	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-28	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-29	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-30	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-31	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	教授	福島 智	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-32	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	教授	福島 智	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント基礎(福祉分野に関する理論と支援の展開)	—	—	2	—	*(ただし、GCLコース生は可) 隔年で開講。2022年度は開講しない。	
	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント応用(教育分野に関する理論と支援の展開)	—	—	2	—	*(ただし、GCLコース生は可) 隔年で開講。2022年度は開講しない。	
	臨床心理システム論特殊研究	コミュニティアプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	—	—	2	—	* 隔年で開講。2022年度は開講しない。	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

身体教育学コース

【備考欄の*印は、身体教育学コース所属学生のみ履修可】

時間割コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単位数	開講時期	備考	教職課程認定区分(教科)
23-217-01	身体教育科学基本研究	身体教育科学の諸問題Ⅰ	教授	野崎 大地	2	S1S2		*7
23-217-02	教育生理学基本研究	身体システム論Ⅰ	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	S1S2	合併科目(新領域創成科学研究科)	*7
23-217-03	発達脳科学基本研究	発達脳科学特論Ⅰ	教授	多賀 厳太郎	2	S1		*7
23-217-04	健康教育学基本研究	健康教育学の諸問題Ⅰ	教授 教授	佐々木 司 東郷 史治	2	S1S2		*6
23-217-05	身体教育科学特殊研究	身体教育科学の諸問題Ⅱ	教授	野崎 大地	2	A1A2		*7
23-217-06	身体教育科学特殊研究	スポーツ脳科学特論	客員教授	柏野 牧夫	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-217-07	教育生理学特殊研究	身体システム論Ⅱ	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	A1A2	合併科目(新領域創成科学研究科)	*7
23-217-08	教育生理学特殊研究	日常生活下調査から認知・行動変容までの教育・健康科学応用	客員准教授	菊地 裕絵	2	A2		
23-217-09	発達脳科学特殊研究	発達脳科学特論Ⅱ	教授	多賀 厳太郎	2	A1		*7
23-217-10	健康教育学特殊研究	健康教育学の諸問題Ⅱ	教授 教授	佐々木 司 東郷 史治	2	A1A2		*6
23-217-11	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-12	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-13	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-14	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-15	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	客員教授	柏野 牧夫	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-16	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	客員教授	柏野 牧夫	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-17	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-18	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-19	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	東郷 史治	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-20	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	東郷 史治	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

23-217-21	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	客員准教授	菊地 裕絵	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-22	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	客員准教授	菊地 裕絵	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-23	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-24	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-25	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-26	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

教職開発コース

【備考欄の*印は、教職開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-301-01	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・基礎研究)	授業研究の理論と方法	教授	藤江 康彦	2	S1		*1
23-301-02	教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)	授業における学習研究	准教授	一柳 智紀	2	A1		*1
23-301-03	教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)	保育学研究	准教授	野澤 祥子	2	A1A2	隔週	*3
23-301-04	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・発展研究)	教職経験の研究	教授	浅井 幸子	2	S1		*3
23-301-05	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	なってみる学びと教師教育	非常勤講師	渡辺 貴裕	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-06	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	グローバル化する教育実践	非常勤講師	林 寛平	2	S1S2	隔週・合併科目(教育内容 開発コース・学校開発政策 コース)	*3
23-301-07	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-08	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-09	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	生涯学習時代の美術教育における鑑賞のデザイン	客員教授	杉浦 幸子	2	S2	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-10	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教育法の現代的課題	非常勤講師	小泉 広子	2	A1A2	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-11	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教育政策の比較政治学的分析	非常勤講師	坂部 真理	2	A1	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-12	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	授業の事例研究	准教授	一柳 智紀	2	A2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-13	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	教職の事例研究	教授	浅井 幸子	2	S2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-14	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	教科教育の心理学的事例研究	教授	藤村 宣之	2	S1S2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-15	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	教科学習の事例研究	教授	北村 友人	2	A1	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-16	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	授業の実地研究	教授	藤江 康彦	2	A1A2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-17	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	斎藤 兆史	2	A1A2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-18	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	藤江 康彦	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	

23-301-19	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	藤江 康彦	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-20	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	浅井 幸子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-21	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	浅井 幸子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-22	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	准教授	一柳 智紀	2	A1A2	* 修士課程のみ	
23-301-23	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	准教授	一柳 智紀	2	A1A2	* 博士課程のみ	
23-301-24	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	レッスンスタディと教師研究	教授 助教	浅井 幸子 草薨 佳奈子	2	A2	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3

学校教育高度化専攻

教育内容開発コース

【備考欄の*印は、教育内容開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-302-01	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・基礎研究)	数学的・科学的思考の発達と学習過程	教授	藤村 宣之	2	A1		*1
23-302-02	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	英語教授法	教授	斎藤 兆史	2	S1S2	合併科目(総合文化研究 科)	*1
23-302-03	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts	教授	北村 友人	2	A1	合併科目(新領域創成科学 研究科・総合文化研究科)	*3
23-302-04	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*1
23-302-05	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-06	教育内容開発・理論研究 (芸術教育・発展研究)	生涯学習時代の美術教育 における鑑賞のデザイン	客員教授	杉浦 幸子	2	S2	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	
23-302-07	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	Research Methods in Education	非常勤講師	荒木 啓史	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-302-08	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	なってみる学びと教師教育	非常勤講師	渡辺 貴裕	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-09	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	グローバル化する教育実践	非常勤講師	林 寛平	2	S1S2	隔週・合併科目(教職開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-302-10	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教育法の現代的課題	非常勤講師	小泉 広子	2	A1A2	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-11	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教育政策の比較政治学的 分析	非常勤講師	坂部 真理	2	A1	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*1
23-302-12	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教科教育の心理学的事例 研究	教授	藤村 宣之	2	S1S2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-13	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教科学習の事例研究	教授	北村 友人	2	A1	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-14	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	授業の事例研究	准教授	一柳 智紀	2	A2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-15	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教職の事例研究	教授	浅井 幸子	2	S2	合併科目(教職開発コース)	*1

23-302-16	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	斎藤 兆史	2	A1A2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-17	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	授業の実地研究	教授	藤江 康彦	2	A1A2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-18	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	教授	斎藤 兆史	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-19	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	教授	斎藤 兆史	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-20	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-21	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-22	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	教授	北村 友人	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-23	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	教授	北村 友人	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-24	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	客員教授	杉浦 幸子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-25	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	客員教授	杉浦 幸子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-26	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	レッスンスタディと教師研究	教授 助教	浅井 幸子 草薨 佳奈子	2	A2	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3

学校教育高度化専攻

学校開発政策コース

【備考欄の*印は、学校開発政策コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-303-01	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・基礎研究)	現代学校改革の諸問題	教授	勝野 正章	2	S1S2		*1
23-303-02	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	教育政策基礎論	准教授 准教授	村上 祐介 橋野 晶寛	2	S1S2		*3
23-303-03	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	教育法の現代的課題	非常勤講師	小泉 広子	2	A1A2	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-04	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策研究方法論Ⅱ	准教授	橋野 晶寛	2	A1A2		*1
23-303-05	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策の比較政治学 的分析	非常勤講師	坂部 真理	2	A1	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-06	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	なってみる学びと教師教育	非常勤講師	渡辺 貴裕	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-07	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	グローバル化する教育実践	非常勤講師	林 寛平	2	S1S2	隔週・合併科目(教職開発 コース・教育内容開発コース)	*3
23-303-08	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-09	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-10	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	生涯学習時代の美術教育 における鑑賞のデザイン	客員教授	杉浦 幸子	2	S2	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-11	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)	教育行政事例研究Ⅱ	准教授	村上 祐介	2	8-9月	集中講義(8-9月)	*1
23-303-12	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・事例研究)	学校経営実践の開発Ⅱ	教授	勝野 正章	2	A1		*3

23-303-13	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・実地研究)	学校経営実地研究	教授	勝野 正章	2	A1A2		*1
23-303-14	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育行政実地研究	准教授	村上 祐介	2	A1A2		
23-303-15	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育政策実地研究	准教授	橋野 晶寛	2	A1A2		
23-303-16	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-17	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-18	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	准教授	村上 祐介	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-19	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	准教授	村上 祐介	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-20	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-21	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-22	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	LESSNSスタディと教師研究	教授 助教	浅井 幸子 草薨 佳奈子	2	A2	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3

共通科目

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-214-15	共通科目	大学教育開発論	教授	栗田 佳代子	2	S1S2	研究科規則第6条2項及び 第7条2項における他コース 科目と同様の扱いとする。	
23-214-16					2	S1S2	隔週。 本科目は同一の内容を4回 実施する。	
23-214-17					2	A1A2	本科目は1回のみ履修と し、年度に関わらず複数回 履修することはできない。 「Teaching Development in Higher Education in English」は本科目とは別の 科目として履修できる。	
23-214-18					2	A1A2		
23-214-19	共通科目	Teaching Development in Higher Education in English	教授 非常勤講師	栗田 佳代子 Gabriel Hervas	2	S1S2	研究科規則第6条2項及び 第7条2項における他コース 科目と同様の扱いとする。 隔週。 本科目は1回のみ履修と し、年度に関わらず複数回 履修することはできない。 「大学教育開発論」は本科 目とは別の科目として履修 できる。	

教育研究創発国際卓越大学院

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-901-01	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修 Ⅰ	－	各教員	1	その他	WINGS-CERプログラム生限 定。 研究科規則第6条2項及び 第7条2項における他コース 科目と同様の扱いとする。	
23-901-02	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修 Ⅱ	－	各教員	1	その他	WINGS-CERプログラム生限 定。 研究科規則第6条2項及び 第7条2項における他コース 科目と同様の扱いとする。	
23-901-03	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修 Ⅲ	－	各教員	1	その他	WINGS-CERプログラム生限 定。 研究科規則第6条2項及び 第7条2項における他コース 科目と同様の扱いとする。	

教職課程認定区分(教科)	記号
中高専修(本学で認定されている課程の教科すべて)	*1
中専修社会・保健体育・保健、高専修地歴・公民・保健体育	*2
小専修、中専修社会、高専修地歴・公民	*3
小専修	*4
中専修社会、高専修公民	*5
中専修保健、高専修保健	*6
中専修保健体育、高専修保健体育	*7

時 間 割 コー ド	23-211-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学基本研究				
講 義 題 目	教育哲学演習Ⅰ Seminar in Educational PhilosophyⅠ				

授 業 の 目 標・概 要	「アーキテクチャ」と「メディア」を鍵概念として教育および「形成」（自己形成と文化形成との共起的現象）について論じるためことはいかにして可能だろうか。本授業では、このことに関するテキストを選定し、受講生とともにその内容を検討する本授業を通じて、受講生は(1)教育哲学・思想史の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)「アーキテクチャ」および「メディア」を鍵として現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。
授 業 計 画	教科書として指定した文献の各章ごとに担当受講生を決めて報告を行っていただく。その内容をもとにしてディスカッションを行う。また、教科書以外の関連文献を授業担当者もしくは受講生自身が選定し、その内容を検討することによって、議論のさらなる展開について考える。上級者においては、個人の研究関心を本授業の問題関心とかわらせつつ、関連文献を紹介し、議論の発展可能性について考察を行う。
授 業 の 方 法	授業担当者によるイントロダクションの後、各章担当受講生による報告（あるいは授業担当者もしくはゲスト・スピーカーによるレクチャー）を行う。その後、まず受講生はリアクションペーパーに各自の感想を記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。ディスカッションの形式（グループ討議か全体討議か）については受講生数によりあらためて判断する。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者はそれを持ち帰り、次の授業においてそれに対するコメントを行い、次の内容へと向かう。
成 績 評 価 方 法	平常点（毎時授業の出席状況および議論への貢献度）および担当報告の総合評価とする（前者 50 パーセント、後者 50 パーセント）。
教 科 書	山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2015年
履修上の注意・備考	「教育哲学演習Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	小玉 重夫				
授 業 科 目	教育人間学基本研究				
講 義 題 目	教育思想演習 Seminar in Educational Thought				

授 業 の 目 標・概 要	「主体的、対話的で深い学び」ということが学習指導要領に盛り込まれ、それを「評価」するためのデータ利活用が喧伝されつつある今日、それは本当の意味での主体性を養うことにつながるのか、統治や管理のための主体性の動員、飼いや慣らしにならない保証はどこにあるのか。そうした問題を含め、OECD のエージェンシーをめぐる議論やバトラーのエージェンシー論を検討の素材としつつ、議論を深めていきたい。アルチュセール、フーコーの subject がバトラーの agency へと展開していく理論的位相の教育学的見極めが、論点となる。
授 業 計 画	今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。小玉重夫『教育政治学を拓く』の検討 5 回 OECD『2030 年に向けた生徒エージェンシー』の検討 1 回 ジュディス・バトラー『権力の心的な生』月曜社、序論の検討 3 回 ジュディス・バトラー『問題＝物質となる身体』以文社、序章の検討 4 回
授 業 の 方 法	講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、修士論文、博士論文の準備にも資するようにしたい。
成 績 評 価 方 法	レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。
教 科 書	小玉重夫『教育政治学を拓く』勁草書房
履修上の注意・備考	初回の授業時(4 月 8 日予定)に発表の分担等を行う予定である。
そ の 他	本授業は感染状況にもよるが、原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件希望者の希望者のオンラインでの受講も認める。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-211-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学基本研究				
講 義 題 目	教育人間学基本演習 Basic Seminar in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。奇数回(オリエンテーションと日本語文献講読と研究報告会)が対面、偶数回(英語文献講読)がオンライン授業の予定。
授 業 の 方 法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。対面とオンラインを隔週で組み合わせる予定。授業で使用する教材やレジュメは ITC-LMS やメールを通じて電子的に配布します。
成 績 評 価 方 法	毎回 ITC-LMS の「課題」から提出するコメントとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。
教 科 書	Arthur, J. et al. (2014) Knightly Virtues: Enhancing Virtue Literacy Through Stories Research Report (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues). クリスチャン・クリスチャンソン(2018)『子どもを開花させるモラル教育—21 世紀のアリストテレス的人格教育』中山理監訳、麗澤大学出版会。
履 修 上 の 注 意・備 考	正当な理由があって欠席する人や通信環境の問題でオンライン授業に参加できなかった人は配慮するので、ITC-LMS の「課題」から欠席連絡を提出すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史基本研究				
講 義 題 目	日本教育史演習 I Seminar in Japanese Educational History I				

授 業 の 目 標・概 要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は、1960 年代高度経済成長期に焦点を当てることとし、前半において共通文献を、後半において個人発表を行うこととする。
授 業 計 画	第一回:オリエンテーション第二回:文献購読 1 第三回:文献購読 2 第四回:文献購読 3 第五回:文献購読 4 第六回:文献購読 5 第七回:事例検討 1 第八回:事例検討 2 第九回:事例検討 3 第十回:事例検討 4 第十一回:事例検討 5 第十二回:事例検討 6 第十三回:事例検討 7
授 業 の 方 法	S1 については基本的に対面で行う。なお、対面については、二つの教室(学部棟 208 と 261)を確保し、そこでのグループワークなどを可能にするものとする。ただしオンラインでの参加を希望される場合は個別にご相談ください。
成 績 評 価 方 法	個別の発表によって評価する。3分の2以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。
教 科 書	適宜指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史基本研究				
講 義 題 目	高等教育・研究の歴史 I History of Higher Education and Research I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この演習の前半では、西洋の初期近代を中心に、各国の大学やアカデミーの歴史に関わる文献を読み、学問の専門職業化および「学問の自律性」(academic autonomy)の問題について広く考察する。文献は科学の社会史分野が中心となる。後半では受講生の関心に応じて、現代の大学改革に関する文献の講読か、本演習に関連する主題を扱う受講者の研究発表のいずれかを行う予定である。
授 業 計 画	1. 講義: イントロダクション—科学史的視点の基礎 2. 講義: 科学史からみた大学とアカデミー 3. 文献講読 ルネサンス期の人文主義とアカデミー 4. 文献講読 科学革命と大学 5. 文献講読 初期近代英国の大学における科学 6. 文献講読 初期近代フランスにおける科学とアカデミー 7. 文献講読 学問の共和国と書簡交流 8. 文献講読 ガリレオのいたアカデミー 9. 文献講読 初期近代ポルトガルにおけるパトロネージとアカデミー 10. 文献講読 17-18 世紀のパリ天文台 11. 文献講読 フランスとイギリス、二つの異なるアカデミーの制度化 12. 文献講読 好奇心と懐疑(独レオポルディーナアカデミーの事例を中心に) 13. 文献講読 ロイヤル・ソサエティの出版戦略 14. 文献講読もしくは研究発表 15. 文献講読もしくは研究発表
授 業 の 方 法	入門的な講義のあと、課題文献を輪読する。受講生は担当する文献の内容をまとめて報告する。講義はオンライン、対面の双方を想定するが、状況に応じて柔軟に対応する。
成 績 評 価 方 法	平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50%、後者 50%)。
教 科 書	授業の初回に配付する Giulia Giannini & Mordechai Feingold, The Institutionalization of Science in Early Modern Europe, Leiden, Boston: Brill, 2020. Laurence Brockliss, "Science, the Universities, and Other Public Spaces: Teaching Science in Europe and the Americas", in The Cambridge History of Science, Roy Porter, ed., Cambridge: Cambridge Univ. Press, 2003, Vol. 4, Ian F. McNeely, "The Renaissance Academies between Science and the Humanities", Configurations, 2009, 17, pp. 227-258.
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	初回に必要な文献を配付し、発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学基本研究				
講 義 題 目	教育臨床学基本演習 Basic Seminar in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	この演習では、有能性、有用性に大きく傾く現代社会の思潮を踏まえつつも、ヨーロッパの存在論的思考に立ち返り、失われつつある「自然」(フュシス)ないし「存在」(エッセ)の概念を彫塑するという試みである。古典的文献だけでなく、現代の芸術文化のなかにも、これら存在論的概念を見いだしていく。
授 業 計 画	第1回 教育臨床学の目的第2回 教育臨床学の方法第3回 教育臨床学の概念第4回 臨床哲学の主題1 存在論第5回 臨床哲学の主題2 交感論 1 第6回 臨床哲学の主題3 交感論 2 第7回 臨床哲学の主題4 詩作論 1 第8回 臨床哲学の主題5 詩作論 2 第9回 臨床哲学の主題6 経験論 1 第10回 臨床哲学の主題7 経験論 2 第11回 人間と自然1 人間性とは何か第12回 人間と自然2 人間の自然論 1 第13回 人間と自然3 人間の自然論 2 第14回 人間と自然4 人間性の終焉？第15回 演習のまとめ
授 業 の 方 法	授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発話分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成 績 評 価 方 法	毎回の各人の発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教 科 書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	出席を重視する。
そ の 他	オンライン zoom でやります。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-07	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学基本研究				
講 義 題 目	臨床現象学Ⅰ Seminar in Clinical PhenomenologyⅠ				

授 業 の 目 標・概 要	【授業の目標】本ゼミのタイトルも「臨床現象学」であるが、現在日本では、●●現象学、現象学的△△、といった研究領域が多数展開している。しかし、何をもって●●現象学、現象学的△△と称しうるのは明確ではない。狭義には、現象学者の知見を理論的背景にすることが現象学的な研究であるが、広義には、ものごとを捉えるスタンスを現象学に依拠することも現象学的な研究に含まれる、と講義者は考えている。本ゼミでは、スタンスとしての現象学を共通理解にもたすために、初学者向けの解説書の丁寧な購読を通して、現象学の主要概念(特に創始者であるフッサール)を概観する。その後、具体的な人間の在りようについて考察している現象学的研究を読むこととする。こうした歩みのなかで、1年間を通じて、「現象学的」とは何なのかという問いや、具体事例に基づく(現象学的な)倫理について触れることになる。【授業の概略】授業の概略は以下のとおりである。まず、講読する文献を受講者と共に決める。候補となる書籍は以下のとおりである。①木田元 1970『現象学』岩波新書②新田義弘 1992『現象学とは何か』講談社学術文庫③谷徹 2002『これが現象学だ』講談社現代新書④ダンザハヴィ 2015『初学者のための現象学』晃洋書房この購読を介して、エポケー、生活世界、空間と身体、間相互主観性といった現象学の根本概念を押さえる。と同時に現象学のスタンスについて理解する。そのうえで、受講者の興味関心とも関連させながら、臨床(教育)現象学、ケアの現象学、フェミニスト現象学、現象学的倫理学のなかで具体的な人間の在りようを扱っている文献を講読する。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション第2回 文献講読①第3回 文献講読②第4回 文献講読③第5回 文献講読④第6回 文献講読⑤第7回 文献講読⑥第8回 文献講読⑦第9回 文献講読⑧第10回 文献講読⑨第11回 中間相談:閑話休題第12回 文献講読⑩第13回 文献講読⑪第14回 文献講読⑫後半の文献講読の題材として考えているもの①村上靖彦 2018『在宅無限大:訪問看護師が見た生と死』より②稲原美苗他編 2020『フェミニスト現象学入門:経験から「普通」を問い直す』より③西村ユミ・榊原哲也 2017『ケアの実践とは何か:現象学からの質的研究アプローチ』より④吉川孝他編 2019『映画で考える生命環境倫理学』より授業計画は受講者との相談により変更される場合があります。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になると思われる。研究科の方針によるが、おそらく対面あるいはハイブリッド授業になると思われる
成 績 評 価 方 法	【評価方法】発表者は平常点、未発表者はレポート【評価基準】(1)授業への参加状況 ①事前に文献を読み、授業中の議論に積極的に加わって、理解を深めている。②文献に関する固有の解釈にもとづいて、自分なりの見解を発言している。③他者の発言に耳を傾け、自分の見解と関連させて、議論を発展させている。(2)レポート ①本授業で扱う題材について自分なりの関心にもとづいて要点を捉えている。②授業中の議論にもとづいて自分なりの論点を明らかにして議論している。③独創性のある論点が提示されており、説得力のある議論が展開されている。
教 科 書	上掲のいずれか。どれになってもデータをお渡しします。
履修上の注意・備考	当事者性をもった積極的な参加を期待します。できれば通年での受講が望ましいです。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-08	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、片山 勝茂、大塚 類、隠岐 さや香				
授 業 科 目	基礎教育学特殊研究				
講 義 題 目	基礎教育学総合演習 Colloquium in Basic Theories of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学における研究は、教育諸学・教育実践を基礎づけ方向づける社会的・倫理的な志しをもつ内容でなければならない。この授業は、そうした基礎教育学研究者の社会的・倫理的な志しを鼓舞し、ともに高めあう協同的な研究教育の場である。具体的には、基礎教育学コースに属する教員スタッフ及び大学院生が各自、研究発表を行い、その内容について、検討する。とりわけ学位論文の執筆予定者は、この場で研究構想を発表し、各研究領域から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受けることが望ましい。日程等については、事前にコース内に掲示する。
授 業 計 画	それぞれの回の担当者は早めに決めて、十分な準備をしてもらう。そして当日、それぞれのコース内容に従った特定の研究対象について、系統的なプレゼンテーションをしてもらう。その後、教員全員、ならびに当日の参加者との間で質疑応答をする一年を通して、取り上げるのが特定のコースに集中しないように、適宜バランスをとる事に配慮する
授 業 の 方 法	研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	適宜配布する
履修上の注意・備考	基礎教育学コースの院生は必ず履修すること
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	山名 淳、RIEGER-LADICH MARKUS				
授 業 科 目	教育哲学特殊研究				
講 義 題 目	教育哲学演習 II Seminar in Educational Philosophy II				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	「アーキテクチャ」と「メディア」を鍵概念として教育および「形成」（自己形成と文化形成との共起的現象）について論じるためことはいかにして可能だろうか。本授業では、このことに関するテキストを選定し、受講生とともにその内容を検討する本授業を通じて、受講生は(1)教育哲学・思想史の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)「アーキテクチャ」および「メディア」を鍵として現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。
授 業 計 画	教科書として指定した文献の各章ごとに担当受講生を決めて報告を行っていただく。その内容をもとにしてディスカッションを行う。また、教科書以外の関連文献を授業担当者もしくは受講生自身が選定し、その内容を検討することによって、議論のさらなる展開について考える。上級者においては、個人の研究関心を本授業の問題関心とかわらせつつ、関連文献を紹介し、議論の発展可能性について考察を行う。本授業では、アーキテクチャとメディアに関する海外の教育哲学研究についても検討を行い、S セメスターの「教育哲学演習 I」の内容をさらに発展させる。
授 業 の 方 法	授業担当者によるイントロダクションの後、各章担当受講生による報告（あるいは授業担当者もしくはゲスト・スピーカーによるレクチャー）を行う。その後、まず受講生はリアクションペーパーに各自の感想を記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。ディスカッションの形式（グループ討議か全体討議か）については受講生数によりあらためて判断する。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者はそれを持ち帰り、次回の授業においてそれに対するコメントを行い、次の内容へと向かう。
成 績 評 価 方 法	平常点（毎時授業の出席状況および議論への貢献度）および担当報告の総合評価とする（前者 50 パーセント、後者 50 パーセント）。
教 科 書	山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2015年
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	「教育哲学演習 I」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小 玉 重 夫				
授 業 科 目	教育人間学特殊研究				
講 義 題 目	教育政治学演習 Seminar in Politics of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育学について文献を読み、議論する方法に慣れ、論文の執筆に見通しが持てるようになることを目指したい。内容としては、教育政治学の現代的展開を目指し、S セメスターでの議論とも関係するが、教育における主体性の問題を、政治やシティズンシップとの関係をふまえて議論する。具体的には、アルチュセールの批判的継承者であるジャック・ランシエールの代表的著作を検討し、そこから、教育における政治的主体化の可能性を議論したい。また、昨年の延長で、現代の推し文化の問題点と可能性についても検討したい。
授 業 計 画	今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。教員からの問題提起と議論 2 回 ランシエール『不和あるいは了解なき了解』インスクリプト 6 回 ランシエール『解放された観客』法政大学出版局 5 回
授 業 の 方 法	講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の関心に応じて、修士論文、博士論文の準備にも資するようにしたい。
成 績 評 価 方 法	レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。
教 科 書	小玉重夫『教育政治学を拓く』勁草書房
履修上の注意・備考	初回の授業時に発表の分担等を行う予定である。
そ の 他	本授業は感染状況にもよるが、原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件希望者の希望者のオンラインでの受講も認める。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学特殊研究				
講 義 題 目	教育人間学特殊研究 Seminar in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	「教育人間学基本演習」に引き続き、「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。奇数回(オリエンテーションと日本語文献講読と研究報告会)が対面、偶数回(英語文献講読)がオンライン授業の予定。
授 業 の 方 法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。対面とオンラインを隔週で組み合わせる予定。授業で使用する教材やレジュメは ICT-LMS やメールを通じて電子的に配布します。
成 績 評 価 方 法	毎回 ICT-LMS の「課題」から提出するコメントとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。
教 科 書	Carr, D. & Harrison, T. (2015) Educating Character Through Stories (Imprint Academic). クリスチャン・クリスチャンソン(2018)『子どもを開花させるモラル教育—21 世紀のアリストテレス的人格教育』中山理監訳、麗澤大学出版会。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	S1S2 タームの「教育人間学基本演習」を受講していない人でも、受講を歓迎する。また、正当な理由があって欠席する人や通信環境の不具合でオンライン授業に参加できなかった人は配慮するので、ICT-LMS の「課題」から欠席連絡をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-211-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	日本教育史演習Ⅱ Seminar in Japanese Educational History Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は、前期に引き続き、1960年代高度経済成長期に焦点を当てることとし、前半において共通文献を、後半において個人発表を行うこととする。
授 業 計 画	第一回:オリエンテーション第二回:文献購読 1 第三回:文献購読 2 第四回:文献購読 3 第五回:文献購読 4 第六回:文献購読 5 第七回:事例検討 1 第八回:事例検討 2 第九回:事例検討 3 第十回:事例検討 4 第十一回:事例検討 5 第十二回:事例検討 6 第十三回:事例検討 7
授 業 の 方 法	基本的に対面で行う。オンラインでの参加を希望される場合は、個別にご相談ください。
成 績 評 価 方 法	個別の発表によって評価する。3分の2以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-211-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	高等教育・研究の歴史Ⅱ History of Higher Education and Research Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	啓蒙思想の人間観、教育観は近代的教育理念に多大な影響を与えたが、20 世紀末のポストモダンの文脈においては批判的検討の対象となった。この授業ではミシェル・フーコーなどの議論を紹介してその文脈を踏まえた上で、啓蒙思想の論者や、フランス革命期における公教育論の原典を検討する。その上で、啓蒙思想および革命期公教育論の知られざる側面や、忘れられた可能性について再検討する。
授 業 計 画	啓蒙と批判、徳育と知育、宗教の位置付け、ジェンダー平等、市民教育の問題などが中心的に扱われる予定であるが、受講者の関心にも対応する。初回時に詳細を説明する。
授 業 の 方 法	文献講読を中心とする。和訳あるいは英訳のあるものを扱うが、フランス語履修者にはフランス語原典の読解も奨励する。各回では報告者が概要をまとめた上で論点を提示し、討論を行う。各自の研究を発表する研究報告会も行う。
成 績 評 価 方 法	ゼミでの報告(50%)、出席と討論などの平常点(50%)を合わせて総合的に評価する。
教 科 書	「参考書」の項目を参照
履修上の注意・備考	初回時に担当箇所の割り当てを行うので、なるべく参加すること
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-14	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	山内 紀幸				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	教育思想史特殊講義Ⅴ History of Educational Thought Ⅴ				

授 業 の 目 標・概 要	一般に教育現象を捉えるとき、心理学や認知科学を通じて、そのエビデンスが明らかにされる。しかし、そうした科学は「教育とは何か」の一端を顕にすることはできても、「教育はどうあるべきか」という決定には寄与しない。教育における意思決定を支えるものは「教育思想」である(今井 2009)。エビデンスに対して、「教育思想」は優位性を有している。学校教育システムにしても、現代の子育てにしても、そこには「教育思想」が介在し、日々の意思決定を支えている。この「教育思想」はどのように探究できるだろうか。「教育思想」は現代社会において突如として現れるものでなく、制度、経済、民族、科学の様々なベクトルが交差する中で、歴史の中で生成されてくるものである。教育思想の歴史を問題にするということは、現代の「教育思想」を歴史的な産物とみなし、それを絶えず相対化していくことを要請する。かつては、自分たちが当たり前と思っているものとは全く違った教育思想も存在してきた。それを知ること、自分たちの「教育思想」がすべてでないことに気付くだろう。また、教育思想の展開を追うことで、自分たちの教育思想が歴史的産物であり、今後に変化していくことを理解するだろう。本講義は、「教育思想史特殊講義Ⅳ」に引き続き、古典といわれる教育思想家から現代の教育思想家までを探究し、その教育思想の時代性に迫っていく。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. プラトン: イデアと教育の理想 3. コメニウス: すべての人にすべてを教えるとは 4. ルソー: 教育論に秘めた社会改革の野望 5. フレーベル: 「恩物」に隠された秘密を探れ 6. ヘルバルト: 「教育的タクト」はいかにして養成できるのか 7. モンテッソーリ: 「規律は自由を通じて生まれる」のか 8. キルパトリック: 「プロジェクト」の源流を辿る 9. 倉橋惣三: 保育とは何か 10. フーコー: 国民に仕立て上げる方法 11. ルーマン: 人を教えることはできるのか 12. ハンナア-レント: 子どもによる世界の刷新とは 13. まとめ
授 業 の 方 法	演習形式。アクティブラーニング型の授業をめざし、受講者がトピックを選び、内容を編集会議でプレゼンテーションする。最後に雑誌としてまとめていく。
成 績 評 価 方 法	発表内容(80%)と討議参加状況(20%)による。
教 科 書	なし。以下の参考書を参照
履 修 上 の 注 意・備 考	※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学特殊研究				
講 義 題 目	教育臨床学演習 Seminar in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この演習では、有能性、有用性に大きく傾く現代社会の思潮を踏まえつつも、ヨーロッパの存在論的思考に立ち返り、失われつつある「自然」(フュシス)ないし「存在」(エッセ)の概念を彫塑するという試みである。古典的文献だけでなく、現代の芸術文化のなかにも、これらの存在論的概念を見いだしていく。「人間性」に「人間の自然」を見いだすことで、人間と自然の通底性を示す。それは、社会がますます有能性、有能性を重視していても、人と人・他の生きものとの共生を試みるうえで、礎となると考えられる。
授 業 計 画	第1回 教育臨床学の目的 人間性を問う第2回 教育臨床学の方法 意味形象を語る第3回 教育臨床学の概念第4回 自然と存在第5回 存在と交感第6回 交感と共生第7回 共生と詩作 第8回 詩作と経験第9回 身振りと声第10回 声と言葉第11回 人間と自然1 人間性とは何か第12回 人間と自然2 人間の自然論 1 第13回 人間と自然3 人間の自然論 2 第14回 人間と自然4 人間性の終焉？第15回 演習のまとめ
授 業 の 方 法	授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発話分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成 績 評 価 方 法	毎回の各人の発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教 科 書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
履修上の注意・備考	出席を重視する。
そ の 他	オンライン zoom でやります。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学特殊研究				
講 義 題 目	臨床現象学Ⅱ Seminar in Clinical PhenomenologyⅡ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	【授業の目標】本ゼミのタイトルも「臨床現象学」であるが、現在日本では、●●現象学、現象学的△△、といった研究領域が多数展開している。しかし、何をもって●●現象学、現象学的△△と称しうるのは明確ではない。狭義には、現象学者の知見を理論的背景にすることが現象学的な研究であるが、広義には、ものごとを捉えるスタンスを現象学に依拠することも現象学的な研究に含まれる、と講義者は考えている。本ゼミでは、前期でスタンスとしての現象学が共通理解にもたらされたという前提のもと、現象学のスタンスから、戦争に関連する具体的な人間の在りようについて考えていく。戦争に注目するのは、そこにおいて人間の本質的な在りよう(実存、差別、他者関係など)が際立ってくると考えられるからである。 【授業の概要】考察に際しては、文学作品(漫画も含む)、映像作品(フィクション、ノンフィクション)を手がかりとする。人間の在りようを描いている作品と、実際の人間の在りようを研究することの相違についても考えてみたい。こうした歩みのなかで、1年間を通じて、「現象学的」とは何なのかという問いや、具体事例に基づく(現象学的な)倫理について触れることになる。何を観るか何を読むかは、受講者と相談の上決定する。【講義者が想定している文献】①矢野智司 2019『歓待と戦争の教育学』東京大学出版会②山名 淳・矢野智司 2017『災害と厄災の記憶を伝える』勁草書房③戦争社会学研究研究会 2018『戦争映画の社会学』みずき書林④松尾完 2001『ベトナム戦争』中公新書⑤開高健 2021『ベトナム戦記[新装版]』朝日文庫⑥様岡かずお 2005『戦闘』『おろち第3巻』小学館【講義者が想定している映画】①野火②ランボー③プラトーン④この世界の片隅に
授 業 計 画	第1回 イントロダクション:スタンスとしての現象学 第2回 文献講読あるいは映像視聴①第3回 文献講読あるいは映像視聴②第4回 文献講読あるいは映像視聴③第5回 文献講読あるいは映像視聴④第6回 文献講読あるいは映像視聴⑤第7回 中間相談タイム第8回 文献講読あるいは映像視聴⑦第9回 文献講読あるいは映像視聴⑧第10回 文献講読あるいは映像視聴⑨第11回 文献講読あるいは映像視聴⑩第12回 文献講読あるいは映像視聴⑪第13回 文献講読あるいは映像視聴⑫第14回 本ゼミのまとめ授業計画は受講者との相談の上変更されることがあります。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になるとと思われる。授業形態は研究科の方針による。映像作品を観る可能性があるため、可能な限り対面授業の可能性を模索したい。
成 績 評 価 方 法	【評価方法】発表者は平常点、未発表者はレポート【評価基準】(1)授業への参加状況 ①事前に文献を読み、授業中の議論に積極的に加わって、理解を深めている。②文献に関する固有の解釈にもとづいて、自分なりの見解を発言している。③他者の発言に耳を傾け、自分の見解と関連させて、議論を発展させている。(2)レポート ①本授業で扱う題材について自分なりの関心にもとづいて要点を捉えている。②授業中の議論にもとづいて自分なりの論点を明らかにして議論している。③独創性のある論点が提示されており、説得力のある議論が展開されている。
教 科 書	特になし。授業中使用する文献は基本的にデータでお渡しします。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	当事者性をもった積極的な参加を期待します。前期受講していること(つまり通年での受講)が望ましいです。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学論文指導				
講 義 題 目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授 業 計 画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 12. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学論文指導				
講 義 題 目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授 業 計 画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 12. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小 玉 重 夫				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履修上の注意・備考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小 玉 重 夫				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履修上の注意・備考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	学年ごとに月1回程度の指導会を開催する。他学年の指導会にも極力参加するものとする。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	適宜配布する
履修上の注意・備考	研究室に所属する院生は必ず履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-211-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめ の書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	博士課程対象。学年ごとに月 1 回程度の指導会を開催する。他学年の指導会にも極力参加するものとする。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	適宜配布する
履修上の注意・備考	研究室に所属する院生は必ず履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	西洋教育史論文指導 Dissertation Research in Western Educational History				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。もしくは、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	西洋教育史論文指導 Dissertation Research in Western Educational History				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。もしくは、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 計 画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 計 画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-212-01	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学基本研究				
講 義 題 目	現代日本社会における教育・仕事・家族 Education, Work and Family in the Present Japanese Society				

授 業 の 目 標・概 要	日本社会における家族・教育・仕事の関係性の特徴とその変化について、様々な文献やデータを読み取り議論することを通じて、現在の日本社会が抱える諸課題とそれらへの対策について認識を深めるとともに、多様な研究手法について知り適用可能性を考察する。一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。
授 業 計 画	授業計画第1回:オリエンテーションおよび概論第2回:教育①第3回:教育②第4回:能力第5回:教育機会第6回:アクティベーション第7回:生活の困難第8回:家族第9回:少子化第10回:保育第11回:労働第12回:社会意識第13回:期末レポート構想発表
授 業 の 方 法	各回の購読文献をふまえ、受講者が購読文献を補足する他の文献・統計・事例・報道などを紹介しあいつつ議論を行うことにより、現代日本社会の現実と、目下進行中の様々な変革の動きや取り組みについて知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるか、いかなる研究が可能かについての認識を形成する。授業では出席者全員が購読文献について購読票を記載した上で持参する。授業で得た知識をふまえ、期末レポートでは現代日本の家族・教育・仕事に関わるミニ研究を課す。
成 績 評 価 方 法	授業時に提出する購読票と、期末レポートを7:3の比率で評価する。
教 科 書	購読文献は初回の授業で指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。
そ の 他	オンライン

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-02	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学基本研究				
講 義 題 目	市民社会・国家・教育 Civil Society, State, and Education				

授業の目標・概要	教育社会学では、これまで教育システムを通じた格差・貧困・排除の生成メカニズムに関する知見を蓄積してきた。しかし、そのメカニズムが概ね明らかにされた後も、対象や方法の微細な差異を「オリジナリティ」と称して論文生成のよすがにし続けることは——それ自体学問の発達に不可欠なプロセスでありつつ——学問的惰性という側面もある。他方で、長らく等閑視されてきたのは、そのような教育社会学的知が実効化しないメカニズムであった。つまり「原因も政策的な解決方法も共有されつつある。にもかかわらず、なぜ社会／個人は再分配やマイノリティの包摂を、選択・選好しないのか？」という問いである。この問いは、ある部分で、シティズンシップ教育や政治的公共性を巡る議論とも重なる。しかし、社会学の観点からシティズンシップ教育を捉える上で重要なことは、思弁的な議論に耽溺したり一部の事例を称揚することではなく、経験的な地平でその存立構造や機能を明らかにすることである。実際に後期近代社会では、多くの場合、政治的公共圏が無前提に成立することも、「市民主体なるもの」が素朴に成立することもなく、政治的コミュニケーションは多様な形で阻害・忌避・抑制されている。また、他者への贈与や連帯を呼びかける声を、「偽善」として貶価・否認するコミュニケーションも、我々の社会や身体に深く根ざしているだろう。以上の点を踏まえた上で、本授業では、理念的な「市民」的コミュニケーションが機能不全に陥るメカニズムについて、関連諸学のカも借りながら検討していきたい。同時に、これまた惰性によって問われなくなって久しい教育（社会）学の規範論的足場についても再検討したい。以上を通じて、新しい「シティズンシップ教育の社会学」を起動させる方向性を探ることが、本授業の課題となる。
授 業 計 画	第1回 ``イントロダクション第2回～第13回 ``テキスト購読に基づくディスカッション第14回 ``総括討論とまとめ
授 業 の 方 法	毎回指定された文献や論文を事前に購読する。その上で文献種別ごとに次の進め方をする。英語文献：担当者がレジュメを作成し報告・論点提示のあと、ディスカッションを行う。日本語文献：原則として、各自が簡単な購読メモを準備し、それに基づいてディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への出席・議論への参加を重視する。具体的には、担当回のレジュメ作成、議論への参加を3:7の比率で評価する。
教 科 書	各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。
履修上の注意・備考	テーマに関心があれば専門領域も学問領域も問わない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	朴澤 泰男				
授 業 科 目	高等教育論基本研究				
講 義 題 目	高等教育の社会学 I Sociology of Higher Education I				

授 業 の 目 標・概 要	日本の高等教育研究は、1970 年代における複数の研究拠点の創設、1992 年の東京大学「高等教育」講座の設置(この科目の源流もここにある)などを画期に制度化が進んだ、イシュー志向の強い専門分野である。教育社会学は、広い意味での社会調査の分析などを通して、現実の大学問題の解明に大きく貢献してきた。この授業では、教育社会学分野の高等教育研究が取り組んできた重要なテーマのうち、(1)高等教育システムの構造変動や、高等教育機関の階層性・機能分化、(2)大学進学・選択行動とその社会経済的背景、高等教育と労働市場の関係について扱った研究を主に取り上げ、代表的な文献を講読していく。古典的・基本的な著作や、それを批判的または自省的に回顧した論文、学術誌に掲載された最近の研究論文などの講読によって、理論的な研究や歴史研究、計量分析などの成果を正確に、かつ批判的に読み解く力の基礎を培うことを目標とする。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション第2回～第12回 文献講読とディスカッション第13回 リフレクション
授 業 の 方 法	基本的に演習形式とし、毎回、文献の内容紹介と、批判的検討を行った報告を、一人ずつが担当する形で進める。
成 績 評 価 方 法	平常点による。担当回の報告内容と、ディスカッションへの参加度を評価する。
教 科 書	各回の文献は、初回の授業で指示する。参加者の人数・関心に応じ、相談を経て決定したい。
履 修 上 の 注 意・備 考	各回の文献は、何らかの意味で高等教育に関わる研究を行う上での基礎となる。報告を担当しない回も含め、必ず事前に読んでおくことが望まれる。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-04	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論基本研究				
講 義 題 目	教育社会学の諸概念 Concepts in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学において頻繁に用いられる重要概念は多数あるが、そのなかには必ずしも十分な理解がなされずに使用されたり、あるいは原典とは異なる意味で用いられるようになったりした用語もある。この授業では、そうした諸概念を毎週テーマとして取り上げ、原典の講読とその応用事例の講読を対比的に進める中で、当該概念のもつ意味を深く理解することにより、教育社会学的研究の基礎力を高めることを目指す。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション第2回 ミニ原典講読＋ミニ応用事例検討第3回 教育社会学の概念①原典講読第4回 教育社会学の概念①応用事例検討第5回 教育社会学の概念②原典講読第6回 教育社会学の概念②応用事例検討第7回 教育社会学の概念③原典講読第8回 教育社会学の概念③応用事例検討第9回 教育社会学の概念④原典講読第10回 教育社会学の概念④応用事例検討第11回 教育社会学の概念⑤原典講読第12回 教育社会学の概念⑤応用事例検討第13回 教育社会学の概念⑥原典講読第14回 教育社会学の概念⑥応用事例検討
授 業 の 方 法	指定された文献について、毎回報告者を決めて内容を報告してもらう。そのうえで、内容理解のためのディスカッションを行なう。応用事例の検討についても同様に行ない、同時に原典との対比において何がわかるのかという観点からのディスカッションも行ないたい。
成 績 評 価 方 法	平常点(報告を含む)と最終レポートによる。
教 科 書	初回に説明する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	三輪 哲				
授 業 科 目	比較教育システム論基本研究				
講 義 題 目	教育社会学方法論研究 Research Methods in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、教育社会学研究において重要性の高い中級レベルの多変量解析の技法について、理論的基礎と統計ソフトウェアを用いた実践的技能を学ぶ。さらには得られた結果から教育社会学的解釈を引き出す考察能力を涵養する。扱う題材は、マクロレベルでは教育政策の効果や地域と学校教育の関係など、ミクロレベルでは学生/生徒の意識・行動・事故リスクとその変化など、多岐にわたる。授業においては、各自が機器を操作しつつ、受講者によるテキスト講読発表、補足的講義、分析実習を併用しながら進行する。
授 業 計 画	今年度は、「カテゴリカルデータの解析法」に焦点をあてる。1: 多変量解析の基本2: 多変量解析の応用1(諸種のロジットモデル)3: 多変量解析の応用2(媒介効果と交互作用効果)4: データ特性への対処1(潜在変数の利活用)5: データ特性への対処2(ネスト構造への対処)6: 対応分析1(分割表データへの適用)7: 対応分析2(自由反応型データへの適用)8: 対数線形分析1(階層的対数線形モデル)9: 対数線形分析2(デザインマトリクスの利用)10: 対数線形分析3(アソシエーションモデル)11: 潜在構造分析1(探索的潜在クラスモデル)12: 潜在構造分析2(確証的潜在クラスモデル)13: 潜在構造分析3(縦断的データへの適用)なお、内容については受講者の状況に応じて柔軟に対応する予定である。
授 業 の 方 法	Zoomでの文献講読, クラウドで配布する課題, Zoomでの分析報告ただし、covid19感染状況次第では対面も併用する※9月29日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること事前メールでの受講登録者のみに、受講上の注意や事前課題を連絡する
成 績 評 価 方 法	平常点,課題,最終報告
教 科 書	Hout, Micheal, 1983, Mobility Tables, Sage
履 修 上 の 注 意・備 考	ほぼ毎回、課題が課されることになる。分析法の教育社会学研究への応用に主眼を置くため、推定・検定など詳細な統計学的知識に関心がある者は参考書等により別途自学されたい。 ※9月29日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること事前メールでの受講登録者のみに、受講上の注意や事前課題を連絡する
そ の 他	本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「専門社会調査士のための必修科目」のうち、「I. 多変量解析に関する演習(実習)科目」として認定される授業科目である(予定)。社会調査士資格については、 http://jasr.or.jp/ を参照のこと。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育社会学の研究課題 Research Issues in the Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育を対象とする社会学的研究は、これまで理論的・実証的な知見を蓄積してきた。しかし、社会経済構造の変化の中で、従来の理論枠組みや概念、研究方法では把握しきれない新たな研究課題が出現してきていると考えられる。これまでの教育社会学にとって盲点となってきたそれらの新たな研究課題を探り出し、実証研究に結び付けてゆく方途を検討することをこの授業では目標とする。
授 業 計 画	第1回:オリエンテーション第2回:教育とガバメンタリティ第3回:教育と自己アイデンティティ第4回:教育とエビデンス、アカウンタビリティ第5回:教育とネオリベリズム第6回:「能力」の社会的構成第7回:メリトクラシーとインドクトリネーション第8回:グローバル化と資本主義の多様性第9回:ナショナリズムと排外主義第10回:第4次産業革命とソサエティ 5.0 第11回:スキル偏向的技術変化と教育第12回:ストリート官僚制と過剰包摂第13回:圧縮された近代・半圧縮近代・ポスト近代第14回:ダイバーシティ・権利・自由第15回:期末レポート構想発表
授 業 の 方 法	各回の授業までに、指定された文献を読み、講読票に概要とコメントを記入してきてもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成 績 評 価 方 法	毎回の授業において出欠確認を兼ねて学生は講読票を提出する。また、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は講読票:期末レポート=7:3の比で評価する。
教 科 書	各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。
履修上の注意・備考	学部において「教育社会学概論」および「教育社会学理論演習」を事前に履修していることが望ましいが、他大学からの大学院進学者でも受講できる。欧米を中心とした教育社会学の先端的イシューと研究方法を知ることができる授業であるため、教育社会学分野で研究を進めようとする者はもちろん、教育学および社会科学全般に従事する者および教育現場・教育行政に関わる者にとって有益な知識を得ることができる。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-07	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育言説の社会学 Sociology of Discourse on Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的には KH コーダー等を用いたワークも活用しながら理解を深めていきたい。なお受講者は言説研究の経験者である必要はない。むしろ、初めて言説を用いて修士論文、卒業論文、その他論文等を書く人も含め、本方法論に関する基本的な議論の布置を理解できるようになることが主な目的である。
授 業 計 画	第 1 回: イントロダクション 第 2 回～第 14 回: テキスト購読に基づくディスカッション
授 業 の 方 法	原則として、毎回指定された文献や論文を購読した上で、各自が簡単な購読メモを準備し、それに基づいてディスカッションを行う。テキストマイニング等に関してはワークも併用する。
成 績 評 価 方 法	授業への出席・議論への参加を重視する。
教 科 書	授業内で指示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する論文は事前にしっかり読むこと。言説を用いる予定のある人、すでに研究を進めている人は、疑問点などを整理しておくこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-08	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	障害の社会理論を読む Social Theories of Disability				

授 業 の 目 標・概 要	<目的・目標>「障害(disability)」という現象は、「できなさ(disability)」を生み出し、意味づけ、価値づける社会の営みの合わせ鏡である。このように考えるとき、「障害」を解消しようとする試みは、社会変革を志向する企てとなり、その社会の中で既得権を持つ人々からの抵抗を呼び起こすものとなる。この授業では、ここに生じるコンフリクトを解きほぐすための手がかりを探究したい。<授業概要>1980年代に英米で学問分野として成立したディスアビリティ・スタディーズ(障害学)において、従来障害者個人への介入を志向する、医学を中核とした実践科学によって担われてきた障害研究は、ディスアビリティの構築に関与している現行の社会のありようを問うという、すぐれて社会学的なテーマと接続することになった。本授業ではこのパラダイムシフトの持つ意味を確認した上で、障害平等に向けた実践の基礎理論についての検討を行う。
授 業 計 画	1. ガイダンス2. 障害概念の探究 13. 障害概念の探究 24. 障害概念の探究 35. 障害概念の探究 46. 「障害平等」をめぐる理念と課題 17. 「障害平等」をめぐる理念と課題 28. 「障害平等」をめぐる理念と課題 39. 「障害平等」をめぐる理念と課題 410. 自由報告 111. 自由報告 212. 自由報告 313. 自由報告 4※受講者の人数や関心等により内容を変更することがある。
授 業 の 方 法	受講生による文献報告をはじめ、ディスカッションを中心に授業を展開する。
成 績 評 価 方 法	授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	障害問題についての予備的な知識は特に必要としない。受講者は、指定文献を予め熟読する等、授業でのディスカッションのための十分な準備を行うことが期待される。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-09	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育社会の計量分析 Quantitative Analyses of Educational Society				

授 業 の 目 標・概 要	既存の社会調査データを比較検討したうえで、実際に調査を企画・設計して実施し、データ分析をおこなうことを通じて、社会調査に関する実践的な知識・技術を習得することを目的とする。講義では、各自の興味・関心にもとづいて調査テーマを決め、それと関連した既存調査データを検討して、調査票の設計、母集団やサンプリング、面接調査か郵送調査かといった調査法など、適切な方法を選んで調査を企画する。調査実施後、調査票の点検・ナンバリング等のエディティング、入力・クリーニングをおこない、さらにデータ分析にもとづく論文を執筆することで、知識・技術を身につけていく。
授 業 計 画	1 社会調査の方法: 入手可能な既存の社会調査データを紹介し、そのうちの典型的な調査について、どのような調査方法をもちているかを確認することで、社会調査方法論について実践的に学習する 2 社会調査データの特徴: 社会調査データの構造と変数既存調査の調査票とデータセットを検討し、質問項目の背後にある仮説および変数の種類(名義・順序・間隔・比率)について学習し、属性項目の度数分布からサンプリングの偏りなどを検討する 3 調査の企画(1): 各自の問題関心に合わせて調査テーマを決定し、それにもとづく調査計画を企画する。母集団の選定、サンプリング、調査方法を選定する 4 調査の企画(2): 調査仮説にもとづいて、目的変数・説明変数・統制変数を決定し、それぞれの尺度を選択する 5 調査票の設計: 既存調査の質問項目を参考にしながら、調査仮説を踏まえた質問項目を設計し、質問紙全体の構造化をおこない、ワーディングについて学習し、調査票を確定する 6 調査実施の準備: 調査スケジュールを確定し、関係機関へのサンプリング依頼状、サンプリング方法の検討、調査対象者本人への調査依頼状などを、調査倫理をふまえて作成する 7 調査の実施: 調査の実施各自の分担を決め、調査を実施する 8 回収調査票とエディティング: 回収した調査票の点検・ナンバリング、アフターコーディングをおこない、データ入力の準備をする。9 データ入力とクリーニング: 入力とクリーニング各自で分担して入力をおこない、クリーニングを完了させ、単純集計票およびコードブックを作成する 10 基礎的分析と検定: 単純集計およびクロス集計表による分析と解釈、 χ^2 乗検定について学習し、検定概念を理解する 11 回帰分析のバリエーション: 相関係数から単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析について学習し、回帰分析の概念と方法を理解する 12 グラフ作成と論文執筆: 分析結果の効果的な図表化、ときにグラフ作成について学習し、それをふまえた論文執筆をおこなう 13 中間発表と講評および最終レポートに向けての指導: 分析にもとづく論文作成の中間発表をおこない、より適切な論文構成や図表の表示、論旨の明確化などを指導する
授 業 の 方 法	講義・演習形式。各回、講義に続いて演習問題に解答する。また、中間発表でのプレゼンテーションをおこなう。
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーションおよび論文
教 科 書	配布資料をもちいる。
履修上の注意・備考	かなりの作業量になるので、この点をふまえて履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	石田 賢示				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	格差・不平等研究のための社会的埋め込み論 Social Embeddedness for Inequality Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	格差・不平等は社会科学研究の主要なトピックの 1 つである。この授業では、なぜ格差・不平等が生じ、維持されるのかを理論的、概念的に説明する枠組みの 1 つとして、「埋め込み」に着目する。この概念は元々経済行為を対象としていたが、教育など社会科学の広い領域にも応用可能である。一方、「埋め込み」が 'umbrella concept' と呼ばれるように、その意味するところが研究者により多様であることから混乱が生じることもある。この授業の第 1 の目標は、「埋め込み」に関する古典的文献やその後の研究論文の輪読を通じてこの概念の理解を深めることである。また、この枠組を自身の研究に応用する可能性や、(埋め込み論とは異なる) 自身の研究枠組みとの差異について説明できるようになることも、この授業のねらいである。Inequality is one of the leading topics in social science research. This course pays attention to 'embeddedness,' which theoretically and conceptually explains why inequality emerges and persists. This concept has initially targeted economic actions but can apply to the broader field in social sciences such as education. In the meantime, as 'embeddedness' is called the 'umbrella concept,' we sometimes have confusion due to various meanings among scholars. Therefore, we primarily aim to get a deeper understanding of this concept by reading classical and subsequent literature about 'embeddedness.' Also, this course intends that participants get to explain how to apply to their research or how different they are from the 'embeddedness' concept.
授 業 計 画	以下の大まかなスケジュールに沿って文献の輪読と議論を進める。参加者が文献の内容を解説するが、担当はイントロダクションの回で割り振る予定である。授業の進行に応じ、文献を変更する可能性がある。This class will follow the rough schedule below by reading the designated articles and discussing them. Participants are to introduce the literature contents assigned to them at the introduction session. We might change the literature to read as the class progresses. (1) イントロダクション Introduction 授業の目的と概要を講師が説明し、文献の割り振りを決める。The instructor will explain the purpose and overview of this class, and participants will select the literature to be assigned. (2) 「埋め込み」概念の古典的文献 Classical literature of the 'embeddedness' concept Polanyi, Karl, 1957, "The Economy as Instituted Process," Conrad M. Arensberg and Harry W. Pearson (eds) Trade Market in the Early Empires by Karl Polanyi, The Free Press. (from The Sociology of Economic Life (Mark Granovetter and Richard Swedberg (eds)) Granovetter, Mark, 1985, "Economic Action and Social Structure: The Problem of Embeddedness," American Journal of Sociology 91(3): 481-510. Granovetter, Mark, 1992, "Economic Institutions as Social Constructions: A Framework for Analysis," Acta Sociologica 35(1):3-11. (3) 「埋め込み」論についての批判的検討と精緻化 Critics and elaborations on the 'embeddedness' approach Krippner, Greta R., and Anthony S. Alvarez, 2007, "Embeddedness and the Intellectual Projects of Economic Sociology," Annual Review of Sociology 33: 219-40. Krippner, Greta R, Mark Granovetter, Fred Block, Nicole Biggart, Tom Beamish, Youtien Hsing, Gillian Hart, Giovanni Arrighi, Margie Mendell, John Hall, Michael Burawoy, Steve Vogel, and Sean O'Riain, 2004, "Polanyi Symposium: A Conversation on Embeddedness," Socio-Economic Review 2(1):109-35. Zukin, Sharon, and Paul DiMaggio (eds), 1990, Structure of Capital: The Social Organization of the Economy, Cambridge University Press. Montgomery, James D., 1998, "Toward a Role-Theoretic Conception of Embeddedness," American Journal of Sociology 104(1):92-125. Muennich, Sascha, 2019, "Profit as Social Rent: Embeddedness and Stratification in Markets," Sociological Theory 37(2):162-83. (4) 学校から仕事への移行: 教育社会学における応用例 School-to-Work transition: an example in sociology of education 荻谷剛彦, 1991, 「教育の経済学から「経済の教育社会学」へ——高卒者の就職とその社会的構成の比較社会学——」『教育社会学研究』49: 57-78. Brinton, Mary C., and Takehiko Kariya, 1998, "Institutional Embeddedness in Japanese Labor Markets," Mary C. Brinton and Victor Nee (eds) The New Institutionalism in Sociology, Stanford University Press. 181-207.

授 業 の 方 法	割り当てられた文献の内容を参加者が紹介し、全員で議論する。必要に応じ、講師が関連する内容を解説する。授業言語は日本語を用いるが、部分的に英語を用いても構わない。The participants will introduce the contents of the assigned literature and discuss them together. The instructor will explain related matters as necessary. We will speak in J
成 績 評 価 方 法	関心のあるトピックについて、埋め込みアプローチを関連付けて論じたタームペーパーの内容。埋め込み概念に批判的な内容でも構わない。また、プレゼンテーションの内容も加味する。The term papers the participants wrote about the topic of interest concerning the embeddedness approach. It is possible to be critical toward the embeddedness concept. Also, the instructor will consider each presentation into account.
教 科 書	なし None
履修上の注意・備考	この授業の肝は参加者相互の議論なので、できる限り毎回出席することが望ましい。The core of this class is the mutual discussion among participants. I hope they should attend every session.
そ の 他	なし None

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-212-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 史子				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	Ethnicity, Nationalism and Education Ethnicity, Nationalism and Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	<Course Objectives>- The aim of this course is to learn the basic concepts and theories relevant to ethnicity, nationalism and education and discuss them in class to improve understanding.- To critically read the classical and current literature on the topics mentioned above and to consider how it relates to the student's own research.<Expected Outcomes of This Course>The students will be able to • explain the basic concepts and theories of ethnicity, nationalism and education. • critically discuss and evaluate the recent studies of the topics mentioned above, and • consider and explain the contributions of their own research to the international discussions of the field. If a student is conducting research or has a research proposal on the relevant topics, he/she is expected to present it, including an explanation of how it is related to what we learned in this course.
授 業 計 画	(1)Guidance(2)Ethnicity(3)Nationalism(4)National Identity and Citizenship(5)Immigrant Integration and Education(6)Multiculturalism: Current Discussion(7)Intersectionality(8)Critical Race Theory and Whiteness in Education(9) Research Method(1)(10) Research Method(2)(11) Students' Presentations(12) Students' Presentations (cont.)(13) Students' Presentations (cont.)* The topics covered in this course are tentative. We will discuss and may adjust in class.
授 業 の 方 法	To better understand the literature, it is important for all the students to finish the reading assignments before each class and contribute to the class discussions.
成 績 評 価 方 法	①Weekly Reading Assignments (20%)To better understand the literature, it is important for all the students to finish the reading assignments before each class and contribute to the class discussions. Please send the questions that you would like to discuss in class to the class chair via slack by Wednesday.②Lead the Class Discussion at least once (30%)-Prepare a summary of the assigned literature, including the main argument, data, methods, strengths, and limitations, and prepare at least three questions/comments to help us discuss and reflect on the literature. -Please prepare well so that it will be a good opportunity for you to practice chairing an academic conference and teaching in the future.③Presentations (50%)From the 10th to 13th week, the students will present their own ongoing research/research proposals or critical analysis of the readings. -Your presentation will be evaluated by the course lecturer (60%), and the other students (30%) according to the rubric that will be distributed in Week 1. When you evaluate the other students' presentations, please add your questions and feedbacks so that the students can improve their research.
教 科 書	The complete reading list will be uploaded on the website and distributed in class.
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	If you are thinking of taking this course, please attend the class meeting on the first week.If you cannot make it, please contact me via email.
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-12	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	小宮 友根				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	エスノメソドロジー・会話分析の方法 Methodology of Ethnomethodology and Conversation Analysis				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業の目標は、エスノメソドロジー・会話分析(EMCA)研究が、その分析において「データ」をどのように扱っているのかについて基礎的な知識を身につけることである。EMCA 研究では、研究者の用意した分析手法にあわせて対象を選び加工する一般的な研究とは対照的に、会話の音声記録、映像記録、画像記録、さまざまなテキスト、フィールドノートなど、多様な種類の記録が一貫した観点から「データ」として用いられる。多様な記録がなぜ、どのような意味で「データ」となるのかを具体的な研究の読解と演習をもとに考えることで、EMCA 研究に対する理解を深める。授業では、まず EMCA 研究の社会学史上の位置を概観し、次いでその学史上の位置が EMCA 研究における分析とどのように関わっているのかを初期の EMCA 研究の紹介から確認する。その上で、多様なデータを分析した具体的な研究の読解と、実際に多様なデータの分析を経験してみる演習を通して、EMCA 研究における「分析」の意味を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. EMCA の社会学史上の位置 3. 初期 EMCA 研究(1)ハロルド・ガーフィンケル『エスノメソドロジー研究』4. 初期 EMCA 研究(2)ハーヴィ・サックス『会話についての講義』5. 初期 EMCA 研究(3)ハーヴィ・サックス「会話データの利用法」6. 初期 EMCA 研究(4)ハーヴィ・サックス「子どもの物語の分析可能性」7. 会話分析と会話データ(1)順番交替 8. 会話分析と会話データ(2)行為の連鎖 9. 会話分析と会話データ(3)修復 10. 映像データ(1)視線と姿勢 11. 映像データ(2)ジェスチャー 12. 画像データ 13. テキストデータ 14. 研究者の観察とフィールドノート 15. まとめ
授 業 の 方 法	講義と演習による
成 績 評 価 方 法	授業中の小課題(50%)および課題レポート(50%)
教 科 書	使用しない
履修上の注意・備考	積極的・効率的な学習のため、履修者は自分がなぜ EMCA の方法に関心があるのかを明確にしておくこと。
そ の 他	授業は場合によってはオンラインで開講される可能性がある。開講方法について注意をしておくこと。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-13	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	村澤 昌 崇				
授 業 科 目	高等教育論特殊研究				
講 義 題 目	高等教育の社会学Ⅱ Sociology of Higher Education Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育における研究方法について、量的研究及び質的研究の両面から検証し、さらに高等教育研究を超えて社会科学の方法論に関する包括的議論を展開することを通じて、科学的方法のあり方を自ら探求するきっかけ作りを行う。
授 業 計 画	1.高等教育における研究手法に関する検証：先行研究のレビュー2.高等教育における研究手法に関する検証：先行研究のレビュー3. 高等教育における研究手法の展開 1(EBPM と因果推論その 1)4. 高等教育における研究手法の展開 2(EBPM と因果推論その 2)5. 高等教育研究における研究手法の展開 3 (因果推論の応用事例 1)6. 高等教育研究における研究手法の展開 4(因果推論の応用事例 2)7. 高等教育研究における研究手法の展開 5(数理モデルの構築と開発 1)8. 高等教育研究における研究手法の展開 5(数理モデルの構築と開発 2)9. 高等教育研究を超えて：社会科学における計量分析のあり方―「記述」「説明」「解釈」とは何か 110. 高等教育研究を超えて：社会科学における計量分析のあり方―「記述」「説明」「解釈」とは何か 211. 高等教育研究を超えて：社会科学における計量分析のあり方―「記述」「説明」「解釈」とは何か 312. 高等教育研究における質的研究その 113. 高等教育研究における質的研究その 2: 高等教育研究を超えて 14. 高等教育研究におけるシミュレーション研究その 115. 高等教育研究におけるシミュレーション研究その 2
授 業 の 方 法	講義、ディスカッションによる
成 績 評 価 方 法	課題レポート提出(100%)による。ただしレポート提出は必須。
教 科 書	特に指定しない。以下参考文献に目を通しておくことを勧める。
履 修 上 の 注 意・備 考	上記の参考文献を目を通しておくことを勧める。上記の文献を参考に、高等教育研究における量的質的研究に関する課題を整理検討しつつ、高等教育研究を超えて社会科学における方法論のあり方を受講生とともに議論する予定なので、社会科学における方法論に関する文献にも目を通しておくことを勧める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論特殊研究				
講 義 題 目	教育と選抜の諸問題 Issues in Education and Selection				

授 業 の 目 標・概 要	教育と選抜に関わる諸問題を理解するうえで重要な文献を読み進めていくなかで、現代における教育現象をいかに理解していくかを様々な視点から考察してゆく。特に今年度は、P.ブルデューに関する諸文献を読み進めていくことを計画している。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション第2回~第5回 ブルデューに関する基礎的文献の講読(教育社会学研究特集など)第6回~第13回 ブルデュー理論に関する近年の文献の講読(以下の参考文献は候補となる)
授 業 の 方 法	毎回担当者を決めて報告してもらい、それをもとにディスカッションする演習方式。文献については初回授業時に示すが、進め方については、参加人数にもよるので初回に協議をして決定したい。
成 績 評 価 方 法	授業参加度+最終レポートで評価する。
教 科 書	適宜授業内において指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-15	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学特殊研究				
講 義 題 目	質的方法論研究 Qualitative Research Methods				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、質的方法論の特長と多様なアプローチについて学び、質的方法を使って研究論文を執筆するための知識とスキル獲得をめざす。具体的には文献購読とデータを使った演習を組み合わせながら以下の 3 点を扱う。1) 質的方法論の基本的知識に関する文献購読 2) 質的方法論を使った文献の批判的考察 3) 学校参与観察の実践およびデータ分析授業では特にリフレキシビティ(再帰性)に自覚的である近年の質的研究法における展開に注目する。調査者と被調査者の関係性や、調査者の属性、立場や権力性がデータ収集や解釈に及ぼす影響について議論しながら、質的研究法がどのように理論生成へとつながり、人々の意味世界の理解に役立つかという点を考える。
授 業 計 画	第1週 1) 質的研究法とはなにか: 特長・リサーチデザイン・発展の経緯、主要系譜(エスノグラフィー、事例研究、ライフヒストリー、ライフストーリー、グラウンデッド・セオリー) 2) 質的研究を読む第2週 1) 参与観察のプロセス: データ収集からエスノグラフィー執筆まで2) 現場で生起する問題: ポジショナリティ、リフレキシビティ、ラポール、倫理的問題第3週 1) エスノグラフィーの意義と有効性2) フィールドワークの技法第4週 1) インタビューの手法: 半構造化インタビュー、ライフ・ストーリー、生活史研究2) インタビューを使った研究デザイン第5週 1) 質的研究における理論とデータの関係 2) 質的研究の「質」と評価第6週 1) コーディングから仮説生成へ: インタビューデータの分析実践2) 質的研究のプレゼンテーション第7週 グループプロジェクトの発表
授 業 の 方 法	演習形式
成 績 評 価 方 法	毎回の課題提出 40%、プロジェクト発表 20%、最終レポート 40%
教 科 書	フリック, U. 2011 『新版 質的研究入門—人間の科学のための方法論』春秋社. エマーソン, R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社
履修上の注意・備考	積極的に議論に参加し、グループプロジェクトを実施することを求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-16	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学特殊研究				
講 義 題 目	グローバル時代の国際移動と教育 International Migration and Education in the Era of Globalization				

授 業 の 目 標・概 要	21 世紀は「移民の時代」といわれる。グローバル化の進展によって人・モノ・情報の国境を越えた移動が加速化し、一国内の多民族化・多文化化が進む中、これまでの国民国家を前提とした教育はさまざまな挑戦をつきつけられている。本講義ではグローバリゼーションやトランスナショナリズムを背景とした移民の増加が、どのように日本の学校教育、家族、地域社会に影響を及ぼしているかという問題について、国際比較の視点から理解を深める。特に、移民の若者や子どもたちがホスト社会において直面する文化的・構造的障壁について、階層、ジェンダー、人種、エスニシティの視点を交えて考察を行う。多文化主義や批判的多文化教育の展開について学び、マイノリティのエンパワメントと教育の関係性について具体的事例をもとに検討する機会を提供する。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション: 多民族化・多文化化する日本社会第2回 マイノリティ生徒の学校経験: レイズムとトラッキング 第3回 抑圧への抵抗: 仲間集団と対抗文化第4回 マイノリティ生徒の教育達成: 言語と権力第5回 マイノリティ生徒の教育達成: 家庭の人的・文化資本第6回 マイノリティ生徒の教育達成: コミュニティと学校外の資源第7回 エンパワメントと教師: democratic education と culturally responsive pedagogy
授 業 の 方 法	演習形式 1 回の授業につき、課題文献(英語、日本語論文 1 本づつ)を読み、事前にコメントを作成して授業に参加すること。文献の内容にもとづくディスカッションを中心に授業を進める。
成 績 評 価 方 法	出席 10%、授業内課題 40%、最終レポート 50%
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	毎回の出席と積極的な議論への参加を求める
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授 業 計 画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を 15 分程度で発表し、45 分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したコメンテータからのコメントも行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授 業 計 画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を 15 分程度で発表し、45 分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したコメンテータからのコメントも行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-212-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授 業 計 画	初回：イントロダクション各回：参加者の研究・構想発表と議論
授 業 の 方 法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成 績 評 価 方 法	参加者の研究の進捗状況に基づいて評価を行う。
教 科 書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-212-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授 業 計 画	初回：イントロダクション各回：参加者の研究・構想発表と議論
授 業 の 方 法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成 績 評 価 方 法	参加者の研究の進捗状況に基づいて評価を行う。
教 科 書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授 業 計 画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授 業 の 方 法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成 績 評 価 方 法	受講者それぞれの研究の進捗を総合的に判断して評価する。
教 科 書	特に無し。
履 修 上 の 注 意・備 考	特に無し。
そ の 他	・初回ガイダンス:4/7(木) 17 時-18 時

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-212-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授 業 計 画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授 業 の 方 法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成 績 評 価 方 法	受講者それぞれの研究の進捗を総合的に判断して評価する。
教 科 書	特に無し。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	・初回ガイダンス:4/7(木) 17 時-18 時

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授 業 計 画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授 業 の 方 法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成 績 評 価 方 法	出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。
教 科 書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授 業 計 画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授 業 の 方 法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成 績 評 価 方 法	出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。
教 科 書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履修上の注意・備考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	三 輪 哲				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成 績 評 価 方 法	発表の質、議論への貢献、目標達成の度合いを総合的に評価する。
教 科 書	特に使用しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員まで連絡をすること。※4 月 7 日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること オンライン授業 URL は、事前メールでの受講登録者のみに連絡する
そ の 他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	三 輪 哲				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成 績 評 価 方 法	発表の質、議論への貢献、目標達成の度合いを総合的に評価する。
教 科 書	特に使用しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員まで連絡をすること。※4 月 7 日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること オンライン授業 URL は、事前メールでの受講登録者のみに連絡する
そ の 他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	石田 賢示				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学あるいは関連する社会科学分野において、独自に計量分析に関する研究論文を執筆できるようになることが主たる目的である。1 年間で、受講者各自が目標を定め、研究内容について参加者のあいだで議論する。目標として、学会報告、ディスカッションペーパー、学位論文のチャプター、投稿論文など幅広いアウトプットを許容するが、履修者にはフルペーパーの提出を要件とする。社会科学の問題関心は多様化している。近年は複数のタイプの方法論を組み合わせる問題にアプローチする混合研究法への関心も高まっており、専門的な学術誌も社会科学のトップジャーナルのなかに存在する。本授業では、計量分析を中心とする者だけでなく、自身の研究に何らかの形で計量分析を活用しようと試みる者も歓迎する。授業を通じ、必要に応じて重要文献の解題や分析手法の解説の時間を設ける可能性もある。具体的な内容は、受講者の関心とスケジュールを加味して決定する。
授 業 計 画	初回授業時に受講者の目標、意向を確認し、その内容に沿ってスケジュールを立てる。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、その内容に対する議論を基本とする。必要に応じ、研究に関する個別相談もおこなう。
成 績 評 価 方 法	発表内容、議論への貢献、提出したフルペーパーの内容をもとに評価する。発表やフルペーパーの評価については、1 年間で複数回報告を求めるため、内容の改善度合いを特に注視する。議論への貢献については、他の参加者に対する建設的なコメントを高く評価する。
教 科 書	特に使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	第 1 回授業開始までに、ishidak@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること。受講希望者の意見もふまえて、受講形式に関する詳細を連絡する。一般的な計量分析手法やその考え方、ソフトウェアの使用方法に関する授業ではないので、必要な者は適宜対応する授業科目を履修、または自学自習すること。
そ の 他	発表資料やフルペーパーの言語は日本語、英語いずれでもかまわないが、参加者相互の議論をスムーズにおこなうため、プレゼンテーションや議論は日本語でおこなう。ただし、英語での発表と議論を除外するわけではないので、希望する場合は積極的に臨んでほしい。多様な研究関心を歓迎するが、特に研究トピックの具体的・実質的内容についての詳細なコメント、相談を希望している場合は、講師の研究分野を考慮したうえで受講の可否を自身で判断すること。講師の researchmap などを参照してほしい (https://researchmap).

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	石田 賢示				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学あるいは関連する社会科学分野において、独自に計量分析に関する研究論文を執筆できるようになることが主たる目的である。1 年間で、受講者各自が目標を定め、研究内容について参加者のあいだで議論する。目標として、学会報告、ディスカッションペーパー、学位論文のチャプター、投稿論文など幅広いアウトプットを許容するが、履修者にはフルペーパーの提出を要件とする。社会科学の問題関心は多様化している。近年は複数のタイプの方法論を組み合わせる問題にアプローチする混合研究法への関心も高まっており、専門的な学術誌も社会科学のトップジャーナルのなかに存在する。本授業では、計量分析を中心とする者だけでなく、自身の研究に何らかの形で計量分析を活用しようと試みる者も歓迎する。授業を通じ、必要に応じて重要文献の解題や分析手法の解説の時間を設ける可能性もある。具体的な内容は、受講者の関心とスケジュールを加味して決定する。
授 業 計 画	初回授業時に受講者の目標、意向を確認し、その内容に沿ってスケジュールを立てる。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、その内容に対する議論を基本とする。必要に応じ、研究に関する個別相談もおこなう。
成 績 評 価 方 法	発表内容、議論への貢献、提出したフルペーパーの内容をもとに評価する。発表やフルペーパーの評価については、1 年間で複数回報告を求めるため、内容の改善度合いを特に注視する。議論への貢献については、他の参加者に対する建設的なコメントを高く評価する。
教 科 書	特に使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	第 1 回授業開始までに、ishidak@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること。受講希望者の意見もふまえて、受講形式に関する詳細を連絡する。一般的な計量分析手法やその考え方、ソフトウェアの使用法に関する授業ではないので、必要な者は適宜対応する授業科目を履修、または自学自習すること。
そ の 他	発表資料やフルペーパーの言語は日本語、英語いずれでもかまわないが、参加者相互の議論をスムーズにおこなうため、プレゼンテーションや議論は日本語でおこなう。ただし、英語での発表と議論を除外するわけではないので、希望する場合は積極的に臨んでほしい。多様な研究関心を歓迎するが、特に研究トピックの具体的・実質的内容についての詳細なコメント、相談を希望している場合は、講師の研究分野を考慮したうえで受講の可否を自身で判断すること。講師の researchmap などを参照してほしい (https://researchmap).

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	(歴史)社会学的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授 業 計 画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、修士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成 績 評 価 方 法	受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意・備 考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	(歴史)社会学的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授 業 計 画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、博士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成 績 評 価 方 法	受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意・備 考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-31	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論論文指導				
講 義 題 目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授 業 計 画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授 業 の 方 法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-212-32	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論論文指導				
講 義 題 目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授 業 計 画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授 業 の 方 法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-33	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標・概 要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している修士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況に応じてゼミ出席、個人発表、論文執筆などから総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席を求める
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-212-34	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している博士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況に応じてゼミ出席、個人発表、論文執筆などから総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席を求める
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-212-35	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	恒吉 僚子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	論文の完成に向けた指導
授 業 計 画	毎回各自の論文を発表し、議論、コメントし、改善する
授 業 の 方 法	発表、議論。
成 績 評 価 方 法	額賀ゼミと合同。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	額賀ゼミと合同。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-212-36	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	恒吉 僚子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	論文の完成に向けた指導。
授 業 計 画	各自が順次論文を発表、議論、コメントする。
授 業 の 方 法	発表、議論。
成 績 評 価 方 法	額賀ゼミと合同。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	額賀ゼミと合同。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-01	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論基本研究				
講 義 題 目	生涯学習論基本研究Ⅱ Theory of Lifelong LearningⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。ただし、コロナの影響もあり、フィールド調査ができない可能性も高いため、基本的には文献講読とする。今年度は「社会基盤としての社会教育再考」を大きなテーマにとりあげる。文献研究の中心テーマは「社会教育のとらえ返し」とし、戦後に構想され、急速に社会に普及した社会教育・生涯学習の理念や機能に対して、どのような議論がなされ、それがどのような社会的な要請を背景にしていたのか、その結果、社会教育や生涯学習の概念はどのように変容したのか、そしてそれはどう実践されてきていて、それを今度どう実践していくべきなのかをとらえ、社会教育・生涯学習の実践のあり方への理解を通して、教育・学習という営みと社会とのかかわりを理解する。臨時教育審議会の資料なども活用する。
授 業 計 画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論とくに公民館に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。フィールド調査などを行いたい、が、コロナ禍の状況下でもあるので、基本的に文献講読を中心に進める。初回のみ対面とし、2回目以降は状況を見て、オンラインでの開講とする。リンクは、UTAS および ITC-LMS 上に記載する。なお、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が増えているので、初回もオンライン開講を併用する。無理して大学に出てくることのないようにして欲しい。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式をとり、グループ討議を通して、各自の研究の視点と枠組みを発展させる。また、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果の地域社会への還元のあるあり方を体得する。対面での開講が困難だと判断した場合は、基本的にオンライン開講とする(初回のみ、対面で、オンライン開講を併用する)。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	牧野篤『発達する自己の虚構－教育を可能とする概念をとらえ返し』(東京大学出版会、2021 年)を基本的テキストとして使用する。各自準備しておくこと。
履 修 上 の 注 意・備 考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-213-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	影浦 峯				
授 業 科 目	図書館情報学基本研究				
講 義 題 目	図書館情報学研究方法論 Research Methods of Library and Information Science				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学研究に関連する具体的な方法論を身につける。対人調査方法論、文献研究方法論、計量研究方法論等、方法論の観点から、および、翻訳研究、図書館研究、知識基盤研究といったテーマの観点から、学生の関心を考慮し、参加者の状況に応じて重点的な学習対象を決める。
授 業 計 画	第1回：概要紹介と参加者のグループ化第2回：研究テーマ提案・議論・研究テーマのとりまとめと分担者配分第3回～第12回：課題に対応した方法論の検討と議論第13回：課題の取りまとめと研究方法論の総合的なまとめ
授 業 の 方 法	授業初回に参加者を3つのグループにわけ、研究テーマを提出する。それぞれに対して、重要性、実現可能性、アプローチ、スケジュールなどを議論しながら、取り上げるテーマを確定し、そのテーマにそって毎週持ち帰りの課題を実行し、実行した課題に基づいて理論的枠組み、方法論、解釈、論文執筆法の各層にわたる議論を行なう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加度と貢献度に基づき評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	対面・オンラインは感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始までに判断する。安全性評価は定期的に行い、途中での切り替えも考える。ただし、いずれの場合でも個別事情に応じた学生のオンライン参加を許容する。グループ単位で持ち帰り課題を課すので、個人的な準備だけでなく、グループでのディスカッション力も重要となる。また、データ処理や統計の基礎を知らない学生は、学部の授業夏学期の情報・資料分析論演習を履修しておくことが望ましい。ただし、履修学生の関心等に応じて、内

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-03	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影 浦 峽				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 基 本 研 究				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 総 合 研 究 Topics in Library and Information Science				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	大学院生の修士論文・博士論文のテーマを中心に、図書館情報学の重要課題について、全員で議論し、研究方法や内容について相互理解を深める。
授 業 計 画	第 1 回 全体の調整とスケジュールリング第 2 回 研究計画・テーマ発表(2名)第3回 研究計画・テーマ発表(2名)第 4 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 5 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 6 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 7 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 8 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 9 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 10 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 11 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 12 回 修士論文検討会第 13 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 14 回 研究計画・テーマ発表(2名)
授 業 の 方 法	参加者の発表と討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	使わない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	図書館情報学研究室の大学院生は全員必修とする。
そ の 他	対面・オンラインは感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始までに判断する。安全性評価は定期的に行い、途中での切り替えも考える。ただし、いずれの場合でも個別事情に応じた学生のオンライン参加を許容する。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-04	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論特殊研究				
講 義 題 目	生涯学習論特殊研究Ⅱ Seminar in Lifelong LearningⅡ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。
授 業 計 画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式をとる。各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	各テーマに応じて指定する。
履修上の注意・備考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-05	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論特殊研究				
講 義 題 目	生涯学習論特殊研究 I Seminar in Lifelong Learning I				

授 業 の 目 標・概 要	生涯学習研究の蓄積について学び、各人の研究の基盤とすることをめざす。今年度はハンドブックの講読を通じて、成人教育・生涯学習研究の成果と課題を共有したい。
授 業 計 画	基本文献講読を中心に進める。全 14 章からなる文献を、1コマ1章の目安で全体を読む予定である。初回から文献検討を始めるので、初回は第2章までを読んでくること。文献の所在、発表方法等は後日追記する。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	出席、報告、討議への参加から総合的に判断する。
教 科 書	ピーター・ジャーヴィス著、渡邊洋子・犬塚典子監訳『成人教育・生涯学習ハンドブックー理論と実践』明石書店、2020
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	安田 節之				
授 業 科 目	社会教育学特殊研究				
講 義 題 目	プログラム評価論 Theory and Methods of Evaluating Programs				

授 業 の 目 標・概 要	教育機関や企業組織そして地域コミュニティには、対人援助・人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在する。これらの実践・介入活動に対して説明責任や科学的根拠(エビデンス)が求められる時代となっている。本授業では、様々な実践・介入活動をプログラムとして客観的に捉え、その結果や効果を評価し、活動の質向上につなげるための方法論を学ぶ。プログラムの価値は、経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的效果として現れることが多いため、社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高い。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. プログラム評価の目的と評価者・ステークホルダー3. プログラムニーズの種類とアセスメントの方法4. ゴールの明確化5. インパクト理論6. ロジックモデル7. 個人・グループ発表8. 評価可能性アセスメントと評価クエスチョン9. アウトカム評価の概要と評価指標の作成10. 実験・準実験デザインによるアウトカム評価11. プログラムの導入(インプリメンテーション)評価とプロセス評価12. 評価アプローチ①(社会科学・理論主導、他)13. 評価アプローチ②(実用重視・エンパワメント、他)14. 評価報告書・技術報告書(テクニカルレポート)の内容と作成方法 15. 総 括
授 業 の 方 法	講義、ディスカッション、演習(個人・グループワーク)を中心に行う。
成 績 評 価 方 法	レポート30%、評価計画書(グループまたは個人)40%、授業参加状況(発言・発表)30%
教 科 書	安田節之『プログラム評価:対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』新曜社, 2011 年
履 修 上 の 注 意・備 考	■授業は夏季休業中の集中講義期間に実施します。■すでに携わっている実践・介入活動やプログラムがあることが望ましいです。■教科書『プログラム評価:対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』(安田節之, 新曜社, 2011 年)は事前の一読しておいてください。授業時に本の内容を踏まえたディスカッションを行います。※新型コロナウィルスの状況に応じて授業方法(オンライン/対面)の調整をします。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	堀本 麻由子				
授 業 科 目	社会教育学特殊研究				
講 義 題 目	比較生涯学習論 Comparative Studies in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	1960 年代初期にはアメリカ成人教育はディシプリンとしての基盤を確立し、今日まで多様な成人教育・学習活動を内包する豊かな研究蓄積を擁している。そこで本授業では、1920 年代以降のアメリカ成人教育の成立過程、その後の理論的系譜を概観し、アメリカ成人教育・学習論の特性を、とりわけ職業教育、専門職養成の観点から検討する。
授 業 計 画	まず授業前半では、1920 年～50 年代の Eduard Lindeman、Cylil O. Houle らの成人教育思想、1960 年～80 年代のアンドラゴジー論の Malcolm Knowles、そして 1990 年代以降の意識変容学習論の Jack Mezirow ら、ポスト・アンドラゴジーの理論を考察する。授業後半では、アメリカ成人教育の特性の一つである専門職養成の特質を理解し、日本の専門職養成との異同を考察することで、アメリカ成人教育・学習の理解を深めていくこととする。
授 業 の 方 法	当該テーマに関する基礎的な知識を共有するための講義回と受講院生による文献報告とそれに基づく質疑応答、内容を深めるためのディスカッション回を交互に行うことを予定している。報告するにあたっての資料は教員が提示するが、自分自身で関連する文献を提案することも可能。報告にあたっては、資料の選択や分析方法等、求めに応じて個別の指導も行う。尚、授業形態は、原則、対面授業で実施予定。
成 績 評 価 方 法	講義・演習への参加度(40%)、報告内容(60%)を総合的に判断して評価する。
教 科 書	第一回授業で、授業で扱う学術論文(英語文献含む)をすべてグーグル・ドライブに保存しておくので、各自でダウンロードすること。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	特にありません。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-213-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	影浦 峯				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	情報媒体構造論 Study of the Structure of Information Media				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	知識媒体の構造について、言語表現から図書の構成までのいずれかのレベルに着目し、知識の展開・記録・伝達・流通を可能にしてきた基盤をめぐる問いの領域を理解するとともに、それに対する研究の広がり理解する。
授 業 計 画	初回に全体の領域を概説する。第 2 回以降は、参加者に課題を割り当て、順次発表及びディスカッションを繰り返す。テーマは、大きく 3 つのブロックに分けて順に扱う。第一は記号と媒体、第二は言語、第三は図書資料。
授 業 の 方 法	講義 1 割、発表 4、ディスカッション 5 で行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加度、作業の達成度と、小テストを考慮した総合評価。
教 科 書	教科書及び参照資料は授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	特にありませんが、日英両言語での議論を当たり前とみなせること(技術的な問題は別)
そ の 他	対面・オンラインは感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始までに判断する。安全性評価は定期的に行い、途中での切り替えも考える。ただし、いずれの場合でも個別事情に応じた学生のオンライン参加を許容する。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-09	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	図書館情報学理論研究 Theory of Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館、図書館情報学に関わる英語文献を輪読する。輪読を通じて、文献の読み方、そして基本的な概念や歴史などについても学んで行く。
授 業 計 画	1 オリエンテーション2-12 テクストの輪読13 まとめ
授 業 の 方 法	テキストの訳読担当者を毎回事前に指定し、輪読を行う。担当者が担当部分を発表した後、参加者による討議や講評を行う。
成 績 評 価 方 法	発表内容及び授業への参加の度合いによって評価する。
教 科 書	デービス・ベアード『物のかたちをした知識 -実験機器の哲学-』（青土社，2005）[Davis Baird “Thing Knowledge -A Philosophy of Scientific Instruments-” (University of California Press, 2004)]Geoffrey C. Bowker, Susan Leigh Star “Sorting Things Out -Classification and its Consequence-” (MIT Press, 1999) や図書館情報学関連分野の博士論文を書籍した図書などの中から受講者と購読するものを 1 冊選択する。
履修上の注意・備考	とくになし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	池内 淳				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	図書館情報学特別講義 Library and information Science Special Lecture				

授 業 の 目 標・概 要	現代の図書館に関する諸問題を取り上げディスカッションを行う。
授 業 計 画	第 1 回:ガイダンス第 2 回:現代における図書館の諸問題(1)第 3 回:現代における図書館の諸問題(2)第 4 回:現代における図書館の諸問題(3)第 5 回:現代における図書館の諸問題(4)第 6 回:現代における図書館の諸問題(5)第 7 回:現代における図書館の諸問題(6)第 8 回:プレゼンテーションとディスカッション(1)第 9 回:プレゼンテーションとディスカッション(2)第 10 回:プレゼンテーションとディスカッション(3)第 11 回:プレゼンテーションとディスカッション(4)第 12 回:プレゼンテーションとディスカッション(5)第 13 回:プレゼンテーションとディスカッション(6)第 14 回:プレゼンテーションとディスカッション(7)第 15 回:まとめ
授 業 の 方 法	担当教員による講義のほか、受講生によるプレゼンテーションとディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーションと課題によって評価する。
教 科 書	教科書はとくに用いない。
履修上の注意・備考	とくになし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-213-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	阿 辺 川 武				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 特 殊 研 究				
講 義 題 目	デジタルドキュメント論 Studies of Digital Documents				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	デジタルドキュメントは、従来の紙による文書を電子機器による表示に置き換えたものであるが、情報処理技術の発達により、文書間のリンク関係、複製の容易さ、情報の速達性、共同編集など、紙では実現不可能な概念を備えるようになった。本講義では、情報伝達的手段として欠かすことのできないデジタルドキュメントを研究資料として活用する学生を対象とし、デジタルドキュメントからのテキスト抽出や加工、分析など、研究のデータ作成に必要な技術について学ぶ。講義においてデジタルドキュメントに関する知識を獲得するとともに、演習を重視し、データ処理の実践的な力を身につけることを目的とする。
授 業 計 画	1. ガイダンス 2. 学術論文 PDF 解析 3. 小説のテキストマイニング 4. 書誌データの集計と可視化 5. ニューステキストのクラスタリング 6. 文字・ユニコード 7. 学術論文の引用分析とネットワーク 8. 小説のテキストマイニング 9. Wikipedia からの情報抽出 10. オフィス文書の解析 11. 紙の文書のデジタル化 12. Web アーカイブ・IIIF 13. 電子書籍 14. 自由記述アンケートの分析 15. 種々のデータ処理※内容や順番は変更されることがあります
授 業 の 方 法	毎コマ、前半に講義をおこない、後半に関連する演習を各自のパソコンでおこなう。
成 績 評 価 方 法	講義後に出される課題、および期末のレポートによる評価
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	本講義は演習を行ないます。講義中にパソコン内に必要なプログラムをインストールし、コマンドラインツールや Python プログラムを動作させます。パソコンの OS は各種ライブラリの動作検証に手間がかかることから、最新版の Windows10 か 11、もしくは最新版の macOS を指定します(コンピュータに精通している人はその限りではありません)。本講義は Python プログラムが書けるようになることが目標ではなく、デジタルドキュメントに関連した様々なデータ処理の世界を垣間見ることが演習の目標になります。したがって演習では
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	博士院生として、自らの研究課題を大事にしながら、自分の研究の方向性をつくるよう、努力して欲しい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせる。必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	大学院生としての自覚を持って、積極的に参加すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-213-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文、博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授 業 の 方 法	オンラインでの開講となる場合、別途示す Zoom アドレスにて行う。個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	年度内の発表機会、執筆論文を個別に設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文、博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授 業 の 方 法	オンラインでの開講となる場合、別途示す Zoom アドレスにて行う。個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	年度内の発表機会、執筆論文を個別に設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影 浦 峯				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図 書 館 情 報 学 ・ 言 語 情 報 処 理 ・ 計 量 語 彙 論 ・ 情 報 メ デ ィ ア 論 分 野 で 修 士 ・ 博 士 論 文 の 執 筆 を め ざ す 大 学 院 生 の た め に 、 個 別 お よ び グ ル ー プ で 論 文 指 導 を 行 う 。 修 士 課 程 2 年 お よ び 博 士 課 程 3 年 以 上 の 場 合 は 修 士 論 文 お よ び 博 士 論 文 の 執 筆 お よ び 提 出 を 、 そ れ 以 外 の 年 次 の 学 生 に は 、 修 士 論 文 、 博 士 論 文 に つ な が る 学 会 発 表 、 論 文 執 筆 を 交 え な が ら 各 段 階 で 必 要 な ノ ウ ハ ウ お よ び 蓄 積 を 蓄 え る こ と を 目 標 と す る 。
授 業 計 画	初 回 に 、 各 自 、 自 分 の 研 究 テ ー マ と 年 度 の 目 標 を 提 出 し て も ら い 、 そ れ に 応 じ て 、 各 自 の 目 標 を 設 定 す る と と も に 、 個 別 指 導 お よ び 全 体 指 導 の ス ケ ジ ュ ー ル を 決 め る 。
授 業 の 方 法	第 1 回 : 研 究 テ ー マ 、 年 度 目 標 の 提 出 と そ れ に 基 づ く 議 論 第 2 回 - 第 4 回 : 個 別 指 導 第 5 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 6 回 - 第 9 回 : 個 別 指 導 第 10 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 11 回 - 第 14 回 : 個 別 指 導 第 15 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換
成 績 評 価 方 法	各 自 の 目 標 達 成 度 に 応 じ て 行 な う 。
教 科 書	用 い な い 。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	特 に な し
そ の 他	対 面 ・ オ ン ラ イ ン は 感 染 状 況 を 踏 ま え 、 通 勤 通 学 、 検 査 体 制 と い っ た 社 会 的 対 応 の 状 況 を 考 慮 し た 安 全 性 評 価 に 基 づ き 授 業 開 始 ま で に 判 断 す る 。 安 全 性 評 価 は 定 期 的 に 行 い 、 途 中 で の 切 り 替 え も 考 え る 。 た だ し 、 い ず れ の 場 合 で も 個 別 事 情 に 応 じ た 学 生 の オ ン ラ イ ン 参 加 を 許 容 す る 。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影 浦 峽				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図 書 館 情 報 学 ・ 言 語 情 報 処 理 ・ 計 量 語 彙 論 ・ 情 報 メ デ ィ ア 論 分 野 で 修 士 ・ 博 士 論 文 の 執 筆 を め ざ す 大 学 院 生 の た め に 、 個 別 お よ び グ ル ー プ で 論 文 指 導 を 行 う 。 修 士 課 程 2 年 お よ び 博 士 課 程 3 年 以 上 の 場 合 は 修 士 論 文 お よ び 博 士 論 文 の 執 筆 お よ び 提 出 を 、 そ れ 以 外 の 年 次 の 学 生 に は 、 修 士 論 文 、 博 士 論 文 に つ な が る 学 会 発 表 、 論 文 執 筆 を 交 え な が ら 各 段 階 で 必 要 な ノ ウ ハ ウ お よ び 蓄 積 を 蓄 え る こ と を 目 標 と す る 。
授 業 計 画	初 回 に 、 各 自 、 自 分 の 研 究 テ ー マ と 年 度 の 目 標 を 提 出 し て も ら い 、 そ れ に 応 じ て 、 各 自 の 目 標 を 設 定 す る と と も に 、 個 別 指 導 お よ び 全 体 指 導 の ス ケ ジ ュ ー ル を 決 め る 。
授 業 の 方 法	第 1 回 : 研 究 テ ー マ 、 年 度 目 標 の 提 出 と そ れ に 基 づ く 議 論 第 2 回 - 第 4 回 : 個 別 指 導 第 5 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 6 回 - 第 9 回 : 個 別 指 導 第 10 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 11 回 - 第 14 回 : 個 別 指 導 第 15 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換
成 績 評 価 方 法	各 自 の 目 標 達 成 度 に 応 じ て 行 な う 。
教 科 書	用 い な い 。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	特 に な し
そ の 他	対 面 ・ オ ン ラ イ ン は 感 染 状 況 を 踏 ま え 、 通 勤 通 学 、 検 査 体 制 と い っ た 社 会 的 対 応 の 状 況 を 考 慮 し た 安 全 性 評 価 に 基 づ き 授 業 開 始 ま で に 判 断 す る 。 安 全 性 評 価 は 定 期 的 に 行 い 、 途 中 で の 切 り 替 え も 考 え る 。 た だ し 、 い ず れ の 場 合 で も 個 別 事 情 に 応 じ た 学 生 の オ ン ラ イ ン 参 加 を 許 容 す る 。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-213-22	単 位 数	2	学 期	通年
担 当 教 員	池内 淳				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回:研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回―第4回:個別指導第5回:グループ指導および相互の情報交換第6回―第9回:個別指導第10回:グループ指導および相互の情報交換第11回―第14回:個別指導第15回:グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	池内 淳				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第 1 回:研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第 2 回―第 4 回:個別指導第 5 回:グループ指導および相互の情報交換第 6 回―第 9 回:個別指導第 10 回:グループ指導および相互の情報交換第 11 回―第 14 回:個別指導第 15 回:グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-01	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	阿曾沼 明裕				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	高等教育論 Introduction to Higher Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業では、大学・高等教育論を学ぶための基礎的な知識を得ることを目的とする。高等教育の制度的な概念、中世以来の大学の歴史、高等教育の多様性とその系譜、アメリカ・ヨーロッパの高等教育、学位、入学システムについて学ぶとともに、大学・高等教育機関の基本的な機能である教育機能に焦点を当て、その構造と機能について学ぶ。そうした学びを経て、日本の高等教育の構造的な特徴についても理解を深める。
授 業 計 画	まず前半で、高等教育の制度的な概念、中世以来の大学の歴史、高等教育の多様性とその系譜、19 世紀以降のヨーロッパの高等教育、学位、入学システムについて講義を行い、高等教育論の基礎を学ぶ。後半では、重要文献を受講生が報告する形式で授業を進める。第1回 高等教育の制度的概念 第2回 大学の起源と発展(1) 第3回 大学の起源と発展(2) 第4回 高等教育の多様性とその系譜 第5回 19 世紀以降の欧米の高等教育 第6回 大学と学位 第7回 入学システムと大学教育 第8回 『高等教育の社会学』から第9回・第 10 回 『大学への進学』から第 11 回・第 12 回 『大学の学び』から第 13 回・第 14 回 『大学から社会へ』『大学の教育力』から
授 業 の 方 法	前半は講義形式で行い、後半は受講生が高等教育に関する重要な文献を報告し、ディスカッションを行う。また、今年度はオンラインでの授業を予定している。
成 績 評 価 方 法	授業における報告、最後の課題レポートまたは試験(試験といってもレポート的な論述式)による。毎回(2時限に一回)リフレクション・ペーパーを提出。
教 科 書	橋本鉦市・阿曾沼明裕編『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房(2021) 中村康高編『リーディングス 日本の高等教育1 大学への進学―選抜と接続』玉川大学出版部(橋本鉦市・阿曾沼明裕企画編集、2010) 杉谷祐美子編『リーディングス 日本の高等教育2 大学の学び―教育の内容と方法』玉川大学出版部(橋本鉦市・阿曾沼明裕企画編集、2010) 小方直幸編『リーディングス 日本の高等教育4 大学から社会へ―人材育成と知の還元』玉川大学出版部(橋本鉦市・阿曾沼明裕企画編集、2010)
履修上の注意・備考	大学経営政策コース以外の所属の方でこの授業を受講される予定の方は、予めメールで連絡をください。このコースでは、LMS として Google classroom を使用しますので、参加のためのクラスコードをお知らせします。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-02	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	阿曾沼 明裕				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	高等教育政策論 Higher Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では日本の高等教育政策・制度の構造と機能について理解を深めることを目的とする。高等教育政策は大学・高等教育の問題に取り組む際に政策に関する知識は欠かせない。だが、必ずしも高等教育政策研究者(政策評価研究、政策過程分析)になるわけではない。高等教育政策に資するための研究(政策のための研究)の訓練の場でもない。高等教育の問題に取り組む際に必要な、あるいは知っておくといわれる、政策の在り方、政策の構造や機能、メカニズムを理解するための枠組みや知識を得るための授業である。
授 業 計 画	授業の前半では、高等教育政策を考える際に必要ないくつかの基本的な理屈(理論、現実を捉える枠組み)を学ぶ。その後大雑把に日本の高等教育の流れを、戦前と戦後に渡って概観したうえで、後半では、主要な高等教育政策について取り上げる。その際、政府の役割を、①制度的枠組みの構築、②「規制」と「補助」を通じた量と質のコントロールと考え、そのいくつかの政策事例を取り上げ、戦後日本の高等教育政策に対する理解を深めるⅠ. 教育と社会の理論 1. 教育と社会・経済発展 2. 投資としての高等教育 3. 高等教育における市場 4. 政府の存在する根拠Ⅱ. 日本の高等教育のマクロな流れ 5. 戦前日本の高等教育制度・政策の概略 6. 戦後日本の高等教育制度・政策の概略 Ⅲ. 主要な高等教育政策 7. 制度・枠組みの構築①—学制改革 8. 制度・枠組みの構築②—教育課程・質保証の枠組み作り 9. 制度・枠組みの構築③—ガバナンスの枠組み作り 10. 政府の規制と補助①—高等教育計画 11. 政府の規制と補助②—財政補助 12. 高等教育政策の構造変化① 13. 高等教育政策の構造変化②
授 業 の 方 法	授業の前半では、主に講義を行い、後半は、毎回 3～4 種類の文献を取り上げ、3～4 人がひとり 20 分程度で文献の内容を報告し、ディスカッションを行う。授業はオンラインを予定している。
成 績 評 価 方 法	報告の参加状況、レポートあるいは試験(レポートに近い記述式)による。
教 科 書	金子元久・小林雅之『教育の政治経済学』放送大学教育振興会(2000)橋本鉦市・阿曾沼明裕編『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房(2021)大崎仁『大学改革 1945～1999』有斐閣選書(1999)村澤昌崇『リーディングス日本の高等教育6 大学と国家—制度と政策』玉川大学出版部(2010)黒羽亮一『新版 戦後大学政策の展開』玉川大学出版部(2001)このほか授業で取り上げる文献は別途そのつど提示する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-03	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営政策演習(1) Seminar on Higher Education Policy and Management (1)				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育研究に関わる課題設定、方法論、論文執筆に関わる基礎的な作法や考え方を修得することを目的とする。受講者による論文の協同執筆による投稿論文の執筆を主とした取組を考えている。
授 業 計 画	予め授業のテーマ設定は行わず、受講者の関心と高等教育研究の動向を踏まえて、年間の取り組み課題を決定する。個々の受講者の課題関心も考慮するが、高等教育研究に対する視野を拡げるため、例えば他の受講者が設定した課題であっても、その共有や取り組みを前提とする。アプローチ方法も、量的、質的、そして資料分析など、設定された課題に応じて選択する。なお、受講者数によって、取り上げる課題の数等が変更となる場合がある。①導入②第 1 クール:テーマの設定③第 1 クール:課題設定・先行研究の検討・枠組の決定④第 1 クール:論文執筆(導入と方法)⑤第 1 クール:論文執筆(考察Ⅰ)⑥第 1 クール:論文執筆(考察Ⅱ)⑦第 1 クール:論文執筆(結論と全体の見直し)⑧第 2 クール:テーマの設定⑨第 2 クール:課題考察・先行研究の検討・枠組の決定⑩第 2 クール:論文執筆(導入と方法)⑪第 2 クール:論文執筆(考察Ⅰ)⑫第 2 クール:論文執筆(考察Ⅱ)⑬第 2 クール:論文執筆(結論と全体の見直し)
授 業 の 方 法	受講者は毎回の授業の狙いと成果を理解し、担当箇所について予め準備・執筆を行い、授業時に持ちよって、改善・改訂を行う。
成 績 評 価 方 法	授業時と授業前後の実質的な取組状況によって判断する。
教 科 書	どのテーマ・方法論を採用するかは、授業時に受講者の関心も踏まえながら、受講者間での調整を含めて決定する。
履 修 上 の 注 意・備 考	この授業は通年で隔週に実施される予定。博士課程の学生を対象とした授業。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-04	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営政策研究 Research Methods for Higher Education Policy and Management				

授 業 の 目 標・概 要	論文作成に必要な知識、技能、考え方等を講義・演習形式を組み合わせで修得する
授 業 計 画	1:導入(高等教育研究とは)2:論文講読(大学経営①)3:論文講読(大学経営②)4:論文講読(比較大学①)5:論文講読(比較大学②)6:論文講読(大学政策①)7:論文講読(大学政策②)8:協同学習①9:協同学習②10:個人発表前半(関心と課題)11:個人発表後半(関心と課題)12:個人発表前半(先行研究と方法)13:個人発表後半(先行研究と方法)
授 業 の 方 法	受講者全員に同様に取り組んでもらうものと、個々の学生の関心に応じて取り組んでもらうものを組合せ、共同で学び発表するスタイルと、個人で学び発表するスタイルの双方を用いる。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と発表。
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-214-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	比較大学論 Comparative Study in Universities				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	大学とは本来、普遍的な知の拠点として、国や地域の枠組みにとらわれずに世界的に知的活動を展開させる性格を潜在的に有している。一方、近代社会の成立以降、大学が本質的な機能として担ってきた高等教育は各国の教育制度において人材養成・配分機能の重要な一角を担い、ゆえに、教育内容の特性、中等教育制度との関係、労働市場との関係などの点において、その構造と機能は国ごとの独自性を持っている。また、大学の活動のもうひとつの主軸である研究活動は、それ自体は普遍性を志向する活動であるが、その具体的な態様は、研究資金と研究の場の提供を通じて社会における諸勢力(とりわけ政府)との関係に規定されており、その実態は国によって異なっている。すなわち、大学は本来の性向として普遍性を追求しつつも、その教育機能をとっても研究機能をとっても、あるいは社会貢献機能をとっても、現実的には各国の政治・経済・文化等、広い意味での社会の諸条件の中でそれら機能を果たしている社会的組織である。またそこでは、それら諸条件の時代的变化の中で歴史的に形成されてきた大学の外的・内的構造が紐帯として現実の大学のあり方を大きく規定している。大学・高等教育について包括的な理解を持つ上では、普遍的・一般的な大学のあり方を各国の特殊性を捨象して捉えることが必要である。しかし、大学・高等教育は歴史的な社会変動や各国独自の社会的諸条件から独立して真空の中に存在しているわけではない。それゆえ、大学・高等教育をその実態を伴ったかたちで把握する上では、歴史的にみた大学・高等教育の変容、各国の諸条件の違いを反映した大学・高等教育の特殊性を視野に入れなければならない。さらには、そのことと関係しつつ、大学という存在の定義自体が国によって異なり、またとりわけ現代では一国の内部でも多様化しているという実態を踏まえるとき、そもそも大学をどう定義付けうるのかという問題自体、一義的な解答を与えられる問ではない。本講義では、アメリカの大学を対象に検討を行うが、それは、アメリカの大学が戦後日本の大学改革のモデルとなり、あるいは現在世界で大学改革のモデルと位置付けられていることが直接の理由ではない。アメリカの大学システムは高度な多様性を備えており、その多様性の検討を通して、大学・高等教育のあり方を多角的に検討し、我々の持つ大学像を拡張することが主な目的となる。さらには、教育や学術、社会との連携など、多方面でこれまで様々な取組が行われてきた歴史を振り返る中で、現代の問題にも通じる、大学・高等教育の本質的な使命や課題にアプローチする視座を、本授業を通して培ってもらいたい。
授 業 計 画	1. 比較・歴史研究の射程と方法 2. アメリカ大学の構造的特質(1) 3. アメリカ大学の構造的特質(2) 4. 大学の多様性—カーネギー大学分類の分析 5. 現代アメリカの大学 6. ヨーロッパの大学と植民地カレッジ 7. 独立後の大学と大学ガバナンス—ダートマスカレッジ・ケース 8. カレッジの教育—「イエールレポート」の分析 9. 実務的教育と大学—ランドグラント・カレッジの成立と展開 10. 研究大学と大学院教育 11. 大学のシステム化: 拡大と多様化・階層化と標準化—19世紀末から20世紀前半の大学 12. 研究大学モデルに関するケーススタディ 13. 大衆化・民主化・統制—戦後の大学
授 業 の 方 法	講義はできるだけ事前講義または補足講義とし、授業中は受講生の発表、およびディスカッションを重視する。講義と資料の配信に Google Classroom を用いるので定期的に確認すること。授業の課題は以下の4つとする。1. 事前課題: 授業に先立ち、指定の課題論文を読み、事前講義、または補足講義を視聴してくる。授業では、グループディスカッションなど討論形式を多く取り入れるので、必ず事前課題を行ってくる。2. 授業での発表: 以下①～③のいずれかの方法により、個別大学の歴史、または自分で設定したテーマについて調
成 績 評 価 方 法	期末レポート、および授業へのリフレクションによる。毎回の授業でリフレクションシートを配布するので、授業を通して考えたこと、質問などを記入して授業の最後に提出すること。・授業での発表 25%・期末レポート 50%・事前課題・ディスカッションを含めた授業への貢献、コメントシート 25%
教 科 書	主に講師作成の資料による。以下は授業前半で用いる論文の一部。詳細は開講時に指示する。ロジャー・ガイガー(福留東土・張燕訳)「アメリカ高等教育史」。福留東土「大学の理念・制度・歴史」大学経営・

	政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018 年、20-38 頁。Robert Birnbaum, "Governance and Management: US Experiences and Implication for Japan's Higher Education." William Tierney, "Globalization, International Rankings, and the American Model: A Reassessment."
履修上の注意・備考	できる限り毎回ハイフレックス方式(受講生が対面とオンラインを選択可能)で授業を行う。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-06	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営論 Management of University				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	大学の経営について、基礎的な知識を身につけるとともに、その現代的な問題点について各自の問題意識を発展させる。
授 業 計 画	下記の内容を扱う予定だが、受講生の関心を見つつ修正する予定である。主に日本の大学を念頭に進めるが、適宜、国際比較をしながら理解を深めてもらう。(1)ガイダンス、日本の大学の制度的特徴(2)大学のガバナンス①(国公立)(3)大学のガバナンス②(私立)(4)大学の組織モデル(5)大学の組織文化とリーダーシップ(6)大学の組織編制原理(7)大学の施設マネジメント①(国公立)(8)大学の施設マネジメント②(私立)(9)大学の人事マネジメント①(教職員)(10)大学の人事マネジメント②(管理職・経営者)(11)大学の財務①(制度的特徴、財務構造、補助金制度)(12)大学の財務マネジメント②(財務指標による分析)(13)大学の戦略・計画・IR、合併と連携
授 業 の 方 法	講義のほかに、グループ学習や履修者による発表、ケースメソッドを用いた授業などを行う予定。特に今回は、3・4限の連続授業となるため、1日に1つのテーマを扱い、それに関する事前学習、グループ・クラス討議(あるいはゲスト講師による講演と質疑)、そのうえでの講義といった組み合わせで理解を深める予定である。積極的に参加してもらいたい。
成 績 評 価 方 法	試験、課題、授業への参加状況などを総合的に評価する。
教 科 書	特に用いない。授業中に必要に応じて参考資料を配布する予定。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	履修予定で初回の授業に出られない場合は、前日までにメールにて連絡すること。履修を考えている方(大学経営・政策コースの学生以外)は、前日までに両角までメールしてください。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-07	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	福留 東土、深堀 聡子				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営政策各論(3) Topics in Higher Education Policy and Management(3)				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業の趣旨:教養教育は学士課程教育の重要な一部を占め、その重要性が認識されてはいるものの、日本の大学においてその位置づけはこれまで曖昧であり、有効な教育内容と方法、マネジメントについて十分に明らかにされてはいない。その一方、国内の大学では、教養教育に関わる多様な取組が進められ、個性的な教育を行う大学が少なからず存在する。本授業では、教養教育に対して理論的にどうアプローチすればよいかについて検討した後、教養教育に関する優れた実践を行っている大学をケーススタディとして複数取り上げて学生間で調査を行うとともに、ゲスト講師を招いて講義とディスカッションを行う。カリキュラムを中心とする学生教育システムの体系をどう構築するか、教職員・学生の組織編成や教育職能開発をどのように実装するかというカリキュラムとマネジメントの二つの側面に焦点を置く。目的:教育学研究を志す大学院生、大学職員や経営・政策担当者などの実務者の双方が、教養教育に関する理念的・実践的な理解を深め、それぞれの立場を活かして、多様な観点に立って知見を学び合うことを目的とする。4～5名のグループを編成し、学期を通してグループ内での学び合いを重視する。
授 業 計 画	4～5つの大学のケーススタディを授業の中心的内容とする。2回分の授業をワンセットとし、前半で、グループによる文献・資料調査と知見共有、および講師陣による指導・コメント、後半で、ゲスト講師による講義とディスカッションを行う。また、学期前半は、講師たちが過去に行った授業録画とその資料、関連論文を活用したオンデマンド講義を通して理論的な理解を深める。
授 業 の 方 法	講義、グループディスカッション、ゲストとの質疑応答を併用する。通常授業はハイフレックス方式(オンラインと対面での受講を選択可能)で実施する。数回分の授業はオンデマンド方式(過去の授業録画、および一部その補足動画)とする。
成 績 評 価 方 法	期末レポート、および授業への貢献度によって評価する。
教 科 書	深堀聡子編『アウトカムに基づく大学教育の質保証：チューニングとアセスメントにみる世界の動向』東信堂、2015。小方直幸編『大学マネジメント論』放送大学教育振興会 2020。大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018。福留東土「専門教育の視点からみた学士課程教育の構築」『大学論集』(41)、2010。
履修上の注意・備考	開講時に指示する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	両角 亜希子、林 隆之				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営政策各論(4) Topics in Higher Education Policy and Management(4)				

授業の目標・概要	大学の教育研究活動を支え、さらに発展させていくためには、財政基盤の確立が不可欠です。日本あるいは諸外国において、どのような高等教育財政システムになっており、どのような特徴や課題があるのか。また個別大学の財務戦略・行動を支える仕組みやその実態はどのようになっているのか、考えます。
授 業 計 画	この授業では、3名の教員が4回ずつ、講義を順番に担当します。内容と日程の案は以下の通り。10/8 両角①、10/15 両角②、10/22 林①、10/29 林②、11/5 林③、11/12 林④、11/26 浦田①、12/3 浦田②、12/10 浦田③、12/17 浦田④、12/24 両角③、1/7 両角④(林担当)大学へのファンディング、とくに、国立大学の運営費交付金の問題について、諸外国との比較や大学評価との関係などを扱います。(1)日本における運営費交付金および競争的資金の制度・変遷・課題(2)諸外国における経常予算の配分の現状 - 実績配分(performance based funding)・契約(compact)(3)大学評価と資金配分の関係(4)評価・資金配分の指標・測定の課題参考文献・林ほか(2020)「大学評価と運営費交付金配分の一体的改革の在り方」SciREX ワーキングペーパー・ http://doi.org/10.24545/00001809 ・林ほか(2021)「研究成果指標における多様性と標準化の両立 - 人文・社会科学に焦点を置いて -」SciREX ワーキングペーパー・ http://doi.org/10.24545/00001816 (浦田担当)大学の資金調達と資金利用の現状を踏まえ、会計制度を検討しつつ、戦略的資金活用や私学財政のあり方を考えます。私立大学を中心に取り上げますが、可能な範囲で国公立大学との比較も試みます。(1)大学の資金調達—家計負担・政府負担・社会負担(2)大学の資金活用—会計基準をふまえて(3)大学の財務改善—コストマネジメント(4)教育・研究を支える大学財務・財政(両角担当)授業全体の概要(高等教育財政システムと大学財務の関係など)について解説したうえで、個別大学の財務戦略・行動について講義し、個別大学の財務諸表を各自が分析することを通じて学びます。ゲスト講師を呼んでともに議論する可能性も検討しています。(1)高等教育財政システムの特徴と課題(2)大学の財務戦略・行動の現状と課題(3)(4)大学の財務諸表を読んでみよう
授 業 の 方 法	主に講義形式で行うが、部分的にグループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。それぞれの担当講師の指示に従うこと。
成 績 評 価 方 法	平常点とレポートによる。3名の各講師がそれぞれ成績を付けて、それらを合わせて総合的な成績とする。それぞれの担当講師が成績評価方法を説明する。
教 科 書	とくに指定しない。
履修上の注意・備考	授業日程をよく確認の上、毎回の講義に出席し、課題をすべて提出すること。授業の形態(対面・オンライン等)は検討中。大学の財務会計についての初歩的知識は授業で扱うため、前提知識として求めない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	大多和 直樹				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	高等教育調査の方法と解析(1) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (1)				

授 業 の 目 標・概 要	・高等教育を対象とした社会調査の基礎を身につけることを目標とする。修士論文等の際に自ら調査を企画・実施し、データ分析まで行えるよう、一通り調査の各プロセスについて把握する。調査を身につけるにあたっては、技術的、知識的な側面にとどまらず、思考のあり方や調査に臨む際の態度などの側面もまた重要となる。授業では、実際に既存数量的データの二次分析(エクセル統計等を利用)を演習的に行う中で、そうした部分をも体得することを目指す。
授 業 計 画	1. ガイダンス～社会調査:知的創造のためのデータ収集法2. 問いの重要性:研究は問いから始まる3. 問いから仮説へ4. 仮説検証を行う:クロス分析とは5. 検定の考え方:カイニ乗検定6. アウトプット=論文に触れる7. 質問紙の作成法:ワーディングと構成8. サンプリング9. 質的方法に触れる 10. 統計の基礎 11. 回帰分析の考え方<ミニ演習>12.ミニ演習 1 13.ミニ演習 2 14.ミニ演習 315.まとめ
授 業 の 方 法	社会調査・統計分析の基礎を理論的に学んだ後、ミニ演習(既存調査データの二次分析)を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点: ミニ演習など 40%レポート: 60%
教 科 書	耳塚寛明・中西啓喜 2021『教育を読み解くデータサイエンス:データ収集と分析の論理』ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	最初から最後まで通して参加できる学生に限る。
そ の 他	授業では統計解析を実際に行うが、その際、各自解析ソフトを用意することが求められる(SPSS が好ましい)。これについては最初の授業の際に説明する(まだ持っていない受講生は、それまでは購入等はしないほうが望ましい)。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	濱中 義隆				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	高等教育調査の方法と解析(2) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (2)				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育政策のみならず様々な社会的事象を分析する際の基礎となるデータ解析の手法について、統計学的な理論的知識を修得するとともに、実際に既存のデータを分析してみることを通して、幅広く自らの研究や実務に応用することができるようになることを目標とする。最も基本的な手法から順に多変量解析の初歩的な手法まで対象とするが、データ分析に用いるソフトウェア(表計算ソフトや統計パッケージ)の使い方については講義時間中に十分説明することは困難なため、各自で別途学習することが求められる。
授 業 計 画	1 イントロダクション 調査統計の思想と技法(量的調査と質的調査) 2 量的調査の基礎(操作化、測定、変数) 3 度数分布表と記述統計量 42つの変数間の関係の記述(クロス集計表、散布図、相関係数) 5 推測統計学の基礎(確率、期待値、確率分布) 6 統計的推測と統計的仮説検定の考え方 7 課題発表(1) 8 分散分析と回帰分析 9 多変量解析の考え方(擬似関係、媒介関係、交互作用とは)10 三重クロス表の分析 11 重回帰分析とパス解析 12 ロジスティック回帰とカテゴリカルデータ分析 13 課題発表(2) 14 試験
授 業 の 方 法	講義と演習(課題発表)(上記授業計画参照)
成 績 評 価 方 法	課題レポート2回(50%), 発表(20%), 試験(30%)とする。
教 科 書	指定しない
履修上の注意・備考	受講生は夏学期の「高等教育調査と解析(1)」を受講している者に限る。統計学や社会調査法の基礎を学習していることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-11	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	比較大学経営論(2) Comparative Study in University Management (2)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業は、大学の比較研究に対する視野を醸成することを目的とする。米国の大学人とディスカッションすることを通して、米国の研究大学の制度と実態を学ぶ。それを通して、大学に関する比較考察の視点を獲得し、日本の大学のあり方について考察する上での示唆を得る。アメリカの大学は世界の大学改革のモデルと位置付けられているが、その実態は実は十分に理解されていない。まずは予断を入れずにアメリカの大学の実態を理解しようとするのが重要である。すべての受講生が関心あるテーマを見出せるよう、幅広いテーマで講師を依頼するので、各自の関心のあるテーマや研究テーマに関する理解を深める機会としてもらいたい。また、受講生各自の関心に即して事前調査やレポート執筆を行うことを通して、比較の視点から日本の大学像を相対化し、大学に対する幅広い知見を獲得することを目指す。受講に当たって英語力は問わない。英語力そのものよりも、言語は異なっても積極的に対話し、学ぼうとする姿勢を持って参加することが重要である。本授業は、大学の比較研究に対する視野を醸成することを目的とする。米国の大学を訪問して現地で講義を受け、米国の大学人とディスカッションすることを通して、米国の研究大学の制度と実態について学ぶ。それを通して、大学に関する比較考察の視点を獲得し、日本の大学のあり方について考察する上での示唆を得る。アメリカの大学は世界の大学改革のモデルと位置付けられているが、その実態は日本において十分に理解されていない。文化や制度的伝統の異なる海外の実態を、その背後にある文脈を含めて理解することは簡単な作業ではない。この授業では、まず予断を入れずにアメリカの大学の実態を理解しようとするのが重要である。その上で、受講生各自の関心に即して事前調査やレポート執筆を行うことを通して、比較の視点から日本の大学像を相対化し、大学に対する幅広い見識を獲得することを目指す。今年度は、大学ガバナンスと学士課程教育に関わるテーマを幅広く取り上げる。それを通して、アメリカの大学経営・教育の概要を把握してもらいたい。また、すべての受講生が関心あるテーマを見出せるよう、希望に応じてそれ以外のテーマを取り上げることも可能である。各自の関心あるテーマに関する理解を深める機会としてもらいたい。なお、福留による他の授業と関連する内容もあるが、他授業の履修を前提とはしない。必要に応じて、他授業の資料を共有する。
授 業 計 画	現地での講義は5日間(月～金)行う。その他、渡航前に事前学習会、渡航後に事後報告会を行う。詳細なスケジュールは決まり次第連絡する。
授 業 の 方 法	海外で5日間の集中講義を行う。また、事前学習会、現地での検討会、事後報告会を行う。事前学習として、講師による講義を配信するので、指定の期日までに必ず視聴しておくこと。
成 績 評 価 方 法	授業への参加・貢献度、および最終レポートによる。期末レポート 80%授業への参加・貢献、コメントシート 20%・期末レポートは原則として講義テーマの中から各自の興味関心に合わせてテーマ設定を行うこと。・レポートはタイトルを付し、A4・5枚程度を目安とする。
教 科 書	適宜支持する。
履 修 上 の 注 意・備 考	・詳細なスケジュールは決まり次第、連絡する。履修希望者は授業ガイダンスに参加すること。・原則としてすべての事前学習会、講義に参加すること。・事前に期末レポートの執筆テーマを決め、事前学習会での報告と期末レポートの提出を期日を守って行うこと。・十分な準備を行った上で講義に臨み、現地のセッションでは講義を聴くだけでなく、積極的に質問・コメントをすること。・集中講義が全受講生にとって有意義な経験となるよう、受講生間で情報交換を図り、十分に協力し合うこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営事例研究(1) Case Study in University Management (1)				

授 業 の 目 標・概 要	大学経営に関する特定のテーマに取り上げて、ケーススタディの方法や質的分析の方法を学び、実践することで身につけることを目指す。
授 業 計 画	大学経営事例研究の授業では、質的なデータを収集し、それを分析する方法について、実践をしながら学ぶことを目的としています。量的な分析と質的な分析はそれぞれに強みと弱みがあり、それらを組み合わせることで、問いに対してより深い理解が得られることも多く、様々な分析手法を身につけることはとても重要です。大学経営・政策コースでも、インタビュー等の質的なデータを用いて、修士論文・博士論文を執筆する方は少なくないですが、収集したデータをどのように整理・分析して、論文にしていくなのか、というところで悩みを抱える方が少なくありません。量的な方法と異なり、研究枠組みや仮説が最初からあるわけではなく、流動的であるため、その探索的な過程を楽しむというよりも不安に感じる方も多い印象を受けています。質的なデータの方法論については、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)、エスノグラフィ、ナラティブ分析などの様々な手法が開発されてその解説本も多く出ていますが、一部ではやや技術的な工夫に片寄りすぎて、かえって使い勝手が悪い方法論もあるように感じています。質的な分析の基礎は、インタビューで得た発話を文字にして、それらをうまく言い表す名称や文句を抽象化してラベルを貼ることを通して、何らかのパターンを見出すコードをふり、類似したコードでカテゴリーを作り、それらの関係性などについて、カテゴリー/テーマをつなげ、データを説明するストーリーを構築するということにあると考えます。また、この手の手法は実践してみても、獲得していくことがとても重要だと考えます。そこで、本授業では、古典的な手法ともいえる KJ 法(言葉の組み立て工学)に着目して、それを実践してみること、質的な方法論についての理解を深め、実際に使えるようになることを目指します。詳細は、第1回の授業で説明するので、履修を希望する者は必ず出席のこと。
授 業 の 方 法	発表、討議形式で行う。共通のテーマでの質的分析の実践・発表・文章化、各自の研究テーマでの質的分析の実践・発表・文章化。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と討論等への貢献、研究内容(レポート課題等)によって総合的に評価を行う。
教 科 書	川喜多二郎『発想法』、上野千鶴子『情報生産者になる』
履修上の注意・備考	日程は現時点では下記を考えているが、変更もありうる。変更の場合は学内掲示で知らせるため、履修を希望する者は掲示を確認すること。7月18日(月、祝)、23日(土)、8月6日(土)、9月3日(土)の2-5限。第1回の授業に出られない場合は、必ず、担当講師に事前にメールで連絡すること。履修登録したものに事前ガイダンス(第1回授業までの課題等)について連絡する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、深堀 聡子、栗田 佳代子、両角 亜希子、林 隆之、福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策論文指導				
講 義 題 目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授 業 計 画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは 4 月に決定する。
授 業 の 方 法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と発表。
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-214-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、深堀 聡子、栗田 佳代子、両角 亜希子、林 隆之、福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策論文指導				
講 義 題 目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授 業 計 画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは 4 月に決定する。
授 業 の 方 法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と発表。
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学基本研究				
講 義 題 目	教授・学習過程の心理学 I Psychology of Learning and Instruction I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	様々な心理学的現象がなぜ生じるのかについて、妥当かつシンプルな説明を示すことは研究を進めていく上で必須である。本科目では、各自の関心に合った英語論文を選定し、そこで示されている現象について、各自が説明を提示し、よりよい説明となるよう議論する。なお、現象は教授・学習もしくは認知心理学領域のものを歓迎するが、これに限定しない。
授 業 計 画	心理学的現象に関する説明を考え、よりよい説明となるよう、参加者全員で討論を行う。
授 業 の 方 法	出題者は英語論文を選定し、説明の対象となる現象について簡単にまとめ、報告する。それを受けて、「その現象がどのようにして生じたのか」についての説明を参加者全員が考え、課題として提出する。授業時には「たたき台」となる説明を中心に、どのような説明が望ましいかを全員で議論する。なお、より具体的な進め方については、初回授業時に詳しく説明する。
成 績 評 価 方 法	出題者としての発表、課題の提出、授業時の議論への参加によって総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	担当回数は受講者数に応じて決定する。課題は毎回出される。積極的な参加を期待する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学基本研究				
講 義 題 目	感情と進化・文化 Evolutionary and Cultural Psychology of Human Emotions				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	私たちが日々、経験した表出する種々の感情は、私たち個々人の内的生活や心理・生理的適応において、また私たち個人と他者との関係性の構築や維持において、あるいはまた私たちを取り巻く社会・文化的風土(climate)の形成において、きわめて多様かつ不可欠の役割を果たしていると考えられる。この演習では、主に進化に由来する感情の基本的性質と、それと人間関係、集団、文化との関わりなどについて広く概観・整理したテキストを批判的に精読することを通して、私たちの日常の社会的な生活全般における感情の機能と意味について、進化論と文化論、両方の視座から深く統合的に考究することにした。
授 業 計 画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授 業 の 方 法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、必要に応じて、教員が補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成 績 評 価 方 法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。
教 科 書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発達心理学基本研究				
講 義 題 目	ことばと認知の発達 I Language and Cognitive Development I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	言語を獲得するとはどのようなことで、そのためには何が必要なのか。また、言語を獲得することで、思考や認知などはどのような影響を受けるのか。このような問題意識のもと、基本的な文献の購読を行う。
授 業 計 画	この領域の基本文献をとりあげ、輪読する。
授 業 の 方 法	演習
成 績 評 価 方 法	授業における発表、討論への参加、レポートによる。
教 科 書	初回授業時に指示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	初回授業時に、発表の割り当て、スケジュールなどを決定するので、履修希望者は必ず初回授業には出席すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学基本研究				
講 義 題 目	創造的認知の心理学 I Psychology of Creative Cognition I				

授 業 の 目 標・概 要	創造性、特に芸術表現活動についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。
授 業 計 画	文献の講読今年度は、広い意味で創造性に関連する論文を読んで議論する。論文のリストは初回の授業で配布。
授 業 の 方 法	広い意味での創造性や芸術創作活動に関する文献を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当論文の発表が求められる。COVID-19 の問題のため、オンラインで授業をする。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と議論への参加、及び担当論文の発表。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	毎回の出席
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学基本研究				
講 義 題 目	心理統計学演習 Seminar on Psychological Statistics				

授 業 の 目 標・概 要	本科目は、(必ずしも統計学を専門としない)心理学を専攻する大学院生を主たる対象として、量的な心理学研究を行う上で遭遇する疑問等に対して自ら解決する力を養うことを大きな目的として開講する。本年度は、とくに心理学における効果量関連の話題と、それに関連したベイズ統計的アプローチへの注目を主題とし、これらに関わる先行研究の文献を探し、読み、共有しあった上で、方法論的な観点からの議論を行う。参加者には、心理学の方法論に関連する英語論文・文献を読み、発表し、議論することが求められる。
授 業 計 画	初回において、効果量に関する話題とベイズ統計にまつわるイントロダクションを行い、文献の例を提示する。第2回以降は、各論文に対して発表者を割り当て、発表をしてもらった上で議論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による
成 績 評 価 方 法	発表内容と議論への参加などを総合的に評価する
教 科 書	関連文献を適宜指示する。参考文献は以下のとおり。大久保街亜・岡田謙介(2012). 伝えるための心理統計: 効果量・信頼区間・検定力. 勁草書房. 南風原朝和(2014). 続・心理統計学の基礎--統合的理解を広げ深める. 有斐閣.
履 修 上 の 注 意・備 考	履修を考えている学生は初回に参加すること(事情により参加できない場合には連絡すること)。発表時などにはノート PC を持参できることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学基本研究				
講 義 題 目	心理統計学特論 Advanced Psychological Statistics				

授 業 の 目 標・概 要	本科目では、現代テスト理論である項目反応理論がどのように活用されているかを知り、その地平を広げることを目指して、項目反応理論の最近の成書である Bock & Gibbons (2021) Item Response Theory. Wiley. の輪読を行う(予定であり、変更されることがある。別案としては Carlson (2021)を検討している)。受講者には、教科書を読み、内容を発表した上で討議を行うことが求められる。
授 業 計 画	1 Foundations 2 Selected Mathematical and Statistical Results 3 Unidimensional IRT Models 4 Item Parameter Estimation – Binary Data 5 Item Parameter Estimation – Polytomous Data 6 Multidimensional IRT Models 7 Analysis of Dimensionality 8 Computerized Adaptive Testing 9 Differential Item Functioning 10 Estimating Respondent Attributes 11 Multiple Group Item Response Models 12 Test and Scale Development and Maintenance 13 Some Interesting Applications
授 業 の 方 法	演習(文献講読・議論・Rプログラミング)による
成 績 評 価 方 法	発表内容および議論への参加などに基づいて総合的に評価する。
教 科 書	Bock & Gibbons (2021) Item Response Theory. Wiley.ただし、受講者の要望や状況によっては別の教科書等を用いることもありうる
履修上の注意・備考	履修希望者は必ず初回授業に出席すること(事情により難しい場合には連絡すること)R 言語の利用経験があることが望ましい。発表には各自の PC を利用してもらう予定である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学特殊研究				
講 義 題 目	教授・学習過程の心理学Ⅱ Psychology of Learning and InstructionⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	学習・問題解決を中心とした認知活動において、自己と他者が果たす役割の異同について検討した心理学的知見や、実験を主とした研究方法について理解することを目標とする。
授 業 計 画	学習・問題解決を中心とした認知活動において、自己と他者が果たす役割の異同について検討した実証研究を毎回発表者が紹介し、そこで明らかになったこと、今後検討すべき課題は何か等について受講者全員で討論する。初回授業時により具体的な進め方について指示を行うので、履修予定の人は必ず出席すること。
授 業 の 方 法	毎回2名が発表者となって、テーマに合致した実証研究を紹介する。その後、全員で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	発表および討論への参加により評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	積極的な参加を期待する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学特殊研究				
講 義 題 目	関係性と子どもの社会情緒的発達 Relationships and Children's Socio-Emotional Development				

授 業 の 目 標・概 要	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果を広く概観・整理したテキストを精読しながら、特に子どもの社会情緒的発達の様相、および、それらに養育環境、とりわけ種々の関係性（親子関係や家族関係など）や社会文化の特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて基本的知見を得る。また、早期段階における個人差が何に起因して生じ、また、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても、遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえつつ考究することとしたい。
授 業 計 画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授 業 の 方 法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、教員が必要に応じて、補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成 績 評 価 方 法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づき、総合的に評価を行う。
教 科 書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	針生 悦子				
授 業 科 目	発達心理学特殊研究				
講 義 題 目	ことばと認知の発達Ⅱ Language and Cognitive Development Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	言語や認知、社会性、またそれらの発達をアツカフた研究論文の購読を通じて、最新の研究動向、研究手法などについて学ぶ。
授 業 計 画	参加者が、論文を担当し、順次発表を行っていく。
授 業 の 方 法	演習形式
成 績 評 価 方 法	授業における発表や、討論への貢献、レポート
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回授業時に、担当の割り当てをするので、履修希望者は必ず初回の授業に参加すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学特殊研究				
講 義 題 目	創造的認知の心理学Ⅱ Psychology of Creative Cognition Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	創造性、特に芸術表現活動についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。
授 業 計 画	文献の講読今年度は、広い意味で創造性に関連する論文を読んで議論する。論文のリストは初回の授業で配布。
授 業 の 方 法	広い意味での創造性や芸術創作活動に関する文献を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当論文の発表が求められる。COVID-19 の問題のため、オンラインで授業をする。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と議論への参加、及び担当論文の発表。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	毎回の出席
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	量的研究法 Quantitative Research Methods				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	社会科学において広く利用されている多変量解析手法である、構造方程式モデリング(Structural Equation Modeling: SEM)に関する基礎的事項と統計ソフト R を用いた分析の実際について幅広く学ぶ。
授 業 計 画	指定された教科書の輪読を中心に進める。
授 業 の 方 法	講義と教科書の輪読。
成 績 評 価 方 法	出席状況, 発表内容, また必要に応じて実施する試験の成績等を通して総合的に判断する。
教 科 書	Kline, R. B. (2016). Principles and Practice of Structural Equation Modeling (4th ed.). Guilford Press.ただし、初回講義時に、その他参考文献を紹介する。
履修上の注意・備考	他学部履修を希望する者は事前に教員に連絡すること。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	心理統計学の近年の展開 Recent Developments in Psychometrics				

授 業 の 目 標・概 要	Psychological Methods や Psychometrika, Annual Review of Psychology 等の海外誌を中心に論文輪読を行い、心理統計学の最新の研究動向について幅広く学ぶことを目指す。
授 業 計 画	各回の論文の担当者は担当した論文の内容を要約し、受講者へ説明する。
授 業 の 方 法	論文輪読
成 績 評 価 方 法	出席状況, 発表内容, 討論参加の程度によって総合的に判断する。
教 科 書	特に指定しないが, 参考文献を適宜教示する
履修上の注意・備考	心理統計学や量的研究法に関する最新の研究動向について積極的に学び, 自身の研究・実践に活かしたいと考えている方の受講を歓迎します。発表では, 粘り強く担当論文と向き合い, 自分の得た理解を他人に分かりやすく簡潔に説明する作業を重視します。心理統計学に関する学部程度の知識は前提として進めます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-13	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	前川 眞一				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	心理測定のための数学的道具 Mathematical Tools for Psychometrics				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理測定学（psychometrics）で必要となる数学的方法の基礎を取得する。
授 業 計 画	総和記号演算や行列演算の復習から初めて、確率変数の性質を学び、その具体例としてのテスト理論を紹介する。 後半は、心理測定で使われる統計モデルの母数の推定方法を R を利用しながら学ぶ。
授 業 の 方 法	対面ならびのオンラインの両方を利用し、主に講義形式で行う。
成 績 評 価 方 法	中間課題と最終レポート
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	授業では R を利用するので、使えることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-14	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	土屋 隆裕				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	統計調査法概論 Statistical Survey Methodology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	経済・社会・教育・行政等様々な分野における統計調査、特に標本調査の企画・設計における基本的な知識・技術を学び、適切な調査の企画・設計ができるようになることを目指す。具体的には、1)調査票の設計が調査結果に与える影響について理解するとともに、2)様々な標本抽出の方法とその特性を理解し、3)標本抽出方法に沿った適切なデータ分析方法を習得することを目指す。
授 業 計 画	第1週 母集団と標本・単純無作為抽出法第2週 不偏推定量と抽出ウェイト第3週 不偏推定量の分散第4週 Basu の象の教訓第5週 比推定量第6週 系統抽出法・層化抽出法第7週 集落抽出法第8週 多段抽出法第9週 ウェイトのキャリブレーション第10週 無回答第11週 調査票の設計(1)第12週 調査票の設計(2)第13週 調査票の設計(3)
授 業 の 方 法	講義による
成 績 評 価 方 法	レポートによる
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	統計学の基礎的な知識を前提とする
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学, 特に教授・学習, 認知の分野で修士論文を執筆する学生に対して, 研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文の作成を念頭において, 大学院における研究について受講生が報告し, 参加者全員で討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講者は担当回に自らの研究の進捗状況について報告する。その報告に対して, 参加者全員で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況および, 討論への参加状況を踏まえて, 総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	開講日時は, 受講者と相談の上, 決定する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学, 特に教授・学習, 認知の分野で博士論文を執筆する学生に対して, 研究指導を行う。
授 業 計 画	博士論文の作成を念頭において, 大学院における研究について受講生が報告し, 参加者全員で討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講者は担当回に自らの研究の進捗状況について報告する。その報告に対して, 参加者全員で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況および, 討論への参加状況を踏まえて, 総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	開講日時は, 受講者と相談の上, 決定する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、特に、教授・学習分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	開講日時は、受講者と相談の上、決定する。基本的には文献購読や研究内容の発表等から構成される（昨年度は S セメスターには、「査読者になったつもりで批判的に論文を読むゼミ」を、A セメスターは「学会の講演者になるゼミ」を実施した）。植阪研究室の学生を基本とするが、教授・学習分野に関心がある学生については、それにとどまらず、参加を歓迎する。ゼミへの参加を希望する学生は、植阪 (yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp) にメールすること。参加を希望する学生は原則として初回に参加すること。以下の zoom に入室されたい。 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/92321754359?pwd=T3VXSUhlTjhCM2VJUkpPM3g4MktJQT09 ミーティング ID: 923 2175 4359 パスコード: 461186
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	研究や発表等により、総合的に判断する。
教 科 書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	主体的に参加することを期待する。
そ の 他	植阪研究室について：薬学部607に研究室がある。対面での面談の場合には、以下の道案内に従って訪問されたい。薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路で右に曲がること。十字路右手裏にあるエレベーターで6階に上がり、エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあける。扉からみて、左側の部屋607が研究室。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-215-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、特に、教授・学習分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	開講日時は、受講者と相談の上、決定する。基本的には文献購読や研究内容の発表等から構成される（昨年度は S セメスターには、「査読者になったつもりで批判的に論文を読むゼミ」を、A セメスターは「学会の講演者になるゼミ」を実施した）。植阪研究室の学生を基本とするが、教授・学習分野に関心がある学生については、それにとどまらず、参加を歓迎する。ゼミへの参加を希望する学生は、植阪 (yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp) にメールすること。参加を希望する学生は原則として初回に参加すること。以下の zoom に入室されたい。 https://zoom.us/j/92321754359?pwd=T3VXSUhtITJhCM2VJUkpPM3g4MktJQT09 ミーティング ID: 923 2175 4359 パスコード: 461186
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	研究や発表等により、総合的に判断する。
教 科 書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	主体的に参加することを期待する。
そ の 他	植阪研究室について：薬学部607に研究室がある。対面での面談の場合には、以下の道案内に従って訪問されたい。薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路で右に曲がること。十字路右手裏にあるエレベーターで6階に上がり、エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあける。扉からみて、左側の部屋607が研究室。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式で行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特に用いない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	基本的に、履修は指導学生に限る。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式で行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特に用いない。
履修上の注意・備考	基本的に、履修は指導学生に限る。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発 達 心 理 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	教 育 心 理 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達分野で修士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授 業 計 画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 修士論文の作成をめざす。
授 業 の 方 法	演習形式。参加者は, 各自の研究の経過や見通しについて発表をおこない, それに対して, 討論・助言をおこなっていく。
成 績 評 価 方 法	演習における発言や発表を総合的に評価する。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 授業にのぞむこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発 達 心 理 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	教 育 心 理 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達分野で博士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授 業 計 画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 報告書(論文)を作成する。このようなプロセスの積み重ねにより, 博士論文の作成をめざす。
授 業 の 方 法	演習形式と個別指導。参加者各自の研究の経過や見通しにもとづき, 議論・助言をおこなっていく。
成 績 評 価 方 法	研究の進め方やその成果を総合的に評価する。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 討論・指導にのぞむこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授 業 計 画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイディアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授 業 の 方 法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授 業 計 画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイデアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授 業 の 方 法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授 業 計 画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授 業 の 方 法	個別指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授 業 計 画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授 業 の 方 法	個別指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学の分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、とくに統計学的な観点から、研究指導および論文指導を行う。
授 業 計 画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	各個人の論文執筆過程における研究計画・進行状況、およびその成果を総合的に評価する。
教 科 書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学の分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、とくに統計学的な観点から、研究指導および論文指導を行う。
授 業 計 画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	各個人の論文執筆過程における研究計画・進行状況、およびその成果を総合的に評価する。
教 科 書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	年間にわたり、随時行う。
授 業 の 方 法	研究指導、発表指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する
教 科 書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	年間にわたり、随時行う。
授 業 の 方 法	研究指導、発表指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する
教 科 書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-01	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	能智 正博、野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ） Practicum in Clinical PsychologyⅠ（Advanced Practical Training in PsychologyⅠ）				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	学内研究機関である心理教育相談室および学外の連携研修機関（精神科病院、クリニック、学校、産業組織など）において臨床業務に参加し、現場実習を行う。その経験の見直しを兼ねてカンファレンスにおいて事例検討を行う。形態として、受付事例を検討する初期カンファレンス、各ゼミで個別にカンファレンスを行う個別カンファレンス、各ゼミが合同して行う合同カンファレンスに分かれる。
授 業 計 画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス(1)3.合同カンファレンス(1)4.臨床検討会(1)5.初期・実習カンファレンス(2)6.合同カンファレンス(2)7.臨床検討会(2)8.初期・実習カンファレンス(3)9.合同カンファレンス(3)10.臨床検討会(3)11.初期・実習カンファレンス(4)12.合同カンファレンス(4)13.臨床検討会(4)
授 業 の 方 法	受講生は、S1、S2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上（心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上）行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授業を構成する
成 績 評 価 方 法	実習に対する取組み、出席状況と授業における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-02	単 位 数	1	学 期	A1A2
担 当 教 員	能智 正博、野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理実習Ⅱ（心理実践実習Ⅱ） Practicum in Clinical PsychologyⅡ（Advanced Practical Training in PsychologyⅡ）				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理実習Ⅰに引き続いて内部実習および外部実習を継続する。テーマ：臨床心理実習Ⅱでは、特に修士課程終了の活動への移行に向けての準備を行う。その点で、臨床現場で臨床心理士として活動するための社会性、倫理、他職種との協働などの知識と技能の獲得を主要な教育訓練の目標とする。
授 業 計 画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス(1)3.合同カンファレンス(1)4.臨床検討会(1)5.初期・実習カンファレンス(2)6.合同カンファレンス(2)7.臨床検討会(2)8.初期・実習カンファレンス(3)9.合同カンファレンス(3)10.臨床検討会(3)11.初期・実習カンファレンス(4)12.合同カンファレンス(4)13.臨床検討会(4)
授 業 の 方 法	学内臨床実習＋外部施設研修＋事例検討会受講生は、A1、A2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上（心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上）行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授
成 績 評 価 方 法	実習に対する取り組み、出席状況における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理学特論 I Clinical Psychology I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理学の初学者を対象に、臨床心理学の全体像と学習にあたっての心構えについて講義する。特に心理援助職を目指すための心構え、教育訓練過程で必要とされる最低限の知識と技能とは何か、倫理について、講義とディスカッションを通して学ぶことがねらいである
授 業 計 画	§ 1-2: 臨床心理士になることの意味／動機を探る § 3-5: 臨床心理学の教育訓練の過程 § 6-7: 学習にあたっての心構え § 8-10: 学習に臨む姿勢／倫理について § 11-12: 専門性の見直しと発展 § 13: まとめ
授 業 の 方 法	レポーターによる発表と、グループディスカッションを中心に授業を進める。グループダイナミクスを取り入れることによって、グループワークのファシリテートについても体験的に学ぶことが出来る構成とする。
成 績 評 価 方 法	毎回の振り返りレポートの提出とレポーターを努めること、授業の最後に提出する課題レポートによって総合的に評価する。
教 科 書	コーリー & コーリー (下山監訳)『心理援助の専門職になるために』 金剛出版金沢吉展著, 臨床心理学の倫理を学ぶ, 東京大学出版会
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	レポーターを務めることは、これまであまり経験してこなかった一対一や一対他の人間関係の体験的学びになる。積極的に臨み、自分自身の傾向について考えてみて頂きたい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-216-04	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理学特論Ⅱ Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	特論Ⅰにおける臨床心理学の専門性についての基本的な理解を前提に、特論Ⅱでは実際の臨床現場で様々な社会システムと関わっていく際に求められる実践的な態度、知識、技能について講義する。社会的場面で働く際に必要な専門性や集団をマネジメントする技法について、講義とワーク、ディスカッションを通して実践的に学ぶことをねらいとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. コミュニティにおける心理援助(1) 3. コミュニティにおける心理援助(2) 4. コミュニティにおける心理援助の実際(1) 5. コミュニティにおける心理援助の実際(2) 6. グループを通しての心理援助(1) 7. グループを通しての心理援助(2) 8. 家族を通しての心理援助(1) 9. 家族を通しての心理援助(2) 10. 人生の移行について理解する(1) 11. 人生の移行について理解する(2) 12. ストレスとバーンアウト(1) 13. ストレスとバーンアウト(2) 14. ストレスとバーンアウト(3) 15. 振り返り
授 業 の 方 法	テーマを選択し、テーマごとにグループで発表を担当する。毎回、発表とワーク、グループシェアリングを組みこむ。
成 績 評 価 方 法	発表、毎回のレポートにより総合的に評価する。
教 科 書	「心理援助の専門職として働くために」 金剛出版 下山晴彦(監訳)
履修上の注意・備考	発表をグループで担当することからも、グループ単位でのチームワークや集団力動を直に体験して頂きたい。全体シェアリングにおいても積極的な参加を求めます。
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-216-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理面接特論Ⅱ Interview Methods for Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	近年、臨床心理学的な研究において質的研究の技法に近年ますます注目が集まっている。心理療法やカウンセリングなどの実践においても、面接結果をていねいに読み解いていくための手続きや技法は、質的な調査インタビューから学ぶところが大きい。この授業では、基本的なテキストの輪読をして質的なインタビュー調査の全体像を理解した後、各自が収集した語りデータを素材として分析法の実習を行う。手法としては比較的オーソドックスなカテゴリー分析を基本としながら他の方法にも目配りを行い、幅広く質的データの分析法を理解することを目標とする。
授 業 計 画	以下のようなトピックを扱う。・インタビューの手順・ナラティブの分析の諸技法・初期コーディングの手続き・発展的コーディングの手続き
授 業 の 方 法	質的データの分析をいくつかのステップに分けて学んでいく。受講生がインタビューで得られたテキストを提供し、それをエクササイズのマテリアルとして用いながら分析手続きの実際を体験する。ストラウス版のグラウンデッドセオリーの分析法を基本とするが、M-GTA, S-CAT, TEA 等にも触れる。収集したテキストの分析は各自進めていき、最終的に、分析結果をもとにしたレポートを執筆する。
成 績 評 価 方 法	出席と授業への参加:50% レポート:50%
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） Seminar on Assessment of Clinical PsychologyⅠ（Theory and Practice of Psychological Assessment）				

授 業 の 目 標・概 要	<全体テーマ> 公認心理師の実践における心理的アセスメント、および精神医学的症候・症状の理論と実践への応用の意義、およびその方法を解説し、実践場面における相談、助言、指導にどう応用していくかを、実例も交えながら検討していく。テーマ：アセスメントおよび症候・症状学の基礎知識と方法の解説 * 臨床活動におけるアセスメントの役割 * 精神症状・症候の分類 * 異常心理学及び精神医学 * 生物-心理-社会モデルの中での活用法 * 見立ての形成：ケースフォーミュレーション * 初回面接
授 業 計 画	1. 臨床心理学と精神医学：アセスメント・症候と診断のガイダンス2. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表①：ビデオ13. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表②：ビデオ24. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表③：ビデオ35. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表④：ビデオ46. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑤：ビデオ57. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑥：ビデオ68. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑦：ビデオ79. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑧：ビデオ810. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑨：ビデオ911. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑩：ビデオ1012. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑪：ビデオ1113. 総括と議論
授 業 の 方 法	1) 臨床心理アセスメント及び精神症候・症状学に関する文献購読と発表2) ビデオ等を活用した精神障害やそのアセスメントの解説3) アセスメントと症候・症状学についての研究成果の発表
成 績 評 価 方 法	平常点(80%)：リアクションペーパー（主に出席点）と授業への参加状況などによって評価する。発表(20%)：担当発表
教 科 書	『第2巻・臨床心理アセスメント』松田修・滝沢龍（編著）東京大学出版会（2022年発刊予定）
履 修 上 の 注 意・備 考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	滝沢 龍、高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理査定演習Ⅱ Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	目標: 心理アセスメント—見立てをたてるということ—は、心理的な問題を理解するために不可欠である。アセスメントには、臨床心理面接におけるクライエントの話をもとに行う場合と、心理検査をもとに行う場合がある。本演習では後者の心理検査を用いたアセスメントに焦点化し、心理援助実践において使われる心理検査の概要を把握するとともに、それらを適切に実施し、アセスメントする能力を獲得することを目指す。概要: はじめにアセスメント全体の概説を行い、次に、様々な心理検査についての概要の説明をした上で、受講者全員が互いに検査を実施しあい、検査結果を書きあげるという一連のワークを行う。本演習では、検査者としての検査スキル、アセスメント能力の向上を図るとともに、検査をされる側の体験をすることも重視している。
授 業 計 画	1. ガイダンス・医療領域における検査(滝沢)2. 様々な面接・質問紙検査1(滝沢)3. 様々な面接・質問紙検査2(滝沢)4. 神経心理検査(滝沢)5. 投映法(高橋)6. 質問紙法(高橋)7. 知能検査(高橋)8. 総合所見(高橋)9. ロールシャッハ・テスト1(中村)10. ロールシャッハ・テスト2(中村)11. ロールシャッハ・テスト3(中村)12. ロールシャッハ・テスト4(中村)13. 治療的アセスメント(高橋)
授 業 の 方 法	講義と実習をおこなう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(出席と課題発表)などによって評価する。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-08	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	高橋 美保、野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理基礎実習 I Basic Practicum in Clinical Psychology I				

授 業 の 目 標・概 要	<全体テーマ>臨床心理活動の基礎となる実践技能を解説し、その上でシミュレーション学習を通して技能を習得する。現場で実践活動を行うための最低限の技能を習得することが目的となる。テーマ:臨床面接法の基礎理論と技能実習 * 臨床面接法とは * 臨床面接法の基礎理論と技能 * 共感的面接技能の基礎訓練 * ロールプレイ実習1とグループ討議 * 査定の面接技能の基礎理論と技能 * ロールプレイ実習2とグループ討議 テキスト:「心理臨床の基礎1:心理臨床の発想と実践」岩波書店 下山晴彦(著)
授 業 計 画	§ 1～2:レクチャー「臨床面接法とは」§ 3～9: 共感を用いた臨床面接のロールプレイとその振り返り § 10～14: アセスメント面接のロールプレイとその振り返り § 15: 質疑応答
授 業 の 方 法	講義とロールプレイの実施及びテープ起こしデータを用いた小グループでの話し合いという形態で授業を進める
成 績 評 価 方 法	出席状況と授業へのアクティブな参加状況、学期末およびセッションの区切りで課すレポートとで総合的に判断する
教 科 書	「臨床心理学をまなぶ1 これからの臨床心理学」東京大学出版会 下山晴彦(著)「臨床心理学をまなぶ2 実践の基本」東京大学出版会 下山晴彦(著)
履修上の注意・備考	ロールプレイとその振り返りを用いての体験学習であるので、積極的なコミットメントを期待したい【重要】 コロナウィルス対応のため、授業開始を4月第2週からとし、時間も2限とする。したがって、第1回の授業は、4月10日金曜日の2限(10時25分～)に、オンライン授業を基本として開始する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-09	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	高橋 美保、能智 正博				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理基礎実習Ⅱ Basic Practicum in Clinical PsychologyⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	対人援助の基礎を理解した上で、心理的支援が社会的活動であることを理解するために、心理職である前に組織人としての自覚を持ち組織や協働できる心理職の素養を身に付ける。また、実践で用いるプレイセラピーの理論を理解した上で、児童臨床現場で必要となる臨床心理アセスメントまで心理療法の基礎を学ぶ。さらに、実践に向けて、インテーク面接から心理的支援の流れまでを、事例や体験を通して包括的に学ぶ。
授 業 計 画	第1回:ガイダンス第2回:組織としての相談機関第3回:プレイセラピーとは何か第4回:プレイセラピーの基本第5回:プレイセラピーの基本第6回:プレイセラピーの基本第7回:プレイセラピーのケース検討第8回:臨床心理学的アセスメント第9回:臨床心理学的アセスメント第10回:インテーク面接第11回:ケースフォーミュレーション第12回:心理支援とは第13回:心理支援の流れ
授 業 の 方 法	概説とディスカッションを中心とする。ただし、内容によっては、ロールプレイやワークなども交える。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践） Interview Methods for Clinical PsychologyⅠ（Theory and Practice of Psychological Support）				

授 業 の 目 標・概 要	目標：心理面接の基礎と、ケース運営の一連の流れを理解するとともに、様々な心理療法や臨床実践における多様な関わりを学び、臨床実践力を高めることを目的とする。概要：実際のケース運営と心理実践の様々な技法のポイントについて理解を深める。具体的には心理相談が、どのように始まりどのような経過を経て終わって行くのかについて、一連の流れを理解する。さらに、様々な心理療法の理論や技法を習得することに加え、臨床実践における多様な関わりを理解し、臨床実践を行うための基礎を習得する。
授 業 計 画	第1回：試行カウンセリング振り返り第2回：ケースフォーミュレーション第3回：ケースマネジメント第4回：適切な支援方法の選択・調整第5回：来談者中心療法第6回：力動的な心理療法第7回：行動論、認知論に基づく心理療法第8回：家族療法第9回：保護者面接・並行面接第10回：チームワークと連携第11回：心理教育第12回：コンサルテーション第13回：研修
授 業 の 方 法	各テーマについての概説とディスカッションを行う。テーマによってはワーク、ロールプレイを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	能智 正博、滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講 義 題 目	臨床心理学研究法 Research Methods in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学的な対人援助技法には、効果がありそれが持続すること、副作用や害がないことについて、良質なエビデンスが存在することが望ましい。場合によってはどのような形でエビデンスを取り出せばよいのか、新たな仮説を生成していくことも必要になる。本授業では、臨床心理学的な研究を行うための知識と技能を身につけるため、量的研究・質的研究両者の基礎を学ぶ。
授 業 計 画	1. ガイダンス(能智・滝沢)2. 量的研究のデザイン(滝沢)3. 記述研究／偶然・バイアス・交絡(滝沢)4. ケースコントロール研究(滝沢)5. コホート研究(滝沢)6. ランダム化比較試験(滝沢)7. スクリーニング／メタアナリシス(滝沢)8. 質的研究のバリエーション(能智)9. 質的研究のデザイン(能智)10. 質的研究の方法(能智)11. 質的研究の結果と考察(能智)12. 混合研究法(能智)13. 論文の評価(能智)
授 業 の 方 法	ゼミ形式で行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	Hennekens, C.H. & Buring, J.F. (1987) Epidemiology n Medicine. LW&W.Hulley ら (2014). 医学的研究のデザイン 第 4 版 メディカル・サイエンス・インターナショナル Levitt, H. M. (2020) Reporting qualitative research in psychology. (APA)
履修上の注意・備考	積極的に発言してほしい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-216-12	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	メンタルヘルスマネジメント基礎(産業・労働分野に関する理論と支援の展開) Mental Health Management Basic (Support Theory and Applications in Industry and Work Area)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業では、産業・労働分野の支援で求められる知識やスキルの習得を目指す。産業・労働分野における支援のあり方について、組織へのコンサルテーションやチーム支援の技能を含めて学ぶ。
授 業 計 画	1.ガイダンス 2.新旧のキャリア・ディベロップメント理論とワーキング心理学 3.人種と働くこと 4.ジェンダーとワーキング心理学 5.LGBTを包括したワーキング心理学を目指して 6.貧困、社会階層、働くこと 7.「仕事と家庭」から「働き方の二項モデル」へ 8.高齢化と働くことへのアプローチ 9.働くことと障害 10.仕事、仕事に関わるアイデンティティおよびキャリア上の成功の再定義 11.仕事の問題を抱えるクライアントとのカウンセリング 12.心理療法、および治療行為へのワーキング心理学の統合 13.産業臨床の現場の実践
授 業 の 方 法	課題図書に関する分担発表と、それに関するディスカッションにより構成される。適宜、グループワークを行うとともに、ゲスト講師を招いて臨床実践の理解を深める。
成 績 評 価 方 法	授業参加とレポートによる総合評価
教 科 書	授業内で紹介する
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可 (GCL は可)
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可 (GCL は可)
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	メンタルヘルスマネジメント応用（心の健康教育に関する理論と実践） Mental Health Management Applied (Theory and Practice of Mental Health Education)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業は、メンタルヘルスの向上に役立つ臨床心理学の研究とは何か、そのような研究を企画し、実践し、論文化し、さらにメンタルヘルス実践に役立てることに関しての知識及び技法を発展させることを目的とする。方法は、参加メンバー自身の研究成果、あるいは関心領域の研究レビューを発表し、その内容について議論を深める。具体的には、研究論文として発展させるプロセス及び研究成果を臨床活動に役立てるプロセスの理解を深め、メンタルヘルスのマネジメントに役立つ研究の扱い方、つまりエビデンスベーストプラクティスについての学習を深める。また、心の健康教育に関する理論を重視し、その実践を中心に検討する。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2-3. 心の健康教育に関するメンタルヘルス支援の実際:理論 4-5. 心の健康教育に関するメンタルヘルス支援の実際:実践 6-7: 参加者による発表の準備 8-12:参加者による発表と討論 13:まとめと振り返り
授 業 の 方 法	参加メンバー自身の研究成果、あるいは心の健康教育に関する研究レビューを発表し、その内容について議論を深める。研究に留まらず、実際に実践を通して学ぶ機会を作る。
成 績 評 価 方 法	授業への参加、発表、レポートなどによって総合的に判断する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	出席と発表を重視する
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可 (GCL は可)
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可 (GCL は可)
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-14	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	原田 隆之				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講 義 題 目	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 Support Theory and Applications in Forensics and. Criminology Area.				

授 業 の 目 標・概 要	犯罪・非行に対する心理学的理解を深め, リスクアセスメント, 治療, 社会的な対策について, 最新最善のエビデンスを考慮しながら検討する。To have psychological understanding of crime and delinquency, and to discuss risk assessment, treatment and social measures considering up-to-date and high-quality research evidence.
授 業 計 画	1 オリエンテーション/ Orientation2 エビデンスに基づく犯罪臨床/ Evidence-based practice 3 個別発表(第1-2章)/Individual presentation4 個別発表(第3-4章)5 個別発表(第5-6章)6 個別発表(第7-8章)7 個別発表(第9-10章)8 個別発表(第11-12章)9 個別発表(第13-14章)10 個別発表(第15章)11 主な臨床的技法/Basic clinical techniques12 まとめ/ Conclusions
授 業 の 方 法	講義と演習/Lecture and seminar
成 績 評 価 方 法	平常点, 個別発表, レポート/general attendance, individual presentation, report
教 科 書	ボンタ&アンドリュース, 原田隆之訳犯罪行動の心理学(北大路書房)Bonta & Andrews, Psychology of Crinimal Conduct, 6th ed.
履 修 上 の 注 意・備 考	履修生は教科書を分担してレジュメ(PPT)を作成し, 個別発表を行います。事前に履修生の間で分担を決め, 発表の準備をしておいてください。事前に質問があるときは, 誰かが代表して下記メールアドレスまでお尋ねください。Students are requested to make an individual presentation with PPT slides on each chapter of the textbook.Please assign one or two chapter(s) to each me
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開) Psychiatry (Support Theory and Applications in Medical and Health Area)				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野に役立つ精神医学・メンタルヘルスの診断・治療・対処法について講義する。DSM 診断に沿って精神医学各論を実践的な診断・治療・予防に役立つ知識を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業計画(初回ガイダンスで詳細の日程を配布する)1. ガイダンス／治療の要点(第20章)2. 神経発達症群(第1章)3. 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群(第2章)4. 双極性障害および関連障害群(第3章)5. 抑うつ障害群(第4章)6. 不安症群(第5章)／身体症状症および関連症群(第9章)7. 心的外傷およびストレス因関連障害群(第7章)／解離症群(第8章)8. 強迫症および関連症群(第6章)／食行動障害および摂食障害群(第10章)9. 睡眠-覚醒障害群(第12章)10. 秩序破壊的・衝動制御・素行症群(第15章)11. パーソナリティ障害群(第18章)12. 神経認知障害群(第17章)／身体疾患に伴う精神障害(症状精神病)13. 薬物療法・小テスト
授 業 の 方 法	毎回おおむね、・発表・講義(60分)、・質疑応答(30分:講義開始時に前回分15分、講義終了後に今回分15分)、・リアクションペーパー記入(15分)、で構成される。初回ガイダンス参加者の希望にて、講義の各論の内容・順番を調整することがある。
成 績 評 価 方 法	平常点(60%):リアクションペーパー(主に出席点)と授業への参加状況などによって評価する。発表(20%):担当が各章の要点を発表最終講義時に小テスト(20%)を行い、理解度を評価する。
教 科 書	「精神疾患・メンタルヘルスガイドブック —DSM-5 から生活指針まで—」(著)American Psychiatric Association、(訳)滝沢龍。(2016) 医学書院その他、適宜プリントを配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	授業内容は、各論や事例が中心となるので、精神医学・異常心理学・臨床心理学の分野での基本的な知識(症状学[精神症状の種類など]・診断学[面接法・査定法など])を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-216-16	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	田 中 究				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョン I Clinical Supervision I				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースで担当しているケースのスーパーヴィジョンを行う。知識を得ることとそれを用いることの間には隔たりがある。スーパーヴィジョンはその間隙を埋める営為である。スーパーヴィジョンでは、来談者やその関係者についての理解を深めることだけでなく、支援者自身の思考や感情、あるいはパーソナリティや行動様式を把握することが求められる。どのような意図のもと、どのような関わりによって何が引き起こされ、その結果どのような流れが形成されているのか、支援の実際を言語化し秩序立てることで始めて、実践は臨床経験となり積み上げが可能になる。本授業ではスーパーヴィジョンの実際を通じて、支援者としての主体を形成する上での基礎を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. 支援者の志向性を保留すること 3. 意味の語用論的理解 4. 支援者と来談者の相互作用 5. 支援者の非言語メッセージ 6. 来談者のニーズ 7. 来談者の動機づけ 8. 来談者の未来イメージ 9. 支援者の理解と支援の実際の相互連関 10. 援助構造による規定 11. 個別事例理解の深化、抽象化、一般化 12. 現在的未来のシミュレート、過去の未来の探索 13. まとめ
授 業 の 方 法	基本的に履修者と個別に行う。
成 績 評 価 方 法	スーパーヴィジョンの準備(50%)と参加態度(50%)によって総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履 修 上 の 注 意・備 考	スーパーヴィジョンの具体的な進め方については、ケースの個別状況によって履修者と協議の上決定する。履修にあたっては指導教員の承認を得ること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	田 中 究				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョンⅡ Clinical Supervision Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースで担当しているケースのスーパーヴィジョンを行う。知識を得ることとそれを用いることの間には隔たりがある。スーパーヴィジョンはその隔絶を埋めるものである。スーパーヴィジョンでは、来談者やその関係者についての理解とともに、支援者自身の思考や感情、あるいはパーソナリティや行動様式を把握することが求められる。どのような意図のもと、どのような関わりがなされ、何が引き起こされたのか、その結果どのような流れが形成されているのか、支援を言語化し秩序立てることではじめて、実践は臨床経験となり積み上げが可能になる。本授業ではスーパーヴィジョンの実際を通じて、支援者としての主体を形成する上での基礎を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. 支援者の志向性を保留すること 3. 意味の語用論的理解 4. 支援者と来談者の相互作用 5. 支援者の非言語メッセージ 6. 来談者のニーズ 7. 来談者の動機づけ 8. 来談者の未来イメージ 9. 支援者の理解と支援の実際の相互連関 10. 援助構造による規定 11. 個別事例理解の深化、抽象化、一般化 12. 現在的未来のシミュレート、過去の未来の探索 13. まとめ
授 業 の 方 法	基本的に履修者と個別に行う。
成 績 評 価 方 法	スーパーヴィジョンの準備(50%)と参加態度(50%)によって総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履 修 上 の 注 意・備 考	スーパーヴィジョンの具体的な進め方については、ケースの個別状況によって履修者と協議の上決定する。履修にあたっては指導教員の承認を得ること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-18	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	林 潤一郎				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョンⅢ Clinical Supervision Ⅲ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースの学生が担当しているケースについて、スーパービジョンを行う。スーパービジョンを通して、これまで学んできた心理療法や支援にまつわる様々な知識や代表的スキルを、個々のクライアントの個別性に則した形で実践的に活用できるようになることを目的とする。具体的には、クライアントの個別的状况や特徴(有する困難や障がい含む)やニーズを把握しながら支援を展開するスキルを一層高めていくとともに、支援者としての自分自身の効果的な活かし方を模索できる場ともなるよう、各自が担当している事例(面接経過)を題材に指導(検討・質疑・作戦会議)をすすめる予定である。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. コミュニケーションについて(1)3. コミュニケーションについて(2)4. コミュニケーションについて(3)5. クライアントとの関係について(1)6. クライアントとの関係について(2)7. クライアントとの関係について(3)8. アセスメントについて(1)9. アセスメントについて(2)10. アセスメントについて(3)11. ケース・マネジメントについて(1)12. ケース・マネジメントについて(2)13. 振り返りとまとめ
授 業 の 方 法	ケースの担当者ごとに個別に行う形式を基本とする。
成 績 評 価 方 法	スーパービジョンを受けるための準備(70%)と、受けた後のケースでの展開およびそこから学んだこと(30%)をもとに総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意・備 考	事例検討のすすめ方は履修者一人ひとりと相談して決定する。また、指導教員の承諾を得た上で受講することが望ましい。なお、ケースの展開を考え、計画的に発表を行うこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-19	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	林 潤一郎				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョンⅣ Clinical Supervision Ⅳ				

授 業 の 目 標・概 要	認知行動療法の発想と技術を、個々のクライアントの個別性に則した形で効果的に活用できるスキルを高めることを目的とする。そのために、認知行動療法の基本となる発想と技術について学ぶとともに、各種心理障害(精神障害)の典型的な理解モデルと介入について理解を深める。その上で、具体的な事例に基づいて各技術の効果的な導入法や活用法について検討する機会を持ちたい。また、認知行動療法を効果的に用いるための役立つと思われるその他のオリエンテーションの知見についても適時触れたい。なお、授業計画は受講者と相談の上、適時変更する予定である。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. 認知行動療法を効果的に用いるための知っておくとい前提(1)3. 認知行動療法を効果的に用いるための知っておくとい前提(2)4. 認知行動療法を効果的に用いるための知っておくとい前提(3)5. 認知行動療法の発想について(1)6. 認知行動療法の発想について(2)7. 認知行動療法の技術について(1)8. 認知行動療法の技術について(2)9. 各種心理障害での活用について(1)10. 各種心理障害での活用について(2)11. 各事例の個性性を即した活用について(1)12. 各事例の個性性を即した活用について(2)13. 振り返りとまとめ
授 業 の 方 法	講義とディスカッションを通して授業を行う予定である。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(50%)と授業後のレポート(50%)をもとに総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意・備 考	ディスカッション時など、それぞれの価値観や見解が尊重され、各自が安心して受講できる授業環境となるよう、お互いに留意すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-20	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	障害学演習 Seminar in Disability Studies				

授 業 の 目 標・概 要	「障害学」は、障害児・者を単に医療や福祉、特殊教育の対象としてのみとらえるのではなく、「障害」という切り口をとおして、人間の営みや社会のあり方を問い直すことをめざす学問・研究領域である。
授 業 計 画	1: 障害＝障害者、障害の定義2: 障害学＝ディスアビリティ・スタディーズ、障害学の国内外の研究・実践 動向3: バリアフリーとユニバーサル・デザイン＝ バリアフリーとユニバーサル・デザインの概念と実践、 両概念の関係と実践をめぐる状況4: 平等(論)＝障害をめぐる平等、現代政治・経済と平等論の関係5: 能力主義(メリトクラシー)＝「能力」をどう把握するか、「能力」と価値の序列6: 障害者権利条約(差別禁 止法)＝障害者権利条約、(障害者)差別禁止7: 盲ろう者(視覚・聴覚重複障害者)＝「盲ろう」 (deafblindness)、盲ろう者の実状8: ヘレン・ケラー＝盲ろう者としてのヘレン・ケラーの障害と生涯、アニ ー・サリヴァン9: 「盲ろう」という障害がもたらす困難＝コミュニケーションと情報の入手、移動10: 「盲ろ う」の状態を通して考えるコミュニケーション＝「感覚」遮断と人間への影響、コミュニケーションは人にと ってどういう意味を持つか11: 人間にとっての言語・コミュニケーション＝人にとってのコミュニケーションの 意味、知的発達と感情的成長との関係12: コミュニケーションを支える感覚情報＝コミュニケーションを支 える非言語的情報、非言語的情報はどれほどコミュニケーションに貢献しているか? 13: コミュニケーシ ョンにおける感覚・言語的・文脈＝「文脈」とは何か、「感覚・言語的文脈」とコミュニケーション14: 「苦悩」 の意味と「生」の意味＝「苦悩」とは何か、我々の「生」を支えるものは何か。
授 業 の 方 法	本演習では、障害学関連の参考文献を参照しつつ、参加メンバー相互のディスカッションをとおして、「障 害」をとりまく現代日本の状況について考察を深める。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	* 以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。『盲ろう者として生き て』福島智、明石書店(2011) 『ぼくの命は言葉とともにある』福島智、致知出版社(2015)
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-216-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理システム論の分野で修士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理システム論の分野で博士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-216-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	原田 隆之				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学学研究指導
授 業 計 画	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学の応用について研究課題を設定し, 研究・討議する。
授 業 の 方 法	研究・論文指導
成 績 評 価 方 法	達成評価
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	履修に当たっては事前に打ち合わせのこと
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-216-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	原田 隆之				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学学研究指導
授 業 計 画	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学の応用について研究課題を設定し, 研究・討議する。
授 業 の 方 法	研究・論文指導
成 績 評 価 方 法	達成評価
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	履修に当たっては事前に打ち合わせのこと
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて修士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授 業 計 画	受講生はセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授 業 の 方 法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて修士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授 業 計 画	受講生はセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授 業 の 方 法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験（貧困・虐待・いじめ等）、心理的苦痛（抑うつ／不安）、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質（QOL）、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー（生物学的指標）、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ（もしくは質的なアプローチとの組み合わせ）に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成 績 評 価 方 法	平常点（100％）：授業への参加状況（出席と課題）やリーダーシップなどによって評価する。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの修士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生（特別聴講学生等）	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-216-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験（貧困・虐待・いじめ等）、心理的苦痛（抑うつ／不安）、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質（QOL）、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー（生物学的指標）、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ（もしくは質的なアプローチとの組み合わせ）に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成 績 評 価 方 法	平常点（100％）：授業への参加状況（出席と課題）やリーダーシップなどによって評価する。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの博士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生（特別聴講学生等）	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	発達臨床心理学分野で修士論文を書こうとしている学生のための研究指導及び論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者は年に 2 回設定された研究発表の機会において、研究の構想や進捗状況について発表をする。発表者は他の受講者や教員を交えてディスカッションを行う。その発表機会と合わせて、以下の指導を行う。①先行研究のレビュー、②研究計画の立案、③データの収集、④データの分析、⑤論文執筆指導、⑥プレゼンテーションの練習。
授 業 の 方 法	個別指導及び集団指導
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ履修可能
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	発達臨床心理学分野で博士論文を書こうとしている学生のための研究指導及び論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者は年に 2 回設定された研究発表の機会において、研究の構想や進捗状況について発表をする。発表者は他の受講者や教員を交えてディスカッションを行う。その発表機会と合わせて、以下の指導を行う。①先行研究のレビュー、②研究計画の立案、③データの収集、④データの分析、⑤論文執筆指導、⑥プレゼンテーションの練習。
授 業 の 方 法	個別指導及び集団指導
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ履修可能です
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-31	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授 業 の 目 標・概 要	発達障害(DSM-5 では神経発達症群)の特性から生じる心理的問題を理解し,それに対する支援方法について考えていく。具体的には, 自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD), 注意欠如多動症(Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder: AD/HD), 限局性学習症(Specific Learning Disorder : SLD)などの特徴に関して, その原因が脳機能障害にあることを念頭におき, 生物学的要因, 認知的要因を解説することで, 行動や心理の理解をすすめたい。更に, 発達障害から生じやすい心理的な問題を理解し, 適切な本人への支援や家族支援を考えていく。
授 業 計 画	1.発達障害の種類と概要 2. ASD の特徴と認知仮説 3. ADHD の特徴と成長による症状の変化,薬物療法 4. SLD と他の発達障害の特徴 5. アセスメント1 :SLD とADHD6. アセスメント2:ASD のスクリーニング 7. アセスメント3:ASD の診断・評価 8. アセスメント4:発達障害に関連する評価(適応行動,感覚)9. 発達障害への支援の概要 10. ASD への支援1:TEACCH 11. ASD への支援2:応用行動分析 12. ASD への支援3:認知行動療法 13. ASD への支援4:家族への支援
授 業 の 方 法	講義形式:発達障害について,最新の診断・アセスメント・支援方法について講義する。画像や事例などを通して特徴をとらえられるようにしていく。また具体的にアセスメントや支援方法を学べるようにする。受講者は,一方的に講義を聴くのではなく, 問題意識をもって積極的に参加して欲しい。
成 績 評 価 方 法	学期末にレポート試験を行う。これに加え,毎回の授業に対する取り組みを考慮して総合的に評価する(割合はレポート70%,平常点30%とする)。
教 科 書	教科書は使用しない。資料を配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	積極的にディスカッションに加わる姿勢を大切にすること
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-32	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授 業 の 目 標・概 要	発達障害(DSM-5 では神経発達症群)の特性から生じる心理的問題を理解し,それに対する支援方法について考えていく。具体的には, 自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD), 注意欠如多動症(Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder: AD/HD), 限局性学習症(Specific Learning Disorder : SLD)などの特徴に関して, その原因が脳機能障害にあることを念頭におき, 生物学的要因, 認知的要因を解説することで, 行動や心理の理解をすすめたい。更に, 発達障害から生じやすい心理的な問題を理解し, 適切な本人への支援や家族支援を考えていく。
授 業 計 画	1.発達障害の種類と概要 2. ASD の特徴と認知仮説 3. ADHD の特徴と成長による症状の変化,薬物療法 4. SLD と他の発達障害の特徴 5. アセスメント1 :SLD とADHD6. アセスメント2 :ASD のスクリーニング 7. アセスメント3 :ASD の診断・評価 8. アセスメント4 :発達障害に関連する評価(適応行動,感覚)9. 発達障害への支援の概要 10. ASD への支援1 :TEACCH 11. ASD への支援2 :応用行動分析 12. ASD への支援3 :認知行動療法 13. ASD への支援4 :家族への支援
授 業 の 方 法	講義形式:発達障害について,最新の診断・アセスメント・支援方法について講義する。画像や事例などを通して特徴をとらえられるようにしていく。また具体的にアセスメントや支援方法を学べるようにする。受講者は,一方的に講義を聴くのではなく, 問題意識をもって積極的に参加して欲しい。
成 績 評 価 方 法	学期末にレポート試験を行う。これに加え,毎回の授業に対する取り組みを考慮して総合的に評価する(割合はレポート70%,平常点30%とする)。
教 科 書	教科書は使用しない。資料を配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	積極的にディスカッションに加わる姿勢を大切にすること
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学基本研究				
講 義 題 目	身体教育科学の諸問題 I Topics in Physical Education I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授 業 計 画	初回のガイダンス:教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。二回目以降:担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。
成 績 評 価 方 法	出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで)特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	山本 義春、森田 賢治				
授 業 科 目	教育生理学基本研究				
講 義 題 目	身体システム論 I System Analysis of Human Activity I				

授 業 の 目 標・概 要	人間の活動あるいは行動に関する探究に際しては、自然科学から人文・社会科学にわたる幅広い分野の知見に基づく、微視的・巨視的両視点からの総合的なアプローチが必要である。本講義では、主として数理モデルおよび解析手法の立場から、このような総合的アプローチの方法論を身につける。
授 業 計 画	過去本講義で取り上げた論文については http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html を参照のこと。新たな論文情報は適宜掲載する。
授 業 の 方 法	論文・テーマの選択は、原則として担当教員が行う。一回に一名の受講者が内容を紹介し、その後参加者全員で討論を行う。担当教員もなるべく平易な解説を心掛けるので、参加者も「理論的に考える」ことを心掛けて欲しい。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	生理学一般に馴染みのない人は夏学期に開講される学部講義「教育の生理学」を、数理解析一般について馴染みのない人は冬学期に開講される学部講義「バイオダイナミクス」を、それぞれ受講しておくことが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-03	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学基本研究				
講 義 題 目	発達脳科学特論 I Developmental Brain Sciences I				

授 業 の 目 標・概 要	ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、発生生物学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。主として、履修者による文献講読を行う。
授 業 計 画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授 業 の 方 法	演習、発表、参加者全員によるディスカッション
成 績 評 価 方 法	発表および平常点で評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	佐々木 司、東郷 史治				
授 業 科 目	健康教育学基本研究				
講 義 題 目	健康教育学の諸問題 I Topics in Health Education I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	精神保健や発達の問題を中心に、健康問題に関連する諸要因の解析と、それに基づく介入・心理教育などについて学習する。また国際誌への論文投稿・採択に必要な、英文文献の読解力、特に方法論などに関する批判的読解力、英文論文の記述力を養うことも本授業の重要な目標の1つである。This is a journal-club style course. Students are required to select and present a recent paper in areas of mental health, sleep, school health and related ones. An aim of this course is to develop the ability of critical reading of scientific papers.
授 業 計 画	毎回担当学生が、精神保健とその疫学等に関連する英文論文を選び、その紹介を行う。興味あるテーマについて複数の論文を紹介し、仮説立案を行っても良い。最終的には、自ら英文論文を書くことが出来る力を養うことが目的である。文献の選び方は初回の授業で説明する。なお基本的に英語で授業を行うので、スライド(PPT)も基本的に英語で作成のこと(つまり英文文献の内容の日本語翻訳は不要、ということである)。口頭での説明は、英語で説明しきれない場合には、日本語で補っても良いが、なるべく英語で行うこと(ただし、英語での presentation の練習と思って気楽に参加して欲しい)。
授 業 の 方 法	各学生の発表に対して、質疑応答を教員・学生が行う。Students are recommended to actively make comments and/or questions to the presentation.
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	The course may be in English when foreign students participate. 留学生が参加する場合には、英語での授業とすることもある
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学特殊研究				
講 義 題 目	身体教育科学の諸問題Ⅱ Topics in Physical Education Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授 業 計 画	初回のガイダンス:教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。二回目以降:担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。
成 績 評 価 方 法	出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで)特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	柏野 牧夫、野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学特殊研究				
講 義 題 目	スポーツ脳科学特論 Sports Brain Science				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	スポーツにおいては、知覚、運動制御、予測、意思決定、心身状態の最適化など、各種認知機能が決定的な役割を果たしている。この授業では、トップアスリートの認知機能や脳情報処理に関する研究の具体例の検討と、パフォーマンスや生体信号の計測実習を通じて、基礎知識や研究の方法論を学ぶ。また、スポーツの研究や現場における情報技術の利用の現状についても理解を深め、トレーニングやコーチングの将来像を探る。
授 業 計 画	講義：野球やソフトボール、e スポーツなどのトップアスリートの研究例を取り上げつつ、以下の項目について概説する。・スポーツにおける主観と客観の乖離・潜在脳機能・視覚運動系、眼球運動、注意、錯覚・意思決定・心身相互作用・プレイヤー間相互作用・情報技術を利用した技能向上（可視化・可聴化、VR・AR、感覚フィードバック、非侵襲脳刺激、他）・スポーツアナリティクス 他体験実習：ウェアラブルセンサ、コンピュータビジョン、VR等の情報技術を用いた各種計測の体験
授 業 の 方 法	集中講義形式で、スポーツ脳科学に関する基礎知識や研究の具体例に関する講義と、実地での計測等の体験実習とを行う。体験実習は、NTT 厚木研究開発センタ（神奈川県厚木市）で実施する（新型コロナウイルスの状況による）。
成 績 評 価 方 法	平常点（出席・レポート）による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	なし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	山本 義春、森田 賢治				
授 業 科 目	教育生理学特殊研究				
講 義 題 目	身体システム論Ⅱ System Analysis of Human Activity Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授 業 計 画	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授 業 の 方 法	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-217-08	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	菊地 裕絵				
授 業 科 目	教育生理学特殊研究				
講 義 題 目	日常生活下調査から認知・行動変容までの教育・健康科学応用 Application of ambulatory technique in education and health sciences: From assessment through cognitive and behavior modification				

授 業 の 目 標・概 要	近年、行動医学・健康心理学領域を中心に、生態学的妥当性の高い調査として、携帯型コンピュータやセンサを利用して日常生活下で事象を評価記録する日常生活下調査が重要視されてきた。今日では、日常生活下で評価するだけでなく人の認知や行動を変容させていこうとする試みが行われつつある。本講義では日常生活下調査についての基礎的な知識や解析法を含む具体的な手法をまず学び、介入を含めた今後の発展可能性について考察することにより、これらの手法を教育・健康科学分野で活用していけるようになることを目指す。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. なぜ日常生活下調査なのか・EMA(1) 3. なぜ日常生活下調査なのか・EMA(2) 4. 食行動に関する日常生活下調査 5. 生理指標・身体活動に関する日常生活下調査 6. 日常生活下調査データの解析 7. 日常生活下調査の活用例 8. 日常生活下調査体験実習 9. 日常生活下調査の関連領域 10. 日常生活下調査データ解析実習 11. 今後の発展: 項目反応理論・適応型問診、介入 12. まとめ ※オンラインで実施となる場合は、体験実習に関連する項目を論文抄読に振り替えるため、一部変更となる。オンライン授業内容を参照のこと。
授 業 の 方 法	講義(グループディスカッション、論文紹介を含む)および実習をおこなう。当該分野の代表的な文献に触れるため、初回の講義時に担当論文の割り当てを行うので、論文紹介の発表準備を担当回までに行うこと。講義後半では、日常生活下調査の実際について、実際に調査やデータの取り扱いを体験しながら学習し、教育・健康科学分野への応用について考える。※オンラインで実施となる場合は、体験実習に関連する項目を論文抄読に振り替えるため、一部変更となる。オンライン授業内容を参照のこと。
成 績 評 価 方 法	レポート(80%)に平常点(出席・授業参加態度等; 20%)を合わせて評価する。
教 科 書	参考図書および文献は講義の際に提示する。
履修上の注意・備考	事前の知識は多くを求めないが、講義の中で、意見や質問を出してもらう機会を多く持ちたいと考えているので、素朴な疑問でも気後れせず発言していただきたい。また積極的な参加を期待する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-09	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	多賀 厳太郎				
授 業 科 目	発達脳科学特殊研究				
講 義 題 目	発達脳科学特論Ⅱ Developmental Brain SciencesⅡ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	S1 に引き続き行う。ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、行動学、発生生物学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。主として、文献購読を行う。
授 業 計 画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授 業 の 方 法	演習と発表。参加者全員によるディスカッション。
成 績 評 価 方 法	発表および平常点で評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	佐々木 司、東郷 史治				
授 業 科 目	健康教育学特殊研究				
講 義 題 目	健康教育学の諸問題Ⅱ Topics in Health Education Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	健康教育学の諸問題Ⅰで学習した知識を元に、研究計画の立案を含めたさらに専門的な学習を進める。かつ英語での presentation の練習も行う。方法論や結果と考察との一貫性に関する批判的論文読解の力を養うことも大きな目標である。This course will be given in a journal-club style. Students are required to select a recent paper on mental health (especially adolescents' mental health) or related issues and give a presentation, once or twice. The presentation and discussion are recommended to be made in English in principle, which may help you practice presentations in international meetings. Development of ability for critical reading of scientific papers is also a major aim of this course.
授 業 計 画	健康教育に関連する英文論文を各自選択し、それについての説明を行う。あるいはあるテーマについての英文文献検索を行い、テーマに関する複数の論文について review し、新たな研究遂行に役立つ仮説構築を行っても良い(ある程度習熟レベルが進んだ学生には後者をむしろ勧める)。
授 業 の 方 法	健康教育学の諸問題Ⅰと同様であるが、学習の進んだ学生で健康教育学に関する研究を志す学生については、自分の研究計画を立案・発表し、それについての意見を求める機会としても良い。なお発表および質疑応答は原則として英語で行う。ただし英語でのやりとりに慣れていない学生も多いと思われるので、どうしても分からない時は日本語の使用もOKとする。将来の英語での学会発表や論文書きの練習と思って、気楽に考えて参加してほしい。
成 績 評 価 方 法	平常点(英文論文の紹介を1回以上行うことが単位取得には必須)
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-11	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	森田 賢治				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授 業 計 画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授 業 の 方 法	履修者全員での討論などを行う
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	森田 賢治				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授 業 計 画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授 業 の 方 法	履修者全員での討論などを行う
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	柏野 牧夫、野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	各履修者が行っている研究の内容を発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	毎回、各履修者が研究の進捗状況について報告し、参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	各履修者が研究の内容(目的、方法、結果、進捗上の問題点等)についてスライド等を用いて報告する。それを題材として参加者全員で議論し、内容の補強や問題点の解決を図る。必要に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	柏野 牧夫、野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標・概 要	各履修者が行っている研究の内容を発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	毎回、各履修者が研究の進捗状況について報告し、参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	各履修者が研究の内容(目的、方法、結果、進捗上の問題点等)についてスライド等を用いて報告する。それを題材として参加者全員で議論し、内容の補強や問題点の解決を図る。必要に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山本 義春				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	随時討論会を行う。
授 業 の 方 法	学生の発表に基づき討議を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山本 義春				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	随時討論会を行う。
授 業 の 方 法	学生の発表に基づき討議を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	東郷 史治				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	東郷 史治				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する博士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	菊地 裕絵				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	学生の状況に合わせて実施する。
授 業 の 方 法	学生の状況に合わせて実施する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	菊地 裕絵				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	学生の状況に合わせて実施する。
授 業 の 方 法	学生の状況に合わせて実施する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学論文指導				
講 義 題 目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	発達脳科学に関する修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授 業 の 方 法	討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	総合的に評価する。
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学論文指導				
講 義 題 目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	発達脳科学に関する博士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授 業 の 方 法	討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	総合的に評価する。
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐々木 司				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目的とする。
授 業 計 画	各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授 業 の 方 法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意・備 考	年間の指導の中で、疫学と統計の基本的知識を習得していくことは必須であるので、そのもりで参加のこと。分からないこと、理解できないことは、例え基本的なことであっても遠慮せずに質問のこと。ただ座っているだけの参加は無意味であることを得ること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐々木 司				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目的とする。
授 業 計 画	／Schedule 各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授 業 の 方 法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	年間の指導の中で、疫学と統計の基本的知識を習得していくことは必須であるので、そのつもりで参加のこと。分からないこと、理解できないことは、例え基本的なことであっても遠慮せずに質問のこと。ただ座っているだけの参加は自分の時間を無駄にしているだけである。研究は時間がかかるものであるので、自分の時間を有効に使う様、自分で注意すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-01	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(カリキュラム研究・基礎研究)				
講 義 題 目	授業研究の理論と方法 Theory and Method of Research on Teaching and Curriculum				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究、学習研究、教師研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究の理論を構築し検討する。2022 年度は文化・歴史的活動理論に基づく「拡張的学習論」、New Materialism に基づく授業研究の文献を中心に講読し、教室の社会的物質的環境における学習をとらえる研究の視点を検討する。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス第2回～第7回 発表担当者による文献の概要報告および議論と解説今年度は、授業研究とデータや事例の解釈について検討を進める。
授 業 の 方 法	1. 授業研究や教育実践研究の理論や方法について文献を講読することを通して理解する。2. 事例研究や質的研究法に関する文献の講読を通して研究の方法論的基礎を固める。3. 国内外の「授業研究」や「教育実践研究」に関する文献を講読することを通して、授業研究の可能性や課題について検討する。
成 績 評 価 方 法	報告や議論への参加状況による平常点ならびに期末レポートによる。
教 科 書	(以下、予定) Cathrine Hasse, 2014 An Anthropology of Learning: On Nested Frictions in Cultural Ecologies, Springer.Nathan Snaza, Debbie Sonu, Sarah E. Truman, Zofia Zaliwska (Eds) 2016 Pedagogical Matters: New Materialisms and Curriculum Studies, Peter Lang Pub Inc.Catherine Milne, Kathryn Scantlebury (Eds.)2019 Material Practice and Materiality: Too Long Ignored in Science Education, Springer.ユーリア・エンゲストローム(著)山住勝広(完訳)拡張による学習: 発達研究への活動理論からのアプローチ (完訳増補版)新曜社.
履 修 上 の 注 意・備 考	授業の初回に文献レポートの分担を決めますので、受講希望者は確定していなくても出席をしてください。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-02	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(授業研究・基礎研究)				
講 義 題 目	授業における学習研究 Research on Learning in Classroom				

授 業 の 目 標・概 要	学校における学習のあり方として、対話的な教育に関する基本文献と最近の動向を英語で当該分野の文献を読んで議論ができるようにする。
授 業 計 画	対話的な教育に関する基本文献と関連文献を読み、議論する
授 業 の 方 法	グループで特定文献の論文を担当しその論文について発表するとともに協働で議論をしながら理解を深める。
成 績 評 価 方 法	本演習への参加、報告や議論ならびに期末レポートによって評価
教 科 書	Mercer, Wegerif & Major (2020) The Routledge International Handbook of Research on Dialogic Education. Routledge を扱う予定です。
履修上の注意・備考	原則として2コマ連続で実施する予定であります。評価は平常点とレポート等の報告、最終小レポートを総括して行う
そ の 他	初回授業時に課題や次回以降の詳細をアナウンスします。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-301-03	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(授業研究・発展研究)				
講 義 題 目	保育学研究 Studies on Early Childhood Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	保育者の専門性に関して、文献等での検討を行う。
授 業 計 画	上記テーマに関する近年の研究文献を読みあう。議論を通して、理解を深める。
授 業 の 方 法	文献の講読と議論を中心に行う。
成 績 評 価 方 法	演習への参加、報告・議論、期末レポート
教 科 書	学期当初に講読文献を指定
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	原則として隔週で3、4時間目2コマ連続で実施予定日程は初回時に教示する

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-04	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(カリキュラム研究・発展研究)				
講 義 題 目	教職経験の研究 Research on Teaching Experience				

授 業 の 目 標・概 要	授業を中心とする教職経験は、その語りによってその意味を構成され規定されている。この授業では教育にナラティブな方法でアプローチする研究論文の講読を通して、経験をとらえる理論と方法を考察する。今年度はスウェーデンのレッジョ・インスパイアの幼児教育とポストモダンおよびポストヒューマンの幼児教育理論に関する文献を読む。スウェーデンのレッジョ・インスパイアの幼児教育を主導した Gunilla Dahlberg 先生をゲストに迎え、文献について話をしてもらう予定である。
授 業 計 画	1・2回 オリエンテーションとテーマ設定3・4回 ゲスト講師5・6回 ゲスト講師7・8回 文献購読9・10回 文献購読11・12回 文献購読13回 まとめ
授 業 の 方 法	文献購読グループワーク
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	コロナの感染状況次第で Dahlberg 先生の訪日予定が変更になるため、この授業の予定も変更になる可能性がある。LMSを確認すること。

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-05	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	渡辺 貴裕				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	なってみる学びと教師教育 Learning through drama' and teacher education				

授 業 の 目 標・概 要	第三者的立場からの把握ではなく対象の中に入り込んで自らの感覚を働かせての理解を図る「なってみる学び」は、子どもの学び(授業)においても教師の学び(教員養成・教員研修)においても重要な役割を果たす。子どもの学びにおいては、それは、演劇的手法やドラマ教育という形をとるし、教師の学びにおいては、対話型模擬授業検討会や学習活動の追体験を伴う事後検討会といった形をとる。本科目では、こうした学びのあり方の具体像、系譜、意義と課題を扱う。
授 業 計 画	1. 「なってみる学び」概観 2. 演劇的手法の持ち味とその意義 3. 演劇的手法を用いた学習活動 4. ドラマ教育の技法 5. 学校での実践事例 6. 演劇教育・ドラマ教育の系譜 7. 学習の身体性(1)「からだ」論の登場 8. 学習の身体性(2) 認知科学分野からの提起 9. 教員養成・教員研修とリフレクション 10. 模擬授業の新たな可能性 11. 授業検討会における対話を見直す 12. 学習活動の追体験を伴う事後検討会 13. 同型性という原理 14. 実践を「他人事」として見ないアプローチ 15. 「なってみる学び」が提起するもの
授 業 の 方 法	(対面授業が可能な場合には)演劇的手法の体験などさまざまなワークを交えて進行する。激しい運動をするわけではないが、動きやすい服装で参加すること。
成 績 評 価 方 法	各実施日のミニレポートおよび最終レポートによる。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	教育への実践的関心をもつ人を歓迎する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	林 寛平				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	グローバル化する教育実践 Education in Global Perspectives				

授 業 の 目 標・概 要	本授業では、文献講読を通じて各国の教育実践の概要を学ぶとともに、「比較教育学」が射程とする学術研究の蓄積と課題を理解することを通じて、世界の学校教育制度とカリキュラムが子供の発達及び学習の過程に与える影響について考察し、教育実践をグローバルな視野から見られるようになる。
授 業 計 画	1. 北欧の教育最前線ー市民社会をつくる子育てと学び 2. 欧州における学生運動とオルタナティブ教育の展開 3. アメリカにおける学歴の値段と名門大学の入学試験 4. アドミッションに見る多様な評価 5. 世界の授業スタイル 6. 多文化の中の子育てと価値観 7. レッジョ・アプローチの世界的な広がり 8. 科学技術の発展と新しい教育実践 9. 国際学力調査に見る 21 世紀の学校システム 10. 学力ビジネスと世界教育戦争 11. アフリカ諸国における教育開発の新局面 12. 「教育の輸出」の勃興と功罪 13. 世界から見た日本の教育 14. ジェンダー・移民・格差社会と「社会問題の教育化」15. グローバル教育政策市場をどう捉えるか
授 業 の 方 法	講義、ディスカッションおよびグループワーク形式で行う
成 績 評 価 方 法	成績評価はレポート(100%)とする。レポートは本授業で扱った議論を踏まえて関連文献を読んだり調査を行うなどした内容を 1200 字程度でまとめる。毎回の授業で求める指定図書の所感まとめ(A4 で 1 枚程度)は成績評価には含めない。
教 科 書	北欧教育研究会(2021)『北欧の教育最前線ー市民社会をつくる子育てと学び』明石書店
履修上の注意・備考	授業は 2 回連続とし、おおむね隔週の頻度で行う。受講生は毎回指定図書を読んで A4 で 1 枚程度のまとめを持参し、授業の初めに受講生同士で所感を共有する。授業の一部はオンラインあるいはオンデマンドで行う場合がある。受講者に日本語以外の話者がいる場合には、英語で授業を開講する可能性がある。その場合でも、レポートは日本語での提出も可とする。
そ の 他	日程や内容・授業の方法は受講生と相談の上で変更する場合がある。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-07	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育の理論を踏まえながら実践について議論ができるようになる。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. 研究対象としての国語科授業実践 3. 国語科における学習指導目標と子どもの学び 4. 「読むこと」に関する理論 5. 国語科における学習指導の方法 6. 「評価の充実」とは 7. 授業スタンダード 8-9. 教材分析(文学的な文章) 10. 文学的な文章に対する児童の反応 11-12. 「読むこと」の授業事例の分析 13. 授業の構想を支える資料
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-08	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	永田 佳之				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	地球規模課題とESD Global Issues and ESD				

授 業 の 目 標・概 要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるのであろうー環境教育やESDの論客であるDavid Orrが私たちにこう問いかけたのは30年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかの(正答のない問い)を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキストスタイルとして、縦糸として「教育開発」を、横糸として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授 業 計 画	1 基本的な問いの共有2 持続可能な社会と教育3 環境教育・ESD・Efs4 エコフォビアを超えて5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代6 気候変動の本質的な課題7 不確実性の時代と学校教育8 ESDの来し方行く末①9 ESDの来し方行く末②10 ESD for 2030 - SDGsと教育 - 11 世界の優良実践①12 世界の優良実践②13 日本の教育を捉え直す 14 人新世時代の教育学の課題 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授 業 の 方 法	〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議も適宜、取り入れていく。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教 科 書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社、2020年
履 修 上 の 注 意・備 考	事前に文献をよく読んで授業に臨むこと。
そ の 他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.com ・BE*hive(暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-09	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	杉浦 幸子				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	生涯学習時代の美術教育における鑑賞のデザイン Designing Appreciation in Art Education in the Age of Lifelong Learning				

授業の目標・概要	生涯学習時代において、美術作品の「鑑賞」は、学校教育においてのみならず、社会教育機関である美術館、芸術祭といったアウトリーチの場、さらには福祉、医療、多文化交流、ビジネスの現場といった、広い意味での教育的な、多分野にまたがる専門領域においても、その重要性が認識されている。「鑑賞」という形のない体験のデザインに、さまざまな可能性が見出されている現状を踏まえ、この授業では、鑑賞の定義や歴史を概観し、国内外の事例を取り上げ、ディスカッションを行った後、実際のアート作品や展覧会を鑑賞するプログラムをデザイン・実施し、さらにそれを検証し評価することを通して、多角的に鑑賞のデザインについて学ぶ。鑑賞のデザインの対象者は、学校教育に限らず、乳幼児から高齢者、障がいの有無、国籍など、生涯学習の観点から広く設定していく。
授 業 計 画	以下の 13 回の授業内容を予定している。1.美術作品の鑑賞の定義と歴史 2.美術教育における鑑賞 3.実際の作品を用いた鑑賞ワークショップを体験する 4.鑑賞ワークショップ体験の振り返りと分析 5.鑑賞のデザインの対象となるモノ・人・場の考察 6.鑑賞プログラムのデザイン①ー対象者 7.鑑賞プログラムのデザイン②-コンテンツ 8.鑑賞プログラムのデザイン③ーフレームワーク 9.鑑賞プログラムの実施① 10.鑑賞プログラムの分析とブラッシュアップ 11.鑑賞プログラムの実施② 12.鑑賞プログラムの評価 13.まとめ
授 業 の 方 法	講義とディスカッションの後、個別またはグループで(受講者人数による)美術作品もしくは美術展の鑑賞プログラムをデザインし、プレゼンテーションを行う実践的な授業となる。関連文献、関連作品/展覧会は受講生と相談の上、選定する。鑑賞プログラムのデザインのために、授業時間外で、グループでのディスカッションを行う可能性がある。また、鑑賞デザインの現場で活動を行う専門家(美術館学芸員、アーティスト)が授業に参加する可能性がある。履修人数やコロナ感染状況、オンラインの通信状況によって調整や変更が生じる可能性がある。オンラ
成 績 評 価 方 法	議論への貢献とプレゼンテーション(50%)、最終レポート(50%)で評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	コロナ感染状況次第となるが、学外の美術館の見学(授業内で/各自)を行う可能性がある。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小泉 広子				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育法の現代的課題 Contemporary Issues in Education Law				

授 業 の 目 標・概 要	「教育法」とは、教育ないし教育制度に固有な法的しくみをいい、「教育法学」とは、教育にとって望ましいそうした法のあり方を研究する学問である。また、近年では、子どもにかかわる法体系やそのあり方を包括的に検討することを志向した「子ども法」という概念も広がりつつある。本講義では、学校教育や福祉領域における子どもの権利保障の現状と課題を、裁判事例や法制度を素材に、検討し、あるべき法解釈や立法論を考えていく。
授 業 計 画	1. 子どもの権利条約からみた日本の子ども2. 教育法の機能的3種別3. 新型コロナウイルス感染症と子どもの権利4. 体罰と子どもの権利5. いじめと子どもの権利6. 校則と子どもの権利7. 障害をもつ子ども・青年の学ぶ権利8. 子どもの宗教的自由と学校教育9. 学校事故と子どもの権利 10. 児童虐待と子どもの権利 11. 貧困と子どもの権利 12. 乳幼児期の子どもの権利 13. 保育と子どもの権利
授 業 の 方 法	講義と演習
成 績 評 価 方 法	レポートによる
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	子どもの権利条約に関する国連子どもの権利委員会による、日本政府への第4・5 回最終所見に目を通しておくとよいと思います。外務省のホームページから政府訳を入手できます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-11	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	坂部 真理				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育政策の比較政治学的分析 A Comparative Political Analysis of Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	本講義では、政治学(ときに比較政治学や政治経済学)の視点から、現代の教育改革を牽引し方向づけている政治的ダイナミズムを分析する上で有益と思われる諸概念・アプローチを習得することを目標とします。近年、各国で推進されてきた教育改革には、NPM の導入や「人的資本投資」の強調など、ある一定の共通性が見られます。しかし、それら諸改革の成否や方向性については、国家間で差異も存在します。この国家間の教育改革の多様性を理解する上では、各国特有の制度構造(「制度遺制」)や、政府(政党、官僚など)―社会集団―有権者などの間に作用する政治力学を分析することが重要です。本講義の担当者(坂部)は、教育学ではなく、政治学を専門とする教員です。政治学の分野には、「下位政府」「福祉-生産レジーム」「経路依存性」「政策学習」「制度変化と再生産のダイナミズムの関係」など、教育に関わる政治力学を分析する上で有益な諸概念・アプローチが存在します。本講義を受講する上で、あらかじめ学部等で「政治学」関連の講義を履修している必要はありません(まったく初学者でも大丈夫です)。各国の教育政策の形成や変化のプロセスを、政治学の諸概念を用いて分析する手法を基礎から学び、将来的に受講生の皆さんが教育学―政治学を横断する学際的研究を発展させていくための「土台」を築くことを目標とします。
授 業 計 画	・詳細は、初回講義で決定します。第1回 イントロダクション第2～7回 テキストの講読とディスカッション(2コマ連続の講義です)
授 業 の 方 法	・毎回、指定された文献を講読し、ディスカッションを行います(各回一人ずつ、報告を担当)。 ・講義の形式:可能であれば、初回のみ対面授業で行います。残りの2～7回はオンライン方式で行います(zoom のリンクは設定次第、掲載します)。
成 績 評 価 方 法	各自が担当する回での報告:30%、ディスカッションへの参加状況:70%として評価します。
教 科 書	・使用するテキストは、受講者の研究テーマや関心を考慮しつつ、初回講義で決定します。現段階では、以下の文献の中から選択する予定です。【近年の福祉国家の再編、社会的投資国家、その中での公教育の位置づけの変化などに関する文献】①Marius R. Busemeyer, Caroline de la Porte, (eds.), the Future of the Social Investment State, Routledge, 2018. ②Nathalie Morel, Bruno Palier and Joakim Palme (eds.), Towards A Social Investment Welfare State?, The Policy Press, 2012.③Anton Hemerijck, Changing Welfare States, Oxford University Press, 2013.④Marius R. Busemeyer, Skills and Inequality, Cambridge University Press, 2015.⑤Peter A. Hall, David Soskice (eds.), Varieties of Capitalism, Oxford University Press, 2001.【制度変化・改革のダイナミズムに関わる文献】①ポール・ピアソン著、粕谷祐子監訳『ポリテイクス・イン・タイム』勁草書房、2010 年(原著は 2004 年)②Kathleen Thelen, How Institutions Evolve, Cambridge University Press, 2004.③Wolfgang Streeck, Kathleen Thelen, Beyond Continuity, Oxford University Press, 2005.【日本の教育政策形成に関する文献(今年度は可能であれば日本の政策形成についても考察してみたいと思っています)】T. J.ペンパル著、橋本鉦市訳『日本の高等教育政策』玉川大学出版社、2004 年など。
履 修 上 の 注 意・備 考	・二時間連続で受講してください。・政治学的分析に関心があれば、専攻分野・研究テーマにかかわらず受講可能です(初学者歓迎)。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-12	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(授業研究・事例研究)				
講 義 題 目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	子どもの学習を中心とした探究的で協働的な授業デザインについて理論的, 実践的に学ぶとともに, 授業における子どもの学習過程を捉える視点を獲得する。
授 業 計 画	第1回: 受講者のこれまでの実践の省察と課題の認識第2回: 事例分析①第3回: 事例分析②第4回: 事例分析③第5回: 事例分析④第6回: 事例分析⑤第7回: 全体のまとめと省察
授 業 の 方 法	さまざまな校種や教科の授業における映像記録、文字記録などの視聴や読み取りを行う。読み取り学んだことを交流しながら、授業実践を授業で生起する事実に基づき検討する。
成 績 評 価 方 法	演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	授業の形態がオンラインか対面かによって記録の共有や検討する協議などの方法が異なるので、授業の初回時に説明します。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-301-13	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(授業研究・事例研究)				
講 義 題 目	教職の事例研究 Case Studies of Lessons				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授 業 計 画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の記録や授業研究の論文を読む。コロナウイルスの流行状況によっては、授業の参観は行わない。
授 業 の 方 法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	参加と課題レポートによる。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-14	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(教職開発・事例研究)				
講 義 題 目	教科教育の心理学的事例研究 Psychological Case Studies on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。中等教育を中心とした各教科の授業について、授業記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し、その方法に熟達することを目標とする。中等教育における各教科(数学科, 理科, 国語科)の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について、発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い、心理学の視点から考察を行う。
授 業 計 画	1: イントロダクション2: 授業の心理学的分析の方法3: 中学校数学科授業の事例研究①(個別探究)4: 中学校数学科授業の事例研究②(協同探究)5: 高校数学科授業の事例研究①(個別探究)6: 高校数学科授業の事例研究②(協同探究)7: 中学校理科授業の事例研究①(個別探究)8: 中学校理科授業の事例研究②(協同探究)9: 高校理科授業の事例研究①(個別探究)10: 高校理科授業の事例研究②(協同探究)11: 中学校国語科授業の事例研究①(個別探究)12: 中学校国語科授業の事例研究②(協同探究)13: 高校国語科授業の事例研究(個別探究・協同探究)
授 業 の 方 法	各教科の授業についての指導案, ワークシート等の資料にもとづいて、個別に検討を行い(個別探究), 集団での発表・検討・討論(協同探究)を行った後, さらに個別に考察を深める。
成 績 評 価 方 法	授業時の発表・小レポートおよび最終レポートによる。
教 科 書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」ー豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
履 修 上 の 注 意・備 考	各回の授業およびそこでの討論への参加, 個別探究の小レポート, および最終レポートの提出が必要である。【履修上の注意点】①2021 年度開講の「教科教育の心理学的事例研究」と同一科目のため、2021 年度に本科目を履修済みの場合は本科目の履修を推奨しない。②教育内容開発コース所属の大学院生は、本授業ではなく、時間割コード 23-302-14 の「教科教育の心理学的事例研究」を履修登録すること。③基本的にオンラインを中心に授業を行う予定である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-15	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(教職開発・事例研究)				
講 義 題 目	教科学習の事例研究 Case studies on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	教育観や学力観が大きく変化している今日、学校教育の現場でもさまざまな取り組みが積み重ねられている。主にオンラインで視聴できる講義を観察し、どのような視点から授業を見ていくことが重要であるか、受講者たちの間で議論する。そうした議論を通して、授業を観察する視点を獲得していくことが、本講義の目標である。
授 業 計 画	第 1 回：導入(講義の説明)[この第 1 回の講義の課題を、第 2 回の講義時に提出してもらうので、注意すること。]第 2 回：教科学習の事例研究(1) 第 3 回：教科学習の事例研究(2) 第 4 回：教科学習の事例研究(3) 第 5 回：教科学習の事例研究(4) 第 6 回：新しい概念にもとづく授業の事例研究／その他の教科の事例研究 第 7 回：まとめ＊履修者の関心を踏まえて、研究する授業の事例については修正を行うことがある。
授 業 の 方 法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注目すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。【第1回の講義の課題】下記の2つの論考を読み、それぞれについて重要だと感じた論点を挙げると共に、読んで感じたり考えたりしたことを何でも良いので自由に書くこと。(1)石井英真「授業の構想力を高める教師の実践研究の方法論」(https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/226084/1/hte_019) (2)木村優「授業参観の『視点』と授業分析の『ねらい』」(https://core.ac.uk/download/pdf/59042143.pdf) 各論考について、A4用紙(ワード・ファイル)で1枚程度(合計2枚程度)書くこと。その課題レポートを、第 2 回のときに提出すること。
成 績 評 価 方 法	出席状況、発表、授業への取り組み、最終レポートを総合的に評価する。
教 科 書	講義のなかで指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(教職開発・実地研究)				
講 義 題 目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会、附属中等教育学校の公開研究会(2月)への参加がもめられる。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	必要に応じて授業中に指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	時間割上の開講時間以外の活動が多くなることに留意されたい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(教職開発・実地研究)				
講 義 題 目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	学校におけるフィールドワーク(授業観察・調査など)のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低2単位は東京大学教育学部附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	フィールドワークを実施する際には、12時間以上実施することが必要である。修士1年の院生、および初めてフィールドワークを履修する博士1年の院生は、冬学期以降の履修を原則とする。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標・概 要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授 業 計 画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエスチョンを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエスチョンから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授 業 の 方 法	1. 集団指導:参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。修士課程の学生向けの論文指導ゼミである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標・概 要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授 業 計 画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエスチョンを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエスチョンから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授 業 の 方 法	1. 集団指導:参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。博士課程の学生向けの論文指導ゼミである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-301-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授 業 の 方 法	個別指導とグループ指導を予定している。
成 績 評 価 方 法	研究の成果によって評価を行う。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-301-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授 業 の 方 法	個別指導とグループ指導を予定している。
成 績 評 価 方 法	研究の成果によって評価を行う。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-301-22	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(授業研究・論文指導)				
講 義 題 目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授 業 計 画	学校における子どもと教師の学習・発達過程や、それを支える社会文化的環境に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	個人指導および集団での論文指導を行う。個人指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。集団指導:自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行い、参加者で検討する。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく。
成 績 評 価 方 法	本授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	参加者の都合に応じて時間を柔軟に設定します。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-23	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(授業研究・論文指導)				
講 義 題 目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授 業 計 画	学校における子どもと教師の学習・発達過程や、それを支える社会文化的環境に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	個人指導および集団での論文指導を行う。個人指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。集団指導:自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行い、参加者で検討する。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく。
成 績 評 価 方 法	本授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	参加者の都合に応じて時間を柔軟に設定します。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-24	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	浅井 幸子、草薨 佳奈子				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	レッスンスタディと教師研究 Research on lesson study as professional development of teachers				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業では、レッスンスタディ(授業研究)を切り口として、日本と海外(主にインドネシア)の教師研究について理解を深める。レッスンスタディは日本発の教師の専門性向上のためのモデルとして、世界 60 カ国以上で実践されている。教育移転においては、ある国の教育モデルが「ベストプラクティス」として他国へ輸出・輸入される。しかし、日本の学校風土で生まれ受け継がれてきた授業研究が、海外でレッスンスタディとして実践された際、教師の協働や生徒の学びを改善する実践に必ずしもなるわけでない。本授業では、海外のレッスンスタディの事例を基に、教育実践を社会的行為として捉え、日本と海外の教師研究について理解を深める。レッスンスタディというレンズを通して、教師文化と教師の役割、同僚性、教師の専門性など、教師研究をテーマに探求することを目的とする。また比較研究や教師研究の研究手法や論文執筆の方法についても取り上げる。
授 業 計 画	1回・2 回: 日本の授業研究と教育移転としてのレッスンスタディ 3 回・4 回: 海外のレッスンスタディ研究 5 回・6 回: 教師文化と教師の役割 7 回・8 回: フィールドワークの視点: 研究者と実践者の関わり 9 回・10 回: 教師の同僚性 11 回・12 回: 教師の専門性 13 回: まとめ
授 業 の 方 法	日本語・英語の文献を複数選び、回ごとに担当者を決めて発表を行う。また、発表者以外は、感想・意見・疑問点などをまとめ、事前に ITC-LMS を通じて提出すること。授業日には、事前課題を基に議論を行う。
成 績 評 価 方 法	授業内課題(発表含む)50%、レポート 50%
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	毎回の出席、事前課題の提出と積極的な議論への参加を求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-01	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(数学・科学教育・基礎研究)				
講 義 題 目	数学的・科学的思考の発達と学習過程 Development of Mathematical and Scientific Thinking and Learning Processes				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	子どもの数学的思考・科学的思考の発達と学習過程について、教育心理学や発達心理学領域の領域で、どのような知見が得られているか、またどのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能かについて、教科書や国内外の学術誌掲載論文等の実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。 数学的思考、科学的思考の発達については、問題解決(problem solving)、概念変化(conceptual change)、概念的理解(conceptual understanding)と手続き的知識(procedural knowledge)の関係性、他者との社会的相互作用(social interaction)などに焦点をあて、認知発達研究や個別・協同介入研究の知見やそれを導く心理学の研究方法論について、解説と検討を行う。数学、科学に関する学習過程については、言語に関わる学習を含めて、探究や協同を含む教科学習の認知プロセスに焦点をあて、その知見と方法論について解説と検討を行う。
授 業 計 画	1: 数学的思考・科学的思考をめぐる状況と教育心理学・発達心理学研究2: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点①手続き的知識3: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点②概念的理解4: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点③定型的問題解決5: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点④非定型の問題解決6: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点①概念変化7: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点②探究過程8: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点③社会的相互作用9: 教科学習の認知プロセス①授業を通じた言語的思考の高まり10: 教科学習の認知プロセス②授業を通じた数学的思考の高まり11: 教科学習の認知プロセス③授業を通じた科学的思考の高まり12: 教科学習の認知プロセス④思考・理解の時間的・空間的広がりや深まり13: 教科教育の心理学の展開: 発達と学習の相互関係を探る
授 業 の 方 法	授業の内容について、教科書や参考書を用いて教員が解説を行い、参加者全体で質疑、討論を行う。また指定した文献について、各参加者はレポートとコメントを行い、参加者全体で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	期末レポート、授業時のレポート、および授業への参加状況を総合して評価する。
教 科 書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	期末レポートや授業におけるレポートに加えて、他の参加者のレポートや教員による解説に関する討論に対する積極的な参加が望まれる。
そ の 他	基本的にオンラインを中心に授業を実施する予定である。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-302-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(言語教育・基礎研究)				
講 義 題 目	英語教授法 English Language Teaching Methodologies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	外国語教授法、特に英語教授法に関する諸理論を細かく検討し、それらが日本の学校英語教育に応用可能なものかどうかを議論する。
授 業 計 画	第1回: Grammar-Translation Method 第2回: 訳読第3回: Oral Method 第4回: Audio-Lingual Method 第5回: Total Physical Response 第6回: Suggestopedia 第7回: Silent Method 第8回: Oral Introduction 第9回: Communicative Approach 第10回: Task-Based Language Teaching 第11回: Focus on Form 第12回: Content and Language Integrated Learning 第13回: 多読第14回: その他の教授法第15回: まとめ
授 業 の 方 法	毎回の発表担当者がそれぞれの教授法の歴史、理論、実践などについて調査し、それを授業で発表する。その発表に基づいて議論をし、それぞれの教授法についての理解を深めるとともに、それらが現在の日本の英語教育の現場に応用可能なものかを検討する。
成 績 評 価 方 法	授業への貢献度、発表、授業への取り組み、最終レポートを総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても授業で扱う教授法を勉強し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-03	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(人文社会教育・基礎研究)				
講 義 題 目	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts Education in the Era of Globalization: Asian Contexts				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	This course aims at helping students better understand current situations of education in Asia, particularly under the influence of globalization. We will discuss theoretical, institutional and practical dimensions of education, with particular interests of how education could contribute to the promotion and realization of more sustainable society.
授 業 計 画	1. Introduction to the course 2. Globalization and education 3. Global education networks and discourses 4. Global model of education and international agencies 5. Education for Sustainable Development (ESD) 6. Local contexts of education and global mobility of the people 7. Concluding session
授 業 の 方 法	Each student will assign one of the reading materials and make presentation on it in the class. Based on the presentation, we will discuss various issues raised in the reading material. Also, students will write a short essay for each reading material to
成 績 評 価 方 法	Final term paper (30%), In-class presentation (30%), Short essays for reading materials (20%), Participation and contribution to discussion in classes (20%)
教 科 書	Joel Spring (2015) Globalization of Education: An Introduction (2nd Edition). New York and London: Routledge.
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	Active participation in the discussion is expected.
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-04	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(言語教育・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育の理論を踏まえながら実践について議論ができるようになる。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. 研究対象としての国語科授業実践 3. 国語科における学習指導目標と子どもの学び 4. 「読むこと」に関する理論 5. 国語科における学習指導の方法 6. 「評価の充実」とは 7. 授業スタンダード 8-9. 教材分析(文学的な文章) 10. 文学的な文章に対する児童の反応 11-12. 「読むこと」の授業事例の分析 13. 授業の構想を支える資料
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-05	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	永田 佳之				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(人文社会教育・発展研究)				
講 義 題 目	地球規模課題とESD Global Issues and ESD				

授 業 の 目 標・概 要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるであろう — 環境教育や ESD の論客である David Orr が私たちにこう問いかけたのは 30 年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかの〈正答のない問い〉を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキスタイルとして、縦糸として「教育開発」を、横糸として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授 業 計 画	1 基本的な問いの共有 2 持続可能な社会と教育 3 環境教育・ESD・Efs 4 エコフォビアを超えて 5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代 6 気候変動の本質的な課題 7 不確実性の時代と学校教育 8 ESD の来し方行く末① 9 ESD の来し方行く末② 10 ESD for 2030 – SDGs と教育 – 11 世界の優良実践① 12 世界の優良実践② 13 日本の教育を捉え直す 14 人新世時代の教育学の課題 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授 業 の 方 法	〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議も適宜、取り入れていく。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教 科 書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社、2020 年
履 修 上 の 注 意・備 考	事前に文献をよく読んで授業に臨むこと。
そ の 他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.com ・BE*hive(暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-06	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	杉浦 幸子				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(芸術教育・発展研究)				
講 義 題 目	生涯学習時代の美術教育における鑑賞のデザイン Designing Appreciation in Art Education in the Age of Lifelong Learning				

授業の目標・概要	生涯学習時代において、美術作品の「鑑賞」は、学校教育においてのみならず、社会教育機関である美術館、芸術祭といったアウトリーチの場、さらには福祉、医療、多文化交流、ビジネスの現場といった、広い意味での教育的な、多分野にまたがる専門領域においても、その重要性が認識されている。「鑑賞」という形のない体験のデザインに、さまざまな可能性が見出されている現状を踏まえ、この授業では、鑑賞の定義や歴史を概観し、国内外の事例を取り上げ、ディスカッションを行った後、実際のアート作品や展覧会を鑑賞するプログラムをデザイン・実施し、さらにそれを検証し評価することを通して、多角的に鑑賞のデザインについて学ぶ。鑑賞のデザインの対象者は、学校教育に限らず、乳幼児から高齢者、障がいの有無、国籍など、生涯学習の観点から広く設定していく。
授 業 計 画	以下の 13 回の授業内容を予定している。1.美術作品の鑑賞の定義と歴史 2.美術教育における鑑賞 3.実際の作品を用いた鑑賞ワークショップを体験する 4.鑑賞ワークショップ体験の振り返りと分析 5.鑑賞のデザインの対象となるモノ・人・場の考察 6.鑑賞プログラムのデザイン①ー対象者 7.鑑賞プログラムのデザイン②-コンテンツ 8.鑑賞プログラムのデザイン③ーフレームワーク 9.鑑賞プログラムの実施① 10.鑑賞プログラムの分析とブラッシュアップ 11.鑑賞プログラムの実施② 12.鑑賞プログラムの評価 13.まとめ
授 業 の 方 法	講義とディスカッションの後、個別またはグループで(受講者人数による)美術作品もしくは美術展の鑑賞プログラムをデザインし、プレゼンテーションを行う実践的な授業となる。関連文献、関連作品/展覧会は受講生と相談の上、選定する。鑑賞プログラムのデザインのために、授業時間外で、グループでのディスカッションを行う可能性がある。また、鑑賞デザインの現場で活動を行う専門家(美術館学芸員、アーティスト)が授業に参加する可能性がある。履修人数やコロナ感染状況、オンラインの通信状況によって調整や変更が生じる可能性がある。オンラ
成 績 評 価 方 法	議論への貢献とプレゼンテーション(50%)、最終レポート(50%)で評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	コロナ感染状況次第となるが、学外の美術館の見学(授業内で/各自)を行う可能性がある。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-07	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	荒木 啓史				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	Research Methods in Education Research Methods in Education				

授業の目標・概要	Are you a quantitative researcher or a qualitative researcher (or a mixed methodologist)? This is a frequently asked question in academia. However, what do “quantitative” and “qualitative” mean in educational research? Aren’t there any risks by adopting this dichotomous perspective when you investigate your research question? Understanding the advantages and limitations of various research methods, ranging from classical approaches to state-of-the-art ones, is essential for students to conduct quality independent research whilst critically assessing prior academic work. This course aims to develop students’ knowledge and skills concerning research methods in education via lectures, discussions, and presentations. Having successfully completed the course, students will be able to:– understand and explain the basic concept, advantages, and limitations of research methods in education;– critically assess previous educational research in terms of research methods;– design and use appropriate research methods in accordance with their own research interests/questions.
授 業 計 画	■Day 1 (August 2022, 8:30–14:45)1. Introduction to research methods in education2. Research questions3. Literature review■Day 2 (August 2022, 8:30–16:40)4. Qualitative research 1: Scope and basic concepts5. Qualitative research 2: Application and further development6. Quantitative research 1: Scope and basic concepts7. Quantitative research 2: Application and further development■Day 3 (August 2022, 8:30–14:45)8. Mixed methods 1: Scope and basic concepts9. Mixed methods 2: Application and further development10. Research writing■Day 4 (August 2022, 8:30–14:45)11. Presentation by students 112. Presentation by students 213. Summary and feedback
授 業 の 方 法	I will give an introductory lecture at the beginning of each class, followed by discussions around the advantages and limitations of existing research methods in education. Students are encouraged to read the relevant literature (see “Reference” below) be
成 績 評 価 方 法	Term paper (30%); Presentation (20%); Minute papers (30%); Contribution to discussions in classes (20%).
教 科 書	There is no textbook for this course. I will prepare presentations for each class and share them with students. In the meantime, students are encouraged to read the literature as indicated below.
履修上の注意・備考	Although the primary language of instruction will be English, all students regardless of English proficiency are welcome to take this course. If you are interested in this course but foresee a clash with other courses and/or assignments, please feel free
そ の 他	Exact dates and teaching modes (i.e., face-to-face or online) to be confirmed.

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-08	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	渡辺 貴裕				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	なってみる学びと教師教育 Learning through drama' and teacher education				

授 業 の 目 標・概 要	第三者的立場からの把握ではなく対象の中に入り込んで自らの感覚を働かせての理解を図る「なってみる学び」は、子どもの学び(授業)においても教師の学び(教員養成・教員研修)においても重要な役割を果たす。子どもの学びにおいては、それは、演劇的手法やドラマ教育という形をとるし、教師の学びにおいては、対話型模擬授業検討会や学習活動の追体験を伴う事後検討会といった形をとる。本科目では、こうした学びのあり方の具体像、系譜、意義と課題を扱う。
授 業 計 画	1. 「なってみる学び」概観 2. 演劇的手法の持ち味とその意義 3. 演劇的手法を用いた学習活動 4. ドラマ教育の技法 5. 学校での実践事例 6. 演劇教育・ドラマ教育の系譜 7. 学習の身体性(1)「からだ」論の登場 8. 学習の身体性(2) 認知科学分野からの提起 9. 教員養成・教員研修とリフレクション 10. 模擬授業の新たな可能性 11. 授業検討会における対話を見直す 12. 学習活動の追体験を伴う事後検討会 13. 同型性という原理 14. 実践を「他人事」として見ないアプローチ 15. 「なってみる学び」が提起するもの
授 業 の 方 法	(対面授業が可能な場合には)演劇的手法の体験などさまざまなワークを交えて進行する。激しい運動をするわけではないが、動きやすい服装で参加すること。
成 績 評 価 方 法	各実施日のミニレポートおよび最終レポートによる。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	教育への実践的関心をもつ人を歓迎する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-09	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	林 寛 平				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	グローバル化する教育実践 Education in Global Perspectives				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業では、文献講読を通じて各国の教育実践の概要を学ぶとともに、「比較教育学」が射程とする学術研究の蓄積と課題を理解することを通じて、世界の学校教育制度とカリキュラムが子供の発達及び学習の過程に与える影響について考察し、教育実践をグローバルな視野から見られるようになる。
授 業 計 画	1. 北欧の教育最前線ー市民社会をつくる子育てと学び 2. 欧州における学生運動とオルタナティブ教育の展開 3. アメリカにおける学歴の値段と名門大学の入学試験 4. アドミッションに見る多様な評価 5. 世界の授業スタイル 6. 多文化の中の子育てと価値観 7. レッジョ・アプローチの世界的な広がり 8. 科学技術の発展と新しい教育実践 9. 国際学力調査に見る 21 世紀の学校システム 10. 学力ビジネスと世界教育戦争 11. アフリカ諸国における教育開発の新局面 12. 「教育の輸出」の勃興と功罪 13. 世界から見た日本の教育 14. ジェンダー・移民・格差社会と「社会問題の教育化」15. グローバル教育政策市場をどう捉えるか
授 業 の 方 法	講義、ディスカッションおよびグループワーク形式で行う
成 績 評 価 方 法	成績評価はレポート(100%)とする。レポートは本授業で扱った議論を踏まえて関連文献を読んだり調査を行うなどした内容を 1200 字程度でまとめる。毎回の授業で求める指定図書の所感まとめ(A4 で 1 枚程度)は成績評価には含めない。
教 科 書	北欧教育研究会(2021)『北欧の教育最前線ー市民社会をつくる子育てと学び』明石書店
履修上の注意・備考	授業は 2 回連続とし、おおむね隔週の頻度で行う。受講生は毎回指定図書を読んで A4 で 1 枚程度のまとめを持参し、授業の初めに受講生同士で所感を共有する。授業の一部はオンラインあるいはオンデマンドで行う場合がある。受講者に日本語以外の話者がいる場合には、英語で授業を開講する可能性がある。その場合でも、レポートは日本語での提出も可とする。
そ の 他	日程や内容・授業の方法は受講生と相談の上で変更する場合がある。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小泉 広子				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育法の現代的課題 Contemporary Issues in Education Law				

授 業 の 目 標・概 要	「教育法」とは、教育ないし教育制度に固有な法的しくみをいい、「教育法学」とは、教育にとって望ましいそうした法のあり方を研究する学問である。また、近年では、子どもにかかわる法体系やそのあり方を包括的に検討することを志向した「子ども法」という概念も広がりつつある。本講義では、学校教育や福祉領域における子どもの権利保障の現状と課題を、裁判事例や法制度を素材に、検討し、あるべき法解釈や立法論を考えていく。
授 業 計 画	1. 子どもの権利条約からみた日本の子ども2. 教育法の機能的3種別3. 新型コロナウイルス感染症と子どもの権利4. 体罰と子どもの権利5. いじめと子どもの権利6. 校則と子どもの権利7. 障害をもつ子ども・青年の学ぶ権利8. 子どもの宗教的自由と学校教育9. 学校事故と子どもの権利 10. 児童虐待と子どもの権利 11. 貧困と子どもの権利 12. 乳幼児期の子どもの権利 13. 保育と子どもの権利
授 業 の 方 法	講義と演習
成 績 評 価 方 法	レポートによる
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	子どもの権利条約に関する国連子どもの権利委員会による、日本政府への第4・5 回最終所見に目を通しておくとよいと思います。外務省のホームページから政府訳を入手できます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-11	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	坂部 真理				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育政策の比較政治学的分析 A Comparative Political Analysis of Education Policy				

授業の目標・概要	本講義では、政治学(ときに比較政治学や政治経済学)の視点から、現代の教育改革を牽引し方向づけている政治的ダイナミズムを分析する上で有益と思われる諸概念・アプローチを習得することを目標とします。近年、各国で推進されてきた教育改革には、NPM の導入や「人的資本投資」の強調など、ある一定の共通性が見られます。しかし、それら諸改革の成否や方向性については、国家間で差異も存在します。この国家間の教育改革の多様性を理解する上では、各国特有の制度構造(「制度遺制」)や、政府(政党、官僚など)―社会集団―有権者などの間に作用する政治力学を分析することが重要です。本講義の担当者(坂部)は、教育学ではなく、政治学を専門とする教員です。政治学の分野には、「下位政府」「福祉-生産レジーム」「経路依存性」「政策学習」「制度変化と再生産のダイナミズムの関係」など、教育に関わる政治力学を分析する上で有益な諸概念・アプローチが存在します。本講義を受講する上で、あらかじめ学部等で「政治学」関連の講義を履修している必要はありません(まったく初学者でも大丈夫です)。各国の教育政策の形成や変化のプロセスを、政治学の諸概念を用いて分析する手法を基礎から学び、将来的に受講生の皆さんが教育学―政治学を横断する学際的研究を発展させていくための「土台」を築くことを目標とします。
授 業 計 画	・詳細は、初回講義で決定します。第1回 イントロダクション第2～7回 テキストの講読とディスカッション(2コマ連続の講義です)
授 業 の 方 法	・毎回、指定された文献を講読し、ディスカッションを行います(各回一人ずつ、報告を担当)。 ・講義の形式:可能であれば、初回のみ対面授業で行います。残りの2～7回はオンライン方式で行います(zoom のリンクは設定次第、掲載します)。
成 績 評 価 方 法	各自が担当する回での報告:30%、ディスカッションへの参加状況:70%として評価します。
教 科 書	・使用するテキストは、受講者の研究テーマや関心を考慮しつつ、初回講義で決定します。現段階では、以下の文献の中から選択する予定です。【近年の福祉国家の再編、社会的投資国家、その中での公教育の位置づけの変化などに関する文献】①Marius R. Busemeyer, Caroline de la Porte, (eds.), the Future of the Social Investment State, Routledge, 2018. ②Nathalie Morel, Bruno Palier and Joakim Palme (eds.), Towards A Social Investment Welfare State?, The Policy Press, 2012.③Anton Hemerijck, Changing Welfare States, Oxford University Press, 2013.④Marius R. Busemeyer, Skills and Inequality, Cambridge University Press, 2015.⑤Peter A. Hall, David Soskice (eds.), Varieties of Capitalism, Oxford University Press, 2001.【制度変化・改革のダイナミズムに関わる文献】①ポール・ピアソン著、粕谷祐子監訳『ポリテイクス・イン・タイム』勁草書房、2010 年(原著は 2004 年)②Kathleen Thelen, How Institutions Evolve, Cambridge University Press, 2004.③Wolfgang Streeck, Kathleen Thelen, Beyond Continuity, Oxford University Press, 2005.【日本の教育政策形成に関する文献(今年度は可能であれば日本の政策形成についても考察してみたいと思っています)】T. J.ペンパル著、橋本鉦市訳『日本の高等教育政策』玉川大学出版社、2004 年など。
履修上の注意・備考	・二時間連続で受講してください。・政治学的分析に関心があれば、専攻分野・研究テーマにかかわらず受講可能です(初学者歓迎)。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-302-12	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	教科教育の心理的事例研究 Psychological Case Studies on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。中等教育を中心とした各教科の授業について、授業記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し、その方法に熟達することを目標とする。中等教育における各教科(数学科、理科、国語科)の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について、発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い、心理学の視点から考察を行う。
授 業 計 画	1: イントロダクション2: 授業の心理学的分析の方法3: 中学校数学科授業の事例研究①(個別探究)4: 中学校数学科授業の事例研究②(協同探究)5: 高校数学科授業の事例研究①(個別探究)6: 高校数学科授業の事例研究②(協同探究)7: 中学校理科授業の事例研究①(個別探究)8: 中学校理科授業の事例研究②(協同探究)9: 高校理科授業の事例研究①(個別探究)10: 高校理科授業の事例研究②(協同探究)11: 中学校国語科授業の事例研究①(個別探究)12: 中学校国語科授業の事例研究②(協同探究)13: 高校国語科授業の事例研究(個別探究・協同探究)
授 業 の 方 法	各教科の授業についての指導案、ワークシート等の資料にもとづいて、個別に検討を行い(個別探究)、集団での発表・検討・討論(協同探究)を行った後、さらに個別に考察を深める。
成 績 評 価 方 法	授業時の発表・小レポートおよび最終レポートによる。
教 科 書	『協同探究学習で育む「わかる学力」―豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、ミネルヴァ書房、2018年)
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	各回の授業およびそこでの討論への参加、個別探究の小レポート、および最終レポートの提出が必要である。【履修上の注意点】2021年度開講の「教科教育の心理的事例研究」と同一科目のため、2021年度に本科目を履修済みの場合は本科目の履修を推奨しない。基本的にオンラインを中心に授業を行う予定である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-13	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	教科学習の事例研究 Case studies on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育観や学力観が大きく変化している今日、学校教育の現場でもさまざまな取り組みが積み重ねられている。主にオンラインで視聴できる講義を観察し、どのような視点から授業を見ていくことが重要であるか、受講者たちの間で議論する。そうした議論を通して、授業を観察する視点を獲得していくことが、本講義の目標である。
授 業 計 画	第 1 回：導入(講義の説明)[この第 1 回の講義の課題を、第 2 回の講義時に提出してもらうので、注意すること。]第 2 回：教科学習の事例研究(1) 第 3 回：教科学習の事例研究(2) 第 4 回：教科学習の事例研究(3) 第 5 回：教科学習の事例研究(4) 第 6 回：新しい概念にもとづく授業の事例研究／その他の教科の事例研究 第 7 回：まとめ＊履修者の関心を踏まえて、研究する授業の事例については修正を行うことがある。
授 業 の 方 法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注目すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。【第1回の講義の課題】下記の2つの論考を読み、それぞれについて重要だと感じた論点を挙げると共に、読んで感じたり考えたりしたことを何でも良いので自由に書くこと。(1)石井英真「授業の構想力を高める教師の実践研究の方法論」(https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/226084/1/hte_019_11.pdf) (2)木村優「授業参観の『視点』と授業分析の『ねらい』」(https://core.ac.uk/download/pdf/59042143.pdf)各論考について、A4用紙(ワード・ファイル)で1枚程度(合計2枚程度)書くこと。その課題レポートを、第 2 回のときに提出すること。
成 績 評 価 方 法	出席状況、発表、授業への取り組み、最終レポートを総合的に評価する。
教 科 書	講義のなかで指示する。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-14	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	子どもの学習を中心とした探究的で協働的な授業デザインについて理論的, 実践的に学ぶとともに, 授業における子どもの学習過程を捉える視点を獲得する。
授 業 計 画	第1回: 受講者のこれまでの実践の省察と課題の認識第2回: 事例分析①第3回: 事例分析②第4回: 事例分析③第5回: 事例分析④第6回: 事例分析⑤第7回: 全体のまとめと省察
授 業 の 方 法	さまざまな校種や教科の授業における映像記録、文字記録などの視聴や読み取りを行う。読み取り学んだことを交流しながら、授業実践を授業で生起する事実に基づき検討する。
成 績 評 価 方 法	演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	授業の形態がオンラインか対面かによって記録の共有や検討する協議などの方法が異なるので、授業の初回時に説明します。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-302-15	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	教職の事例研究 Case Studies of Lessons				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授 業 計 画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の記録や授業研究の論文を読む。コロナウイルスの流行状況によっては、授業の参観は行わない。
授 業 の 方 法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	参加と課題レポートによる。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・実地研究)				
講 義 題 目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	学校におけるフィールドワーク(授業観察・調査など)のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低2単位は東京大学教育学部附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	フィールドワークを実施する際には、12時間以上実施することが必要である。修士1年の院生、および初めてフィールドワークを履修する博士1年の院生は、冬学期以降の履修を原則とする。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・実地研究)				
講 義 題 目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会、附属中等教育学校の公開研究会(2月)への参加がもめられる。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	必要に応じて授業中に指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	時間割上の開講時間以外の活動が多くなることに留意されたい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(言語教育・論文指導)				
講 義 題 目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授 業 計 画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授 業 の 方 法	基本的に面談指導を行う。
成 績 評 価 方 法	論文執筆に向けての計画、資料収集の状況、執筆の進度、論文の内容、面談への取り組みなどを総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-302-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(言語教育・論文指導)				
講 義 題 目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授 業 計 画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授 業 の 方 法	基本的に面談指導を行う。
成 績 評 価 方 法	論文執筆に向けての計画、資料収集の状況、執筆の進度、論文の内容、面談への取り組みなどを総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(教育内容開発・論文指導)				
講 義 題 目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授 業 の 目 標・概 要	小学校・中学校・高校の教科等の教育や関連する認知過程に関する実証的研究について、修士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に、研究の進め方、論文の書き方などに関する指導を行う。
授 業 計 画	各参加者の研究テーマに関して、先行研究の検討、研究目的・研究計画の設定、実証的研究の実施、研究結果の心理学的分析、分析結果にもとづく考察について、研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授 業 の 方 法	参加者は、一人ずつ自身の教育内容開発コース修士課程の研究題目についてのプレゼンテーションを行い、その発表内容について、参加者全員で集团的に検討を行う。ハイブリッド(オンライン授業実施日と、年数回の対面授業実施日を設定)で授業を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、および授業への参加度にもとづいて評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	教育内容開発コースの修士論文作成に向けての研究発表を行うだけではなく、他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(教育内容開発・論文指導)				
講 義 題 目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	小学校・中学校・高校の教科等の教育や関連する認知過程に関する実証的研究について、博士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に、研究の進め方、論文の書き方などに関する指導を行う。
授 業 計 画	各参加者の研究テーマに関して、博士論文の構想にもとづいて、博士論文を構成する個々の実証的研究について、先行研究の検討、研究目的・研究計画の設定、実証的研究の実施、研究結果の心理学的分析、分析結果にもとづく考察について参加者は発表を行い、研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授 業 の 方 法	参加者は、一人ずつ自身の教育内容開発コース博士課程の研究題目についてのプレゼンテーションを行い、その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。ハイブリッド(オンライン授業実施日と、年数回の対面授業実施日を設定)で授業を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、および授業への参加度にもとづいて評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	教育内容開発コースの博士論文作成に向けての研究発表を行うだけではなく、他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-302-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(人文社会教育・論文指導)				
講 義 題 目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文ならびに博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授 業 計 画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授 業 の 方 法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導を中心とするが、必要に応じて集団での討論なども行うことがある。
成 績 評 価 方 法	学位論文の執筆へ向けて、個別にどの程度達成できているかを評価する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-302-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(人文社会教育・論文指導)				
講 義 題 目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文ならびに博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授 業 計 画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授 業 の 方 法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導を中心とするが、必要に応じて集団での討論なども行うことがある。
成 績 評 価 方 法	学位論文の執筆へ向けて、個別にどの程度達成できているかを評価する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	杉浦 幸子				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(芸術教育・論文指導)				
講 義 題 目	芸術教育論文指導 Dissertation Research in Art Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	主に美術教育に関わるテーマで研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	授業初回に、履修者個別の研究内容・計画をヒアリングした上で、論文執筆計画を立てる。執筆を進める中で、研究目的、設定した問題、先行研究レビュー、研究の理論的構成、研究方法、資料・データ分析などについての理解を深める。
授 業 の 方 法	業初回に、履修者個別に面談を行う、それぞれの研究内容に沿って、論文執筆のための指導を行う。状況に応じて、個別指導とグループ討論を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	それぞれの研究への取り組みを総合的に判断して評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	履修を検討している学生は下のメールアドレスまで連絡すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	杉浦 幸子				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(芸術教育・論文指導)				
講 義 題 目	芸術教育論文指導 Dissertation Research in Art Education				

授 業 の 目 標・概 要	主に美術教育に関わるテーマで研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	授業初回に、履修者個別の研究内容・計画をヒアリングした上で、論文執筆計画を立てる。執筆を進める中で、研究目的、設定した問題、先行研究レビュー、研究の理論的構成、研究方法、資料・データ分析などについての理解を深める。
授 業 の 方 法	業初回に、履修者個別に面談を行う、それぞれの研究内容に沿って、論文執筆のための指導を行う。状況に応じて、個別指導とグループ討論を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	それぞれの研究への取り組みを総合的に判断して評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	履修を検討している学生は下のメールアドレスまで連絡すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-26	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	浅井 幸子、草薨 佳奈子				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	レッスンスタディと教師研究 Research on lesson study as professional development of teachers				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業では、レッスンスタディ(授業研究)を切り口として、日本と海外(主にインドネシア)の教師研究について理解を深める。レッスンスタディは日本発の教師の専門性向上のためのモデルとして、世界 60 カ国以上で実践されている。教育移転においては、ある国の教育モデルが「ベストプラクティス」として他国へ輸出・輸入される。しかし、日本の学校風土で生まれ受け継がれてきた授業研究が、海外でレッスンスタディとして実践された際、教師の協働や生徒の学びを改善する実践に必ずしもなるわけでない。本授業では、海外のレッスンスタディの事例を基に、教育実践を社会的行為として捉え、日本と海外の教師研究について理解を深める。レッスンスタディというレンズを通して、教師文化と教師の役割、同僚性、教師の専門性など、教師研究をテーマに探求することを目的とする。また比較研究や教師研究の研究手法や論文執筆の方法についても取り上げる。
授 業 計 画	1回・2 回: 日本の授業研究と教育移転としてのレッスンスタディ 3 回・4 回: 海外のレッスンスタディ研究 5 回・6 回: 教師文化と教師の役割 7 回・8 回: フィールドワークの視点: 研究者と実践者の関わり 9 回・10 回: 教師の同僚性 11 回・12 回: 教師の専門性 13 回: まとめ
授 業 の 方 法	日本語・英語の文献を複数選び、回ごとに担当者を決めて発表を行う。また、発表者以外は、感想・意見・疑問点などをまとめ、事前に ITC-LMS を通じて提出すること。授業日には、事前課題を基に議論を行う。
成 績 評 価 方 法	授業内課題(発表含む)50%、レポート 50%
教 科 書	特になし。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	毎回の出席、事前課題の提出と積極的な議論への参加を求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校教育経営・基礎研究)				
講 義 題 目	現代学校改革の諸問題 Issues in Contemporary School Reforms				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	現代日本(及び諸外国)の学校改革に関する政策や制度改革、及びその学校教育に及ぼす影響について、考察を深めることを目的とし、そのために必要な理論や概念の獲得を目指す。授業は、その週でとりあげる理論・概念や課題について、指定された文献の内容を基に議論を行い、理解を深める形で進める。参加者は、指定された文献を読んで、内容に関する意見・疑問を整理して授業に臨み、議論に参加することが求められる。
授 業 計 画	文献リスト及びスケジュールは3月末までにITC-LMSに掲示するので確認すること。
授 業 の 方 法	予め指定された文献を読んで、感想・意見・疑問点などをA4で1枚程度にまとめ、授業日の3日前(月曜日)午後9時までにITC-LMSを通じて提出すること。授業日には、感想・意見・疑問点を基に議論を行う。
成 績 評 価 方 法	課題の提出、及び授業での議論への参加を総合して評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	村上 祐介、橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・基礎研究)				
講 義 題 目	教育政策基礎論 Foundation of Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業の目的は、教育政策・行政の研究に関する理論的視点や知識を習得することにある。単に教育に関する法制度や政策について知るだけでなく、教育政策・行政に関する理念・価値や考え方としてどのような類型や対立軸があるのかを理解し、教育政策・行政を考えるうえでの分析視角を獲得することが目標である。
授 業 計 画	※受講者の状況により、順序は変更することがある。※前半を村上、後半を橋野が担当する。1 授業に関するガイダンス 2 事前統制と事後統制 3 権力の集中と分散 4 集権と分権 5 統合と分立 6 民主性と専門性 7 個別行政と総合行政 8 教育政策・財政の基礎Ⅰ 9 教育政策・財政の基礎Ⅱ 10 教育政策・財政の基礎Ⅲ 11 教育政策・財政における諸問題Ⅰ 12 教育政策・財政における諸問題Ⅱ 13 教育政策・財政における諸問題Ⅲ
授 業 の 方 法	内容について討議を行いながら授業を進める。事前に課題文献を読んでおくことを前提とする。発表者を設定する場合は、事前または授業時に発表資料を提出する。前半については、教科書の内容をふまえて教育政策・財政に関する洋図書について輪読する。後半については、教科書の該当章及び各回ごとに指定する文献を講読する。13 回全てをオンラインによって行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(授業への参加)とレポートによる。
教 科 書	村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣 Lovenheim, Michael and Sarah Turner (2018) Economics of Education, Worth Publishers.
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	・事前に文献に目を通す時間を確保することが求められる。・教育政策・行政に関して学部レベルの知識を有していることを前提に授業を進めるため、教育政策・行政をはじめて学ぶ場合は、早い段階で学部レベルのテキスト(参考書に挙げている文献など)に目を通しておくことが望ましい。
そ の 他	前半、後半ごとに Zoom の URL を設定する。URL は LMS を参照のこと。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-03	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小泉 広子				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・基礎研究)				
講 義 題 目	教育法の現代的課題 Contemporary Issues in Education Law				

授 業 の 目 標・概 要	「教育法」とは、教育ないし教育制度に固有な法的しくみをいい、「教育法学」とは、教育にとって望ましいそうした法のあり方を研究する学問である。また、近年では、子どもにかかわる法体系やそのあり方を包括的に検討することを志向した「子ども法」という概念も広がりつつある。本講義では、学校教育や福祉領域における子どもの権利保障の現状と課題を、裁判事例や法制度を素材に、検討し、あるべき法解釈や立法論を考えていく。
授 業 計 画	1. 子どもの権利条約からみた日本の子ども 2. 教育法の機能的3種別 3. 新型コロナウイルス感染症と子どもの権利 4. 体罰と子どもの権利 5. いじめと子どもの権利 6. 校則と子どもの権利 7. 障害をもつ子ども・青年の学ぶ権利 8. 子どもの宗教的自由と学校教育 9. 学校事故と子どもの権利 10. 児童虐待と子どもの権利 11. 貧困と子どもの権利 12. 乳幼児期の子どもの権利 13. 保育と子どもの権利
授 業 の 方 法	講義と演習
成 績 評 価 方 法	レポートによる
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	子どもの権利条約に関する国連子どもの権利委員会による、日本政府への第4・5 回最終所見に目を通しておくとよいと思います。外務省のホームページから政府訳を入手できます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-04	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・発展研究)				
講 義 題 目	教育政策研究方法論Ⅱ Research Design and Methods of Education Policy Studies Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、教育政策研究・政策評価において必要とされる実証分析の方法について学ぶ。教育行政・学校経営分野での適用を念頭において、統計的因果推論を含め教育政策研究で用いられる機会の多い手法について基本的な考え方を理解することを目指す。また、そうした手法の適用が対象である教育政策に関する知見の課題設定・前提・含意に具体的に何をもたらすか、という点を考察する。
授 業 計 画	前半の回で、教育政策研究の実証分析における基礎的手法について学び、後半の回では、それらを応用した教育政策・行財政および学校経営分野における実証研究の検討を行う。扱うトピックについては以下を想定している。1)統計的因果推論の諸手法 2)様々な従属変数の回帰モデル(一般化線形モデル・生存分析)3)パネル・クラスターデータの分析法時間の制約上全てに触れることができないため、初回に受講者と相談の上で扱うトピックを決定する。授業実施形態については、原則として対面で実施する。1. 近年の教育政策研究の動向と課題 2. 線形回帰モデルの復習 3. 教育政策研究における実証分析の基礎 14. 教育政策研究における実証分析の基礎 25. 教育政策研究における実証分析の基礎 36. 教育政策研究における実証分析の基礎 47. 教育政策研究における実証分析の基礎 58. 教育政策研究における実証分析の基礎 69. 実証研究の検討 110. 実証研究の検討 211. 実証研究の検討 312. 実証研究の検討 413. 実証研究の検討 5
授 業 の 方 法	文献輪読(発表・議論)による。
成 績 評 価 方 法	平常点(発表および授業中の発言)に基づいて評価する。日程の都合等で発表を担当できない場合は、期末に相応のレポートを提出してもらう。
教 科 書	特に指定しない。都度関連資料を配布する。
履修上の注意・備考	データ分析に関する入門的事項の理解があることが望ましい。
そ の 他	扱うトピックの候補および検討文献の詳細は、第 1 回授業資料(事前に LMS「教材」にアップロードしておく)を参照すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-05	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	坂部 真理				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・発展研究)				
講 義 題 目	教育政策の比較政治学的分析 A Comparative Political Analysis of Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本講義では、政治学(ときに比較政治学や政治経済学)の視点から、現代の教育改革を牽引し方向づけている政治的ダイナミズムを分析する上で有益と思われる諸概念・アプローチを習得することを目標とします。近年、各国で推進されてきた教育改革には、NPM の導入や「人的資本投資」の強調など、ある一定の共通性が見られます。しかし、それら諸改革の成否や方向性については、国家間で差異も存在します。この国家間の教育改革の多様性を理解する上では、各国特有の制度構造(「制度遺制」)や、政府(政党、官僚など)―社会集団―有権者などの間に作用する政治力学を分析することが重要です。本講義の担当者(坂部)は、教育学ではなく、政治学を専門とする教員です。政治学の分野には、「下位政府」「福祉-生産レジーム」「経路依存性」「政策学習」「制度変化と再生産のダイナミズムの関係」など、教育に関わる政治力学を分析する上で有益な諸概念・アプローチが存在します。本講義を受講する上で、あらかじめ学部等で「政治学」関連の講義を履修している必要はありません(まったく初学者でも大丈夫です)。各国の教育政策の形成や変化のプロセスを、政治学の諸概念を用いて分析する手法を基礎から学び、将来的に受講生の皆さんが教育学―政治学を横断する学際的研究を発展させていくための「土台」を築くことを目標とします。
授 業 計 画	・詳細は、初回講義で決定します。第1回 イントロダクション第2～7回 テキストの講読とディスカッション(2コマ連続の講義です)
授 業 の 方 法	・毎回、指定された文献を講読し、ディスカッションを行います(各回一人ずつ、報告を担当)。 ・講義の形式:可能であれば、初回のみ対面授業で行います。残りの2～7回はオンライン方式で行います(zoom のリンクは設定次第、掲載します)。
成 績 評 価 方 法	各自が担当する回での報告:30%、ディスカッションへの参加状況:70%として評価します。
教 科 書	・使用するテキストは、受講者の研究テーマや関心を考慮しつつ、初回講義で決定します。現段階では、以下の文献の中から選択する予定です。【近年の福祉国家の再編、社会的投資国家、その中での公教育の位置づけの変化などに関する文献】①Marius R. Busemeyer, Caroline de la Porte, (eds.), the Future of the Social Investment State, Routledge, 2018. ②Nathalie Morel, Bruno Palier and Joakim Palme (eds.), Towards A Social Investment Welfare State?, The Policy Press, 2012.③Anton Hemerijck, Changing Welfare States, Oxford University Press, 2013.④Marius R. Busemeyer, Skills and Inequality, Cambridge University Press, 2015.⑤Peter A. Hall, David Soskice (eds.), Varieties of Capitalism, Oxford University Press, 2001.【制度変化・改革のダイナミズムに関わる文献】①ポール・ピアソン著、粕谷祐子監訳『ポリテイクス・イン・タイム』勁草書房、2010 年(原著は 2004 年)②Kathleen Thelen, How Institutions Evolve, Cambridge University Press, 2004.③Wolfgang Streeck, Kathleen Thelen, Beyond Continuity, Oxford University Press, 2005.【日本の教育政策形成に関する文献(今年度は可能であれば日本の政策形成についても考察してみたいと思っています)】T. J.ペンパル著、橋本鉦市訳『日本の高等教育政策』玉川大学出版社、2004 年など。
履修上の注意・備考	・二時間連続で受講してください。・政治学的分析に関心があれば、専攻分野・研究テーマにかかわらず受講可能です(初学者歓迎)。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	渡辺 貴裕				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	なってみる学びと教師教育 Learning through drama' and teacher education				

授 業 の 目 標・概 要	第三者的立場からの把握ではなく対象の中に入り込んで自らの感覚を働かせての理解を図る「なってみる学び」は、子どもの学び(授業)においても教師の学び(教員養成・教員研修)においても重要な役割を果たす。子どもの学びにおいては、それは、演劇的手法やドラマ教育という形をとるし、教師の学びにおいては、対話型模擬授業検討会や学習活動の追体験を伴う事後検討会といった形をとる。本科目では、こうした学びのあり方の具体像、系譜、意義と課題を扱う。
授 業 計 画	1. 「なってみる学び」概観 2. 演劇的手法の持ち味とその意義 3. 演劇的手法を用いた学習活動 4. ドラマ教育の技法 5. 学校での実践事例 6. 演劇教育・ドラマ教育の系譜 7. 学習の身体性(1)「からだ」論の登場 8. 学習の身体性(2) 認知科学分野からの提起 9. 教員養成・教員研修とリフレクション 10. 模擬授業の新たな可能性 11. 授業検討会における対話を見直す 12. 学習活動の追体験を伴う事後検討会 13. 同型性という原理 14. 実践を「他人事」として見ないアプローチ 15. 「なってみる学び」が提起するもの
授 業 の 方 法	(対面授業が可能な場合には)演劇的手法の体験などさまざまなワークを交えて進行する。激しい運動をするわけではないが、動きやすい服装で参加すること。
成 績 評 価 方 法	各実施日のミニレポートおよび最終レポートによる。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	教育への実践的関心をもつ人を歓迎する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-07	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	林 寛 平				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	グローバル化する教育実践 Education in Global Perspectives				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業では、文献講読を通じて各国の教育実践の概要を学ぶとともに、「比較教育学」が射程とする学術研究の蓄積と課題を理解することを通じて、世界の学校教育制度とカリキュラムが子供の発達及び学習の過程に与える影響について考察し、教育実践をグローバルな視野から見られるようになる。
授 業 計 画	1. 北欧の教育最前線ー市民社会をつくる子育てと学び 2. 欧州における学生運動とオルタナティブ教育の展開 3. アメリカにおける学歴の値段と名門大学の入学試験 4. アドミッションに見る多様な評価 5. 世界の授業スタイル 6. 多文化の中の子育てと価値観 7. レッジョ・アプローチの世界的な広がり 8. 科学技術の発展と新しい教育実践 9. 国際学力調査に見る 21 世紀の学校システム 10. 学力ビジネスと世界教育戦争 11. アフリカ諸国における教育開発の新局面 12. 「教育の輸出」の勃興と功罪 13. 世界から見た日本の教育 14. ジェンダー・移民・格差社会と「社会問題の教育化」15. グローバル教育政策市場をどう捉えるか
授 業 の 方 法	講義、ディスカッションおよびグループワーク形式で行う
成 績 評 価 方 法	成績評価はレポート(100%)とする。レポートは本授業で扱った議論を踏まえて関連文献を読んだり調査を行うなどした内容を 1200 字程度でまとめる。毎回の授業で求める指定図書の所感まとめ(A4 で 1 枚程度)は成績評価には含めない。
教 科 書	北欧教育研究会(2021)『北欧の教育最前線ー市民社会をつくる子育てと学び』明石書店
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	授業は 2 回連続とし、おおむね隔週の頻度で行う。受講生は毎回指定図書を読んで A4 で 1 枚程度のまとめを持参し、授業の初めに受講生同士で所感を共有する。授業の一部はオンラインあるいはオンデマンドで行う場合がある。受講者に日本語以外の話者がいる場合には、英語で授業を開講する可能性がある。その場合でも、レポートは日本語での提出も可とする。
そ の 他	日程や内容・授業の方法は受講生と相談の上で変更する場合がある。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-08	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育の理論を踏まえながら実践について議論ができるようになる。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. 研究対象としての国語科授業実践 3. 国語科における学習指導目標と子どもの学び 4. 「読むこと」に関する理論 5. 国語科における学習指導の方法 6. 「評価の充実」とは 7. 授業スタンダード 8-9. 教材分析(文学的な文章) 10. 文学的な文章に対する児童の反応 11-12. 「読むこと」の授業事例の分析 13. 授業の構想を支える資料
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	永田 佳之				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	地球規模課題とESD Global Issues and ESD				

授 業 の 目 標・概 要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるであろう — 環境教育や ESD の論客である David Orr が私たちにこう問いかけたのは 30 年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかのく正答のない問い)を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキスタイルとして、縦糸として「教育開発」を、横糸として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授 業 計 画	1 基本的な問いの共有2 持続可能な社会と教育3 環境教育・ESD・Efs4 エコフォビアを超えて5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代6 気候変動の本質的な課題7 不確実性の時代と学校教育8 ESD の来し方行く末①9 ESD の来し方行く末②10 ESD for 2030 – SDGs と教育 – 11 世界の優良実践①12 世界の優良実践②13 日本の教育を捉え直す 14 人新世時代の教育学の課題 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授 業 の 方 法	く正答のない問い)を中心に進め、グループ討議も適宜、取り入れていく。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教 科 書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社、2020 年
履 修 上 の 注 意・備 考	事前に文献をよく読んで授業に臨むこと。
そ の 他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.com ・BE*hive(暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-10	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	杉浦 幸子				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	生涯学習時代の美術教育における鑑賞のデザイン Designing Appreciation in Art Education in the Age of Lifelong Learning				

授業の目標・概要	生涯学習時代において、美術作品の「鑑賞」は、学校教育においてのみならず、社会教育機関である美術館、芸術祭といったアウトリーチの場、さらには福祉、医療、多文化交流、ビジネスの現場といった、広い意味での教育的な、多分野にまたがる専門領域においても、その重要性が認識されている。「鑑賞」という形のない体験のデザインに、さまざまな可能性が見出されている現状を踏まえ、この授業では、鑑賞の定義や歴史を概観し、国内外の事例を取り上げ、ディスカッションを行った後、実際のアート作品や展覧会を鑑賞するプログラムをデザイン・実施し、さらにそれを検証し評価することを通して、多角的に鑑賞のデザインについて学ぶ。鑑賞のデザインの対象者は、学校教育に限らず、乳幼児から高齢者、障がいの有無、国籍など、生涯学習の観点から広く設定していく。
授 業 計 画	以下の 13 回の授業内容を予定している。1.美術作品の鑑賞の定義と歴史 2.美術教育における鑑賞 3.実際の作品を用いた鑑賞ワークショップを体験する 4.鑑賞ワークショップ体験の振り返りと分析 5.鑑賞のデザインの対象となるモノ・人・場の考察 6.鑑賞プログラムのデザイン①ー対象者 7.鑑賞プログラムのデザイン②-コンテンツ 8.鑑賞プログラムのデザイン③ーフレームワーク 9.鑑賞プログラムの実施① 10.鑑賞プログラムの分析とブラッシュアップ 11.鑑賞プログラムの実施② 12.鑑賞プログラムの評価 13.まとめ
授 業 の 方 法	講義とディスカッションの後、個別またはグループで(受講者人数による)美術作品もしくは美術展の鑑賞プログラムをデザインし、プレゼンテーションを行う実践的な授業となる。関連文献、関連作品/展覧会は受講生と相談の上、選定する。鑑賞プログラムのデザインのために、授業時間外で、グループでのディスカッションを行う可能性がある。また、鑑賞デザインの現場で活動を行う専門家(美術館学芸員、アーティスト)が授業に参加する可能性がある。履修人数やコロナ感染状況、オンラインの通信状況によって調整や変更が生じる可能性がある。オンラ
成 績 評 価 方 法	議論への貢献とプレゼンテーション(50%)、最終レポート(50%)で評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	コロナ感染状況次第となるが、学外の美術館の見学(授業内で/各自)を行う可能性がある。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-11	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(教育政策研究・事例研究)				
講 義 題 目	教育行政事例研究Ⅱ Case Study in Educational Administration Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、教育行政学に関する理論研究・事例研究を講読し、この分野における論点や課題を理解することが主な目的である。前半は、教育行政学の理論的側面を論じた基本文献を扱い、後半は教育行政の専門性に関する文献を取り上げる。
授 業 計 画	授業に関するガイダンス第Ⅰ部 教育行政学の理論教育行政の展開、理論、構造、課題について、基本文献を検討する(下記の参考書を参照)。第Ⅱ部 教育行政の専門性教育行政の専門性に関わる諸問題(政官関係、中立性、教育行政機関の組織・人事など)について、最近の研究を中心に検討する。
授 業 の 方 法	受講者は、集中講義の期間中 1 日につき 1 回以上(受講者数によっては 2 回以上)、当該文献に関する簡単なメモ(意義や疑問点など)を作成する。上記の資料やメモを基に議論を行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加度と提出された資料・メモの内容により評価を行う。試験は行わない。
教 科 書	開講時までに指示する(履修上の注意を参照)
履修上の注意・備考	詳しい予定と取り上げる文献については、開講時までに LMS に掲載する。LMS からのお知らせメールの配信が届く設定にするか、開講前に定期的に LMS を確認のこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-12	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(学校教育経営・事例研究)				
講 義 題 目	学校経営実践の開発Ⅱ Developmental Study of School Management Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	日本と外国の学校改革を社会的・政治的文脈に位置付けるとともに、学校の組織や教育活動の性質に即して分析する。そのために必要な基礎理論や分析概念を習得することを目標とする。
授 業 計 画	学校組織やリーダーシップの動態的な理解を目的として、邦文及び英文文献を輪読する。途中、数回分は国内外よりゲストに参加してもらい、特別レクチャーやディスカッションを実施する予定であり、その回はオンライン(Zoom)で実施する。文献リストとスケジュールは、授業開始 1 週間前までに ITC-LMS に掲示する。
授 業 の 方 法	文献研究に加えて、国内外のゲストによるレクチャー、ディカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	平常点で評価する。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(学校教育経営・実地研究)				
講 義 題 目	学校経営実地研究 Fieldwork in School Management				

授 業 の 目 標・概 要	学校経営の現場におけるフィールドワーク(観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む)を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。
授 業 計 画	最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12 月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。
授 業 の 方 法	受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。
成 績 評 価 方 法	中間報告、最終報告(レポート)によって評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(教育政策研究・実地研究)				
講 義 題 目	教育行政実地研究 Fieldwork in Educational Administration				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育行政・政策の現場におけるフィールドワーク(観察、調査、実習など)を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探究し、自らの問題意識と調査研究の構想を深めることを目標とする。受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。
授 業 計 画	初回の授業時にガイダンスを行い、実地研究の方法と進め方について説明する。その後、受講生各自が研究計画書を作成し、それについて議論を進めながら各自で研究を進める。適宜、中間報告と最終報告を行い、期末レポートを作成する。
授 業 の 方 法	受講生による研究報告と討論によって授業を進める。
成 績 評 価 方 法	中間報告と最終報告、期末レポートによって評価を行う。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	受講生の研究計画や状況に合わせてながら授業を実施する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(教育政策研究・実地研究)				
講 義 題 目	教育政策実地研究 Fieldwork in Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	教育政策に関する調査を通して、研究の構想および調査の設計を深めることを目標とする。受講生それぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、調査を進める。
授 業 計 画	初回授業時に、実地研究の方法と進め方について説明する。受講生各自が研究計画書を作成し、それについて議論を進めながら各自で研究を進めた上で、中間報告と最終報告を行う。授業実施形態については、オンラインとする。1. オリエンテーション 2. テーマ設定 3. 調査の計画 4~8. フィールドワーク 9. 中間発表 10~12. 調査データの分析と討論 13. 最終発表
授 業 の 方 法	受講生による研究報告と討論による。
成 績 評 価 方 法	中間報告、最終報告(レポート)によって評価する。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-303-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	教育行政研究論文指導(村上准教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-303-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	教育行政研究論文指導(村上准教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。オンラインで授業を行う予定であるが、1、2 回程度、対面で授業を実施する可能性がある。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの博士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。オンラインで授業を行う予定であるが、1、2 回程度、対面で授業を実施する可能性がある。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育行政研究論文指導(村上准教授)との共同の論文指導として実施する。
成 績 評 価 方 法	平常点による
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	・受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。・今年度はオンラインで実施するが、初回もしくは 4 月のいずれかの回において対面で授業実施する回を設ける。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	受講者と相談し、決定する。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育行政研究論文指導(村上准教授)との共同の論文指導として実施する。
成 績 評 価 方 法	平常点による。
教 科 書	特になし。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	・受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。・今年度はオンラインで実施するが、初回もしくは 4 月のいずれかの回において対面で授業実施する回を設ける。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-303-22	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	浅井 幸子、草薨 佳奈子				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	レッスンスタディと教師研究 Research on lesson study as professional development of teachers				

授業の目標・概要	本授業では、レッスンスタディ(授業研究)を切り口として、日本と海外(主にインドネシア)の教師研究について理解を深める。レッスンスタディは日本発の教師の専門性向上のためのモデルとして、世界 60 カ国以上で実践されている。教育移転においては、ある国の教育モデルが「ベストプラクティス」として他国へ輸出・輸入される。しかし、日本の学校風土で生まれ受け継がれてきた授業研究が、海外でレッスンスタディとして実践された際、教師の協働や生徒の学びを改善する実践に必ずしもなるわけでない。本授業では、海外のレッスンスタディの事例を基に、教育実践を社会的行為として捉え、日本と海外の教師研究について理解を深める。レッスンスタディというレンズを通して、教師文化と教師の役割、同僚性、教師の専門性など、教師研究をテーマに探求することを目的とする。また比較研究や教師研究の研究手法や論文執筆の方法についても取り上げる。
授 業 計 画	1回・2 回: 日本の授業研究と教育移転としてのレッスンスタディ 3 回・4 回: 海外のレッスンスタディ研究 5 回・6 回: 教師文化と教師の役割 7 回・8 回: フィールドワークの視点: 研究者と実践者の関わり 9 回・10 回: 教師の同僚性 11 回・12 回: 教師の専門性 13 回: まとめ
授 業 の 方 法	日本語・英語の文献を複数選び、回ごとに担当者を決めて発表を行う。また、発表者以外は、感想・意見・疑問点などをまとめ、事前に ITC-LMS を通じて提出すること。授業日には、事前課題を基に議論を行う。
成 績 評 価 方 法	授業内課題(発表含む)50%、レポート 50%
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	毎回の出席、事前課題の提出と積極的な議論への参加を求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	削除
viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧	削除
ix. 地図	削除